

# 野村日本債券インデックス (野村SMA向け)

追加型投信 国内 債券 インデックス型

## 【投資信託説明書（請求目論見書）】

(2024年4月16日)

この目論見書により行なう野村日本債券インデックス(野村SMA向け)の募集については、発行者である野村アセットマネジメント株式会社(委託会社)は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第5条の規定により有価証券届出書を2023年10月16日に関東財務局長に提出しており、2023年10月17日にその効力が生じております。

本書は、金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書であり、投資家の請求により交付される請求目論見書です。

【発行者名】	: 野村アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	: CEO兼代表取締役社長 小池 広靖
【本店の所在の場所】	: 東京都江東区豊洲二丁目2番1号
【縦覧に供する場所】	: 該当事項はありません。

**NOMURA 野村アセットマネジメント**

## 目次

目次	2
第一部【証券情報】	3
(1)【ファンドの名称】	3
(2)【内国投資信託受益証券の形態等】	3
(3)【発行（売出）価額の総額】	3
(4)【発行（売出）価格】	3
(5)【申込手数料】	3
(6)【申込単位】	4
(7)【申込期間】	4
(8)【申込取扱場所】	4
(9)【払込期日】	4
(10)【払込取扱場所】	4
(11)【振替機関に関する事項】	4
(12)【その他】	4
第二部【ファンド情報】	5
第1【ファンドの状況】	5
1【ファンドの性格】	5
2【投資方針】	10
3【投資リスク】	19
4【手数料等及び税金】	22
5【運用状況】	25
第2【管理及び運営】	32
1【申込（販売）手続等】	32
2【換金（解約）手続等】	33
3【資産管理等の概要】	34
4【受益者の権利等】	36
第3【ファンドの経理状況】	38
1【財務諸表】	41
【中間財務諸表】	91
2【ファンドの現況】	99
第4【内国投資信託受益証券事務の概要】	100
第三部【委託会社等の情報】	101
第1【委託会社等の概況】	101
1【委託会社等の概況】	101
2【事業の内容及び営業の概況】	103
3【委託会社等の経理状況】	104
4【利害関係人との取引制限】	155
5【その他】	155
約款	156

## 第一部【証券情報】

### (1)【ファンドの名称】

野村日本債券インデックス（野村 SMA 向け）

（以下「ファンド」といいます。なお、「野村日本債券インデックス SMA」と称する場合があります。）

### (2)【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託・受益権（以下「受益権」といいます。）

なお、当初元本は1口当たり1円です。

#### ■信用格付■

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付はありません。また、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（「社振法」といいます。以下同じ。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託者である野村アセットマネジメント株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

### (3)【発行（売出）価額の総額】

2兆円を上限とします。

### (4)【発行（売出）価格】

取得申込日の基準価額\*とします。

なお、午後3時までに、取得申込みが行なわれかつ当該取得申込みにかかる販売会社所定の事務手続が完了したものを当日のお申込み分とします。

\*「基準価額」とは、純資産総額をその時の受益権口数で除して得た額をいいます。なお、ファンドにおいては1万口あたりの価額で表示されます。

ファンドの基準価額については下記の照会先までお問い合わせ下さい。

**野村アセットマネジメント株式会社**

サポートダイヤル 0120-753104（フリーダイヤル）

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

### (5)【申込手数料】

ありません。

(6) 【申込単位】

1円以上1円単位（当初元本1口=1円）

(7) 【申込期間】

2023年10月17日から2024年10月15日まで

\*なお、申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

ファンドの申込取扱場所(以下「販売会社」といいます。)については下記の照会先までお問い合わせ下さい。

**野村アセットマネジメント株式会社**

サポートダイヤル 0120-753104（フリーダイヤル）

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

(9) 【払込期日】

取得申込日から起算して5営業日目までに申込代金を申込みの販売会社にお支払いください。なお、販売会社が別に定める所定の方法により、上記の期日以前に申込代金をお支払いいただく場合があります。

各取得申込日の発行価額の総額は、各販売会社によって、追加信託が行なわれる日に、野村アセットマネジメント株式会社(「委託者」または「委託会社」といいます。)の指定する口座を経由して、野村信託銀行株式会社(「受託者」または「受託会社」といいます。)の指定するファンド口座に払い込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

申込代金は申込みの販売会社にお支払いください。払込取扱場所についてご不明の場合は、下記の照会先までお問い合わせ下さい。

**野村アセットマネジメント株式会社**

サポートダイヤル 0120-753104（フリーダイヤル）

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

(11) 【振替機関に関する事項】

ファンドの受益権に係る振替機関は下記の通りです。

**株式会社証券保管振替機構**

(12) 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドは、SMA（セパレトリー・マネージド・アカウント）に係る契約に基づいて、SMA 取引口座の資金を運用するためのファンドです。

◆わが国の公社債を実質的な主要投資対象\*とし、NOMURA-BPI 総合（NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス総合）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行ないます。

※ファンドは、「国内債券 NOMURA-BPI 総合 マザーファンド」を親投資信託（「マザーファンド」といいます。）とするファミリーファンド方式で運用します。「実質的な主要投資対象」とは、マザーファンドを通じて投資する、主要な投資対象という意味です。

##### ■信託金の限度額■

受益権の信託金限度額は、1 兆円です。ただし、受託者と合意のうえ、当該信託金限度額を変更することができます。

<商品分類>

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類は以下の通りです。  
 なお、ファンドに該当する商品分類及び属性区分は下記の表中に網掛け表示しております。

(野村日本債券インデックス (野村 SMA 向け) )

《商品分類表》

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	補足分類
単位型	国内	株式	インデックス型
追加型	海外	債券	
	内外	不動産投信	特殊型
		その他資産 ( )	
		資産複合	

《属性区分表》

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	対象インデックス
株式	年1回	グローバル		
一般	年2回	日本		日経 225
大型株	年4回	北米	ファミリーファンド	
中小型株	年6回	欧州		
債券	年6回 (隔月)	アジア		T O P I X
一般	年12回 (毎月)	オセアニア		
公債	日々	中南米	ファンド・オブ・ファンズ	
社債	その他 ( )	アフリカ		その他 (NOMURA- BPI 総合)
その他債券		中近東 (中東)		
クレジット属性 ( )		エマージング		
不動産投信				
その他資産 (投資信託証券 (債券 一般))				
資産複合 ( )				
資産配分固定型				
資産配分変更型				

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用されます。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（債券）とが異なります。

上記、商品分類及び属性区分の定義については、下記をご覧ください。

なお、下記一般社団法人投資信託協会のホームページでもご覧頂けます。

《一般社団法人投資信託協会インターネットホームページアドレス》 <http://www.toushin.or.jp/>

◆一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類及び属性区分は以下の通りです。(2023年1月19日現在)

#### <商品分類表定義>

[単位型投信・追加型投信の区分]

- (1) 単位型投信…当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいう。
- (2) 追加型投信…一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

[投資対象地域による区分]

- (1) 国内…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 海外…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 内外…目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

[投資対象資産による区分]

- (1) 株式…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 債券…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 不動産投信(リート)…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4) その他資産…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記(1)から(3)に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な収益の源泉となる資産の名称記載も可とする。
- (5) 資産複合…目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

[独立した区分]

- (1) MMF(マネー・マネージメント・ファンド)…MRF及びMMFの運営に関する規則(以下「MRF等規則」という。)に定めるMMFをいう。
- (2) MRF(マネー・リザーブ・ファンド)…MRF等規則に定めるMRFをいう。
- (3) ETF…投資信託及び投資法人に関する法律施行令(平成12年政令480号)第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法(昭和32年法律第26号)第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

[補足分類]

- (1) インデックス型…目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 特殊型…目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、下記の属性区分で特殊型の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外の小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

#### <属性区分表定義>

[投資対象資産による属性区分]

株式

- (1) 一般…次の大型株、中小型株属性にあてはまらないすべてのものをいう。
- (2) 大型株…目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。
- (3) 中小型株…目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

債券

- (1) 一般…次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらないすべてのものをいう。
- (2) 公債…目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債(地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。)に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- (3) 社債…目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- (4) その他債券…目論見書又は投資信託約款において、公債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- (5) 格付等クレジットによる属性…目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)の「発行体」による区分のほか、特に

クレジットに対して明確な記載があるものについては、上記(1)から(4)に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

不動産投信…これ以上の詳細な分類は行わないものとする。

その他資産…組入れている資産を記載するものとする。

資産複合…以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。

- (1) 資産配分固定型…目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。
- (2) 資産配分変更型…目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるもの若しくは固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

#### [決算頻度による属性区分]

- (1) 年1回…目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。
- (2) 年2回…目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。
- (3) 年4回…目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。
- (4) 年6回(隔月)…目論見書又は投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいう。
- (5) 年12回(毎月)…目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。
- (6) 日々…目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。
- (7) その他…上記属性にあてはまらないすべてのものをいう。

#### [投資対象地域による属性区分(重複使用可能)]

- (1) グローバル…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。
- (2) 日本…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 北米…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4) 欧州…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (5) アジア…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (6) オセアニア…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (7) 中南米…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (8) アフリカ…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (9) 中近東(中東)…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (10) エマージング…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域(新興成長国(地域))の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

#### [投資形態による属性区分]

- (1) ファミリーファンド…目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。
- (2) ファンド・オブ・ファンズ…「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

#### [為替ヘッジによる属性区分]

- (1) 為替ヘッジあり…目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。
- (2) 為替ヘッジなし…目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行なわない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

#### [インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分]

- (1) 日経225
- (2) TOPIX
- (3) その他の指数…上記指数にあてはまらないすべてのものをいう。

#### [特殊型]

- (1) ブル・ベア型…目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動(一定倍の連動若しくは逆連動を含む。)を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 条件付運用型…目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資又はその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果(基準価額、償還価額、収益分配金等)や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。

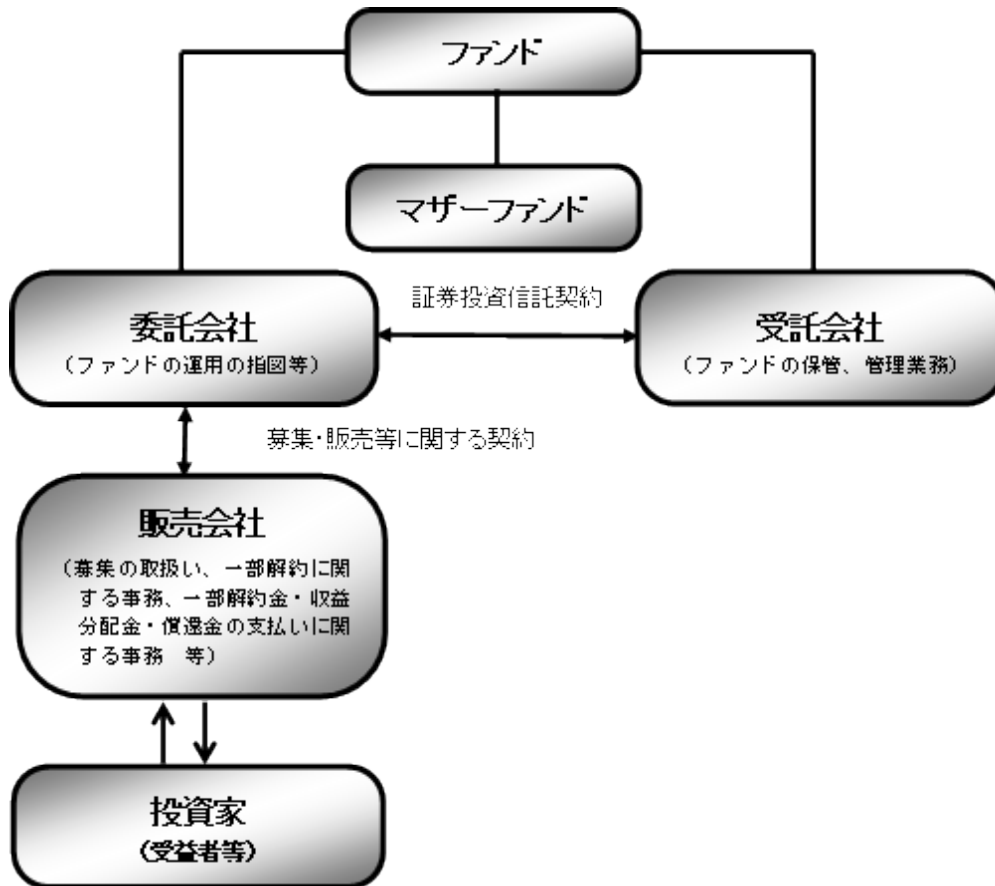


- (3) ロング・ショート型／絶対収益追求型…目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。
- (4) その他型…目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(3)に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

(2) 【ファンドの沿革】

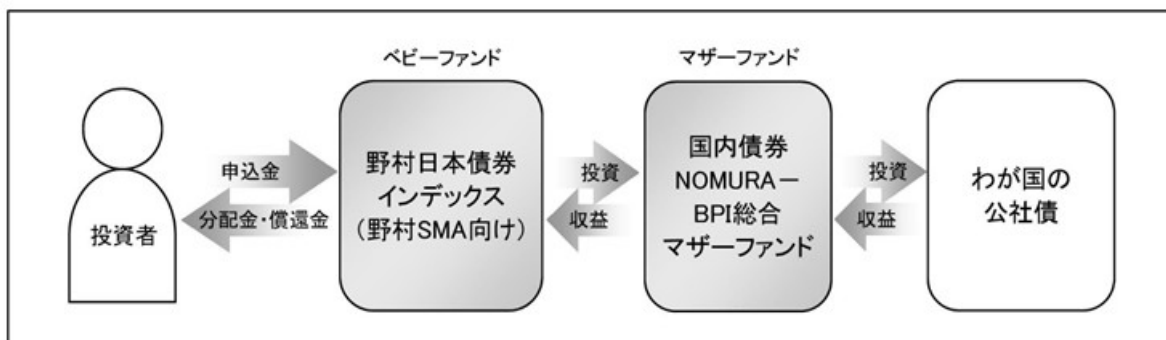
2010年7月30日 信託契約締結、ファンドの設定日、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】



ファンド	野村日本債券インデックス (野村 SMA 向け)
マザーファンド (親投資信託)	国内債券 NOMURA-BPI 総合 マザーファンド
委託会社(委託者)	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社(受託者)	野村信託銀行株式会社

●ファンドはマザーファンドを通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。



■委託会社の概況(2024年2月末現在)■

・名称

野村アセットマネジメント株式会社

・資本金の額

17,180 百万円

・会社の沿革

1959年12月1日

野村証券投資信託委託株式会社として設立

1997年10月1日

投資顧問会社である野村投資顧問株式会社と合併して野村アセット・マネジメント投信株式会社に商号を変更

2000年11月1日

野村アセットマネジメント株式会社に商号を変更

・大株主の状況

名称	住所	所有株式数	比率
野村ホールディングス株式会社	東京都中央区日本橋 1-13-1	5,150,693 株	100%

2【投資方針】

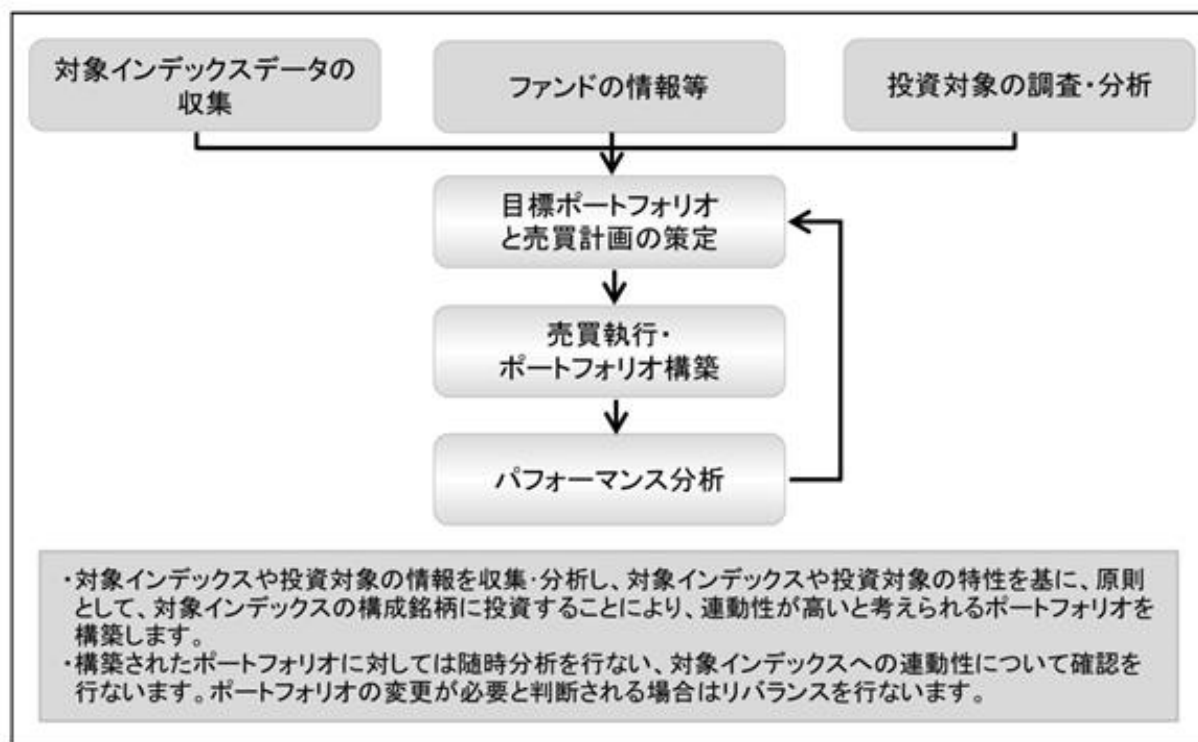
(1)【投資方針】

NOMURA-BPI 総合の動きに連動する投資成果を目指します。

■NOMURA-BPI 総合とは■

◆NOMURA-BPI 総合は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する、国内で発行された公募利付債券の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された債券ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。

## ■投資プロセス■



\* 上記の投資プロセスは、今後変更となる場合があります。

NOMURA-BPI 総合は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しております。また、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

## (2) 【投資対象】

ファンドは、わが国の公社債を実質的な主要投資対象とします。

ファンドは、親投資信託である「国内債券 NOMURA-BPI 総合 マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。なお、直接公社債等に投資する場合があります。

デリバティブの利用は、ヘッジ目的に限定します。

### ①投資の対象とする資産の種類(約款第 15 条)

この信託において投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第 2 条第 1 項で定めるものをいいます。以下同じ。）
  - イ. 有価証券
  - ロ. デリバティブ取引（金融商品取引法第 2 条第 20 項に規定するものをいい、下記「(5)投資制限 ⑦ および⑧」に定めるものに限ります。）に係る権利

- ハ. 約束手形（イに掲げるものに該当するものを除きます。）
- ニ. 金銭債権（イ及びハに掲げるものに該当するものを除きます。）

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

- イ. 為替手形

②有価証券の指図範囲(約款第 16 条第 1 項)

委託者は、信託金を、主として、野村アセットマネジメント株式会社を委託者とし、野村信託銀行株式会社を受託者として締結された親投資信託である国内債券 NOMURA-BPI 総合 マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法第 2 条第 2 項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除くものとし、本邦通貨表示のものに限ります。）に投資することを指図します。

1. 国債証券
2. 地方債証券
3. 特別の法律により法人の発行する債券
4. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券を除きます。）
5. 特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第 2 条第 1 項第 4 号で定めるものをいいます。）
6. 投資法人債券（金融商品取引法第 2 条第 1 項第 11 号で定めるものをいいます。）
7. 転換社債の転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債\*の新株予約権に限ります。）の行使により取得した株券  
※転換社債型新株予約権付社債とは、新株予約権付社債のうち会社法第 236 条第 1 項第 3 号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（会社法施行前の旧商法第 341 条ノ 3 第 1 項第 7 号および第 8 号の定めがある新株予約権付社債を含みます。）をいいます。
8. コマーシャル・ペーパー
9. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
10. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第 2 条第 1 項第 18 号で定めるものをいいます。）
11. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第 2 条第 1 項第 14 号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
12. 外国の者に対する権利で前号の有価証券に表示されるべき権利の性質を有するもの
13. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第 2 条第 1 項第 14 号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
14. 抵当証券（金融商品取引法第 2 条第 1 項第 16 号で定めるものをいいます。）

なお、第 7 号の証券または証書および第 9 号の証券または証書のうち第 7 号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第 1 号から第 6 号までの証券および第 9 号の証券または証書のうち第 1 号から第 6 号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

③金融商品の指図範囲(約款第 16 条第 2 項)

委託者は、信託金を、上記②に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第 2 条第 2 項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（上記「(2)投資対象 ②有価証券の指図範囲」に掲げるものを除く。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって、金融商品取引法第 2 条第 2 項第 1 号で定めるもの

6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

④その他の投資対象

1. 先物取引等
2. スワップ取引

(参考)マザーファンドの概要

「国内債券 NOMURA-BPI 総合 マザーファンド」

## 運用の基本方針

約款第 13 条に基づき委託者の定める方針は、次のものとします。

### 1. 基本方針

この投資信託は、NOMURA-BPI 総合（NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス総合）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行ないます。

### 2. 運用方法

#### (1) 投資対象

わが国の公社債を主要投資対象とします。

#### (2) 投資態度

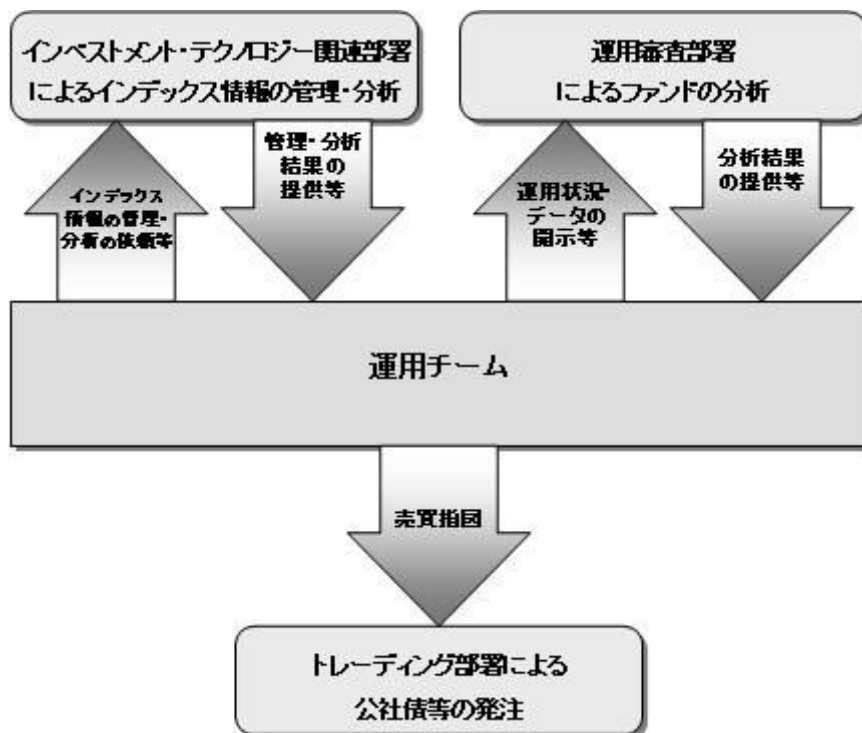
- ① 主としてわが国の公社債に投資することにより、NOMURA-BPI 総合の動きに連動する投資成果を目指します。
- ② 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

#### (3) 投資制限

- ① 株式への投資は行ないません。
- ② 外貨建資産への投資は行ないません。
- ③ 有価証券先物取引等は約款第 14 条の範囲で行ないます。
- ④ スワップ取引は約款第 15 条の範囲で行ないます。
- ⑤ 一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等（同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。）の利用は行ないません。
- ⑥ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ 10%、合計で 20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

### (3) 【運用体制】

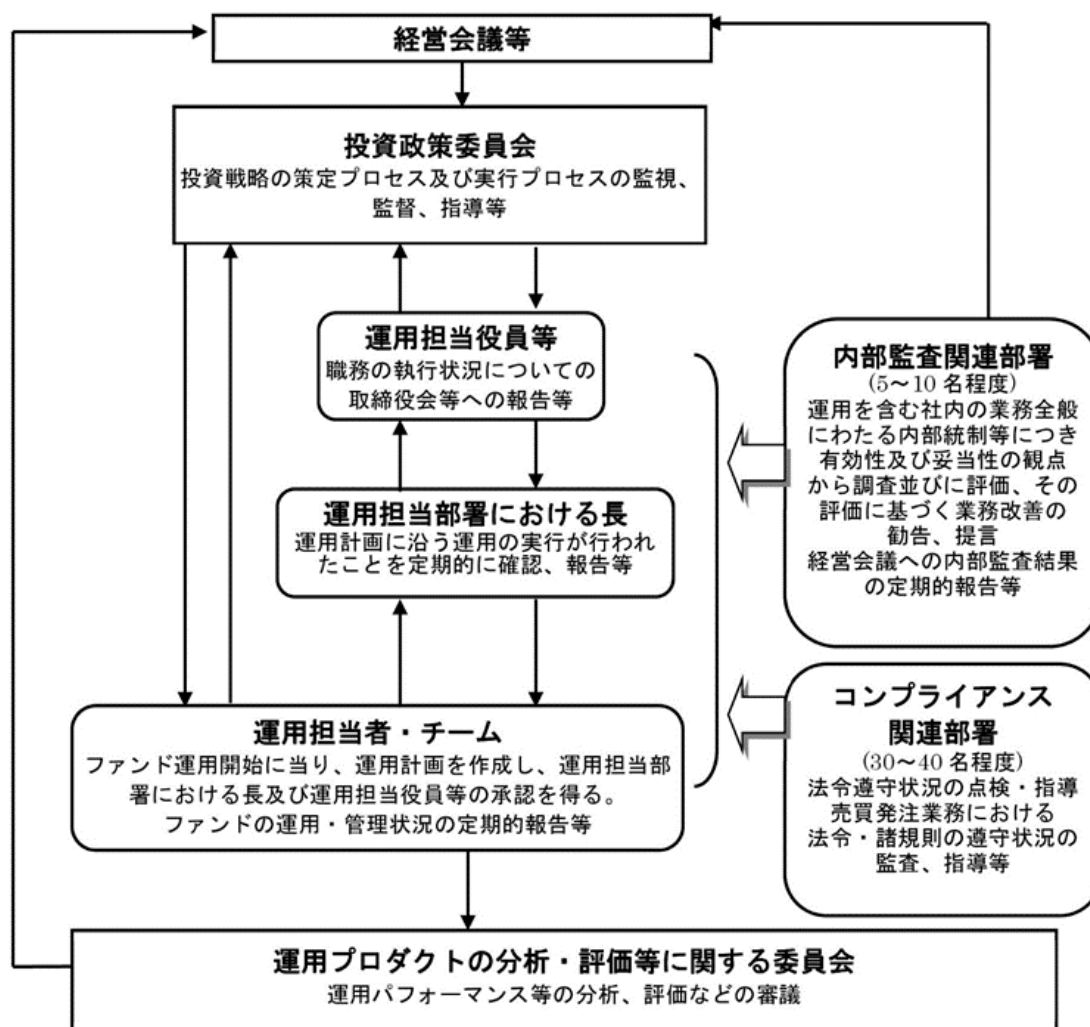
ファンドの運用体制は以下の通りです。



※運用体制はマザーファンドを含め記載されております。

当社では、ファンドの運用に関する社内規程として、運用担当者に関する規程並びにスワップ取引、信用リスク管理、資金の借入、外国為替の予約取引等、信用取引等に関して各々、取扱い基準を設けております。

ファンドを含む委託会社における投資信託の内部管理及び意思決定を監督する組織等は以下の通りです。



《委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制等》

当社では、「受託会社」または受託会社の再信託先に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っています。また、受託業務の内部統制の有効性についての監査人による報告書を、受託会社より受け取っております。

運用の外部委託を行う場合、「運用の外部委託先」に対しては、外部委託先が行った日々の約定について、投資ガイドラインに沿ったものであるかを確認しています。また、コンプライアンスレポートの提出を義務付け、定期的に管理状況に関する報告を受けています。さらに、外部委託先の管理体制、コンプライアンス体制等について調査ならびに評価を行い、定期的に商品に関する委員会に報告しています。

ファンドの運用体制等は今後変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行いません。

- ① 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ② 収益分配金額は、上記①の範囲内で基準価額水準等を勘案して委託者が決定します。
- ③ 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行いません。

※利子・配当等収益とは、配当金、利子、貸付有価証券に係る品貸料およびこれ等に類する収益から支払利

息を控除した額で、諸経費、監査費用、当該監査費用に係る消費税等に相当する金額、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除した後その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。

※売買益とは、売買損益に評価損益を加減した利益金額で、諸経費、監査費用、当該監査費用に係る消費税等に相当する金額、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

※毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

#### ◆ファンドの決算日

原則として毎年7月20日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。

#### ◆分配金のお支払い

分配金は税引き後無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

なお、お客様と販売会社とのご契約によっては、再投資が行なわれない場合があります。

#### (5)【投資制限】

##### ①株式への投資割合(運用の基本方針 2 運用方法 (3)投資制限)

株式への直接投資は行ないません。株式への投資は、転換社債を転換および新株予約権(転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限り)を行使したものに限り、株式への投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。

##### ②外貨建資産への投資割合(運用の基本方針 2 運用方法 (3)投資制限)

外貨建資産への投資は行ないません。

##### ③デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等(同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。)の利用は行ないません。

(運用の基本方針 2 運用方法 (3)投資制限)

##### ④同一銘柄の株式への投資割合(運用の基本方針 2 運用方法 (3)投資制限)

同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

##### ⑤同一銘柄の転換社債等への投資割合(運用の基本方針 2 運用方法 (3)投資制限)

同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

##### ⑥投資する株式の範囲(約款第19条)

(i) 委託者が投資することを指図する株式は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式については、この限りではありません。

(ii) 上記(i)の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託者が投資することを指図することができるものとします。



#### ⑦先物取引等の運用指図・目的・範囲(約款第21条)

(i) 委託者は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ。)、および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。)ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行なうことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします(以下同じ。)

1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券(以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額(組入ヘッジ対象有価証券を差し引いた額)に信託財産が限月までに受取る組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券、組入貸付債権信託受益権、組入抵当証券および組入指定金銭信託の受益証券の利払金および償還金を加えた額を限度とし、且つ信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに上記「(2)投資対象 ③金融商品の指図範囲」第1号から第4号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

(ii) 委託者は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるわが国の金利に係るこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行なうことの指図をすることができます。

1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象とする金利商品(信託財産が1年以内に受け取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに上記「(2)投資対象 ③金融商品の指図範囲」第1号から第4号に掲げる金融商品で運用されているものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに上記「(2)投資対象 ③金融商品の指図範囲」第1号から第4号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、支払いプレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、且つ本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

#### ⑧スワップ取引の運用指図・目的・範囲(約款第22条)

(i) 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用および価格変動リスクを回避するため、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行なうことの指図をすることができます。

(ii) スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

(iii) スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額(以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。以下本項において同じ。)が、信託財産の

純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

(iv) 上記(iii)においてマザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

(v) スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が提示する価額、価格情報会社が提供する価額等、法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って評価するものとします。

(vi) 委託者は、スワップ取引を行なうにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行なうものとします。

#### ⑨ 有価証券の貸付の指図および範囲(約款第 24 条)

(i) 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲内で貸付の指図をすることができます。

1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の 50%を超えないものとします。
2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の 50%を超えないものとします。

(ii) 上記(i)に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

(iii) 委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行なうものとします。

#### ⑩ 公社債の借入れ(約款第 25 条)

(i) 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行なうにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行なうものとします。

(ii) 上記(i)の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

(iii) 信託財産の一部解約等の事由により、上記(ii)の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

(iv) 上記(i)の借入れにかかる品貸料は信託財産中から支弁します。

#### ⑪ 資金の借入れ(約款第 31 条)

(i) 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとします。

(ii) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が 5 営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行なう日における信託財産の純資産総額の 10%を超え

ないこととします。

(iii) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

(iv) 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

⑫ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。(運用の基本方針 2 運用方法 (3) 投資制限)

### 3 【投資リスク】

#### 《基準価額の変動要因》

ファンドの基準価額は、投資を行なっている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

したがって、ファンドにおいて、投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

#### [債券価格変動リスク]

◆ 債券（公社債等）は、市場金利や信用度の変動により価格が変動します。ファンドは実質的に債券に投資を行なわないので、これらの影響を受けます。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

#### 《その他の留意点》

- ◆ ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ◆ ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止等となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性等があります。
- ◆ 資金動向、市況動向等によっては、また、不慮の出来事等が起きた場合には、投資方針に沿った運用ができない場合があります。
- ◆ ファンドが実質的に組み入れる有価証券の発行体において、利払いや償還金の支払いが遅延する可能性があります。
- ◆ 有価証券への投資等ファンドにかかる取引にあたっては、取引の相手方の倒産等により契約が不履行になる可能性があります。
- ◆ ファンドの基準価額と対象インデックスは、費用等の要因により、完全に一致するものではありません。また、ファンドの投資成果が対象インデックスとの連動または上回ることを保証するものではありません。
- ◆ 投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金変動等に伴う売買等が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。
- ◆ ファンドは、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。  
投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本）の状況によっては、分配金額の一部また

は全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。

分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

## 《委託会社におけるリスクマネジメント体制》

### リスク管理関連の委員会

#### ◆パフォーマンスの考査

投資信託の信託財産についてパフォーマンスに基づいた定期的な考査（分析、評価）の結果の報告、審議を行ないます。

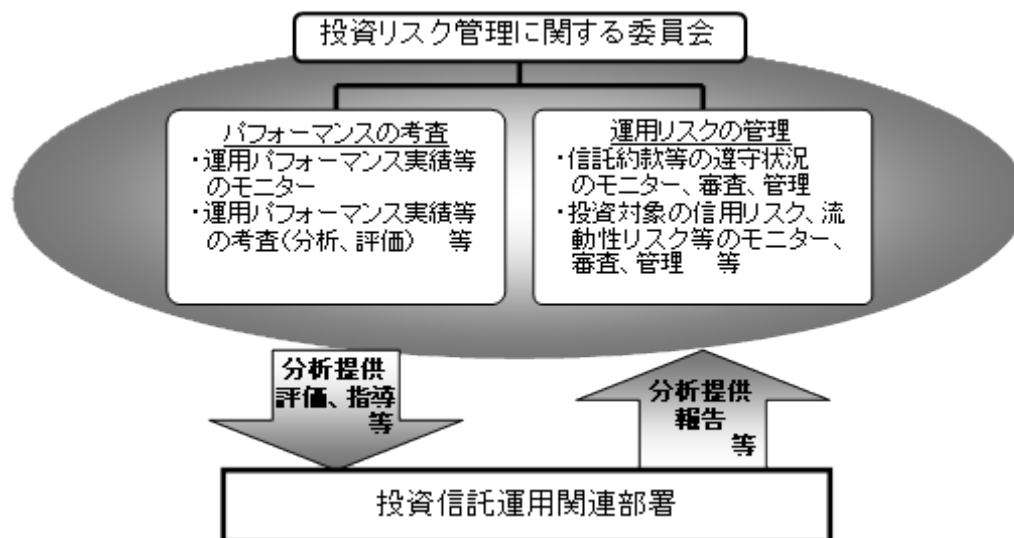
#### ◆運用リスクの管理

投資信託の信託財産の運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用部門その他関連部署への是正勧告を行なうことにより、適切な管理を行ないます。

#### ※流動性リスク管理について

流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行ないます。リスク管理関連の委員会が、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。

### リスク管理体制図



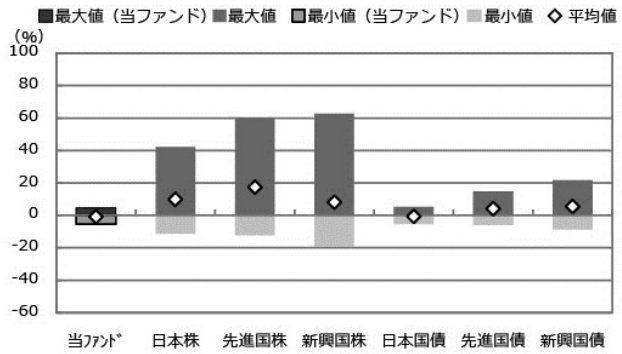
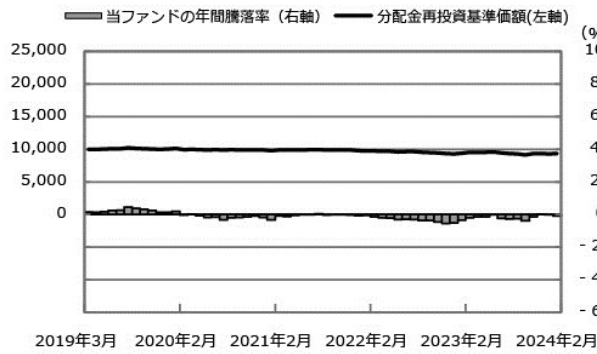
※投資リスクに関する管理体制等は今後変更となる場合があります。

# リスクの定量的比較

(2019年3月末～2024年2月末:月次)

## (ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移)

## (ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較)



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値 (%)	4.6	42.1	59.8	62.7	5.4	14.8	21.5
最小値 (%)	△ 5.5	△ 11.4	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値 (%)	△ 0.9	9.9	17.3	8.0	△ 0.7	4.1	5.6

- \* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。2019年3月末を10,000として指数化しております。
- \* 年間騰落率は、2019年3月から2024年2月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

- \* 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- \* 2019年3月から2024年2月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- \* 決算日に対応した数値とは異なります。
- \* 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

### <代表的な資産クラスの指数>

- 日本株: 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
- 先進国株: MSCI-KOKUSAI指数 (配当込み、円ベース)
- 新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
- 日本国債: NOMURA-BPI国債
- 先進国債: FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)
- 新興国債: JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

### ■代表的な資産クラスの指数の著作権等について■

- 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)・・・配当込みTOPIX (「東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)」)といひます。)の指数値及び東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)に係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」といひます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)に係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
- MSCI-KOKUSAI指数 (配当込み、円ベース)、MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)・・・MSCI-KOKUSAI指数 (配当込み、円ベース)、MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- NOMURA-BPI国債・・・NOMURA-BPI国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行われる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。
- FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)・・・FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)・・・「JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)」(ここでは「指数」といひます)についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスは法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社 (以下、JPM) がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPMやその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。米国のJ.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMSLLC」といひます) (「指数スポンサー」)は、指数に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」といひます) についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。JPMSLLCはNASDAQ、NYSE、SIPCの会員です。JPMorganはJP Morgan Chase Bank, NA, JPMS, J.P. Morgan Securities PLC、またはその関係会社が投資銀行業務を行う際に使用する名称です。

(出所: 株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC (他))

#### 4 【手数料等及び税金】

##### (1) 【申込手数料】

申込手数料はありません。

##### (2) 【換金（解約）手数料】

換金手数料はありません。

##### (3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年 0.253%（税抜年 0.23%）を乗じて得た額とし、その配分については次の通り（税抜）とします。

<委託会社>	<販売会社>	<受託会社>
年 0.15%	年 0.05%	年 0.03%

ファンドの信託報酬は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の 6 ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。

##### 《支払先の役務の内容》

<委託会社>	<販売会社>	<受託会社>
ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等

##### (4) 【その他の手数料等】

- ① ファンドにおいて一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入れの指図を行なった場合、当該借入金の利息はファンドから支払われます。
- ② ファンドに関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、ファンドから支払われます。
- ③ ファンドに関する組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、売買委託手数料に係る消費税等に相当する金額、先物取引・オプション取引等に要する費用はファンドから支払われます。
- ④ 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用および当該監査費用に係る消費税等に相当する金額は、信託報酬支払いのときにファンドから支払われます。
- ⑤ ファンドにおいて一部解約の実行に伴い、信託財産留保額\*をご負担いただきます。信託財産留保額は、基準価額に 0.1%の率を乗じて得た額を 1 口あたりに換算して、換金する口数に応じてご負担いただきます。

※「信託財産留保額」とは、償還時まで投資を続ける投資家との公平性の確保やファンド残高の安定的な推移を図るため、クローズド期間の有無に関係なく、信託期間満了前の解約に対し解約者から徴収する一定の金額をいい、信託財産に繰り入れられます。

\*これらの費用等の中には、運用状況等により変動するものがあり、事前に料率、上限額等を表示することができ

ないものがあります。

## (5) 【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取扱われます。

### ■個人、法人別の課税について■

#### ◆個人の投資家に対する課税

##### <収益分配金に対する課税>

分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315% (国税(所得税及び復興特別所得税)15.315% および地方税5%)の税率による源泉徴収が行なわれます。なお、確定申告により、申告分離課税もしくは総合課税のいずれかを選択することもできます。

なお、配当控除は適用されません。

##### <換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対する課税>

換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)については、申告分離課税により20.315% (国税15.315% および地方税5%)の税率が適用され、源泉徴収口座を選択した場合は20.315%の税率により源泉徴収が行なわれます。

#### 《損益通算について》

以下の所得間で損益通算が可能です。上場株式等の配当所得については申告分離課税を選択したものに限りま

す。

《利子所得》	《上場株式等に係る譲渡所得等》(注2)	《配当所得》
・ 特定公社債(注1)の利子 ・ 公募公社債投資信託の収益分配金	特定公社債、公募公社債投資信託、上場株式、公募株式投資信託の ・ 譲渡益 ・ 譲渡損	・ 上場株式の配当 ・ 公募株式投資信託の収益分配金

(注1) 「特定公社債」とは、国債、地方債、外国国債、公募公社債、上場公社債、2015年12月31日以前に発行された公社債(同族会社が発行した社債を除きます。)などの一定の公社債をいいます。

(注2) 株式等に係る譲渡所得等について、上場株式等に係る譲渡所得等とそれ以外の株式等に係る譲渡所得等に区分し、別々の分離課税制度とすることとされ、原則として、これら相互の通算等ができないこととされました。

#### ◆法人の投資家に対する課税

分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の個別元本超過額については、15.315% (国税15.315%)の税率で源泉徴収\*が行なわれます。なお、地方税の源泉徴収はありません。

※源泉税は所有期間に応じて法人税額から控除

税金の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

### ■換金(解約)時および償還時の課税について■

#### [個人の投資家の場合]

換金(解約)時および償還時の差益\*については、譲渡所得とみなして課税が行われます。

※換金(解約)時および償還時の価額から取得費(申込手数料(税込)を含む)を控除した利益を譲渡益として課税対象となります。

#### [法人の投資家の場合]

換金(解約)時および償還時の個別元本超過額が源泉徴収の対象(配当所得)となります。

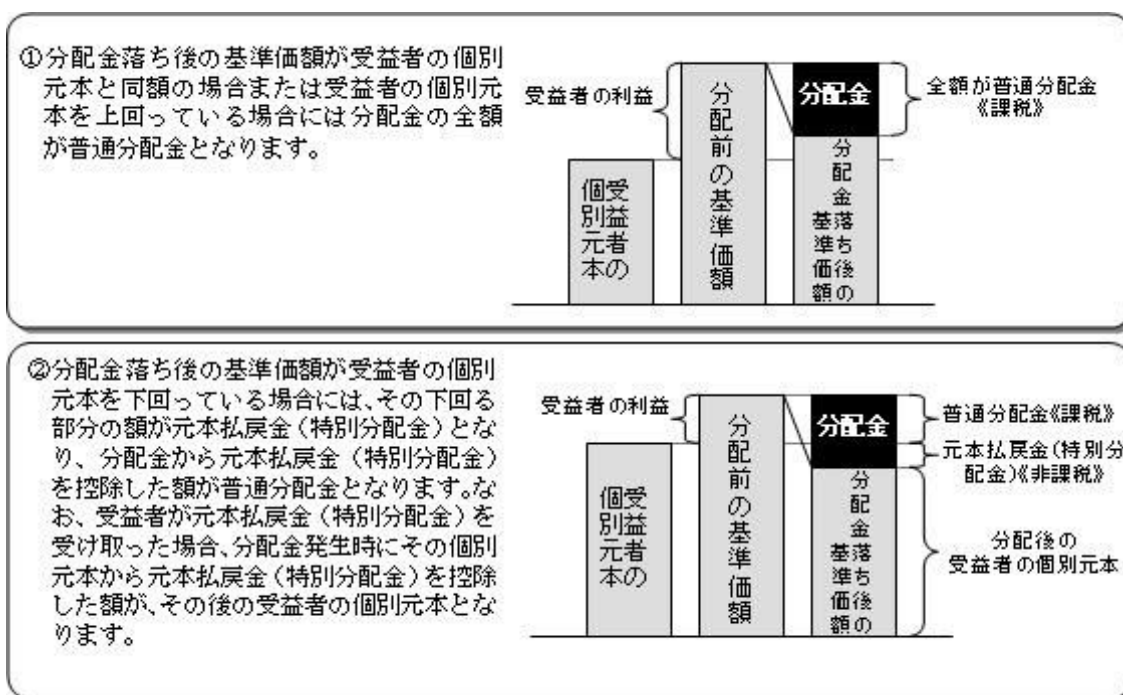
なお、販売会社の買取りによるご換金の場合は、税金の取扱いが異なる場合があります。買取りによるご換金について、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

■個別元本について■

- ◆追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本をいいます。
- ◆受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合や受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合などには、当該受益者の個別元本が変わりますので、詳しくは販売会社へお問い合わせください。

■分配金の課税について■

- ◆分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）があります。



※上図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆するものではありません。

※上記は2024年2月末現在の情報に基づくものですので、税法が改正された場合等には、内容が変更される場合があります。



## ■(参考情報)ファンドの総経費率

(単位:%)

	総経費率(①+②)	①運用管理費用の比率	②その他費用の比率
ファンド	0.26	0.26	0.00

(2022年7月21日～2023年7月20日)

- \* 総経費率の算出にあたっては、作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。消費税等のかかるものは消費税等を含む。)を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除しています。
- \* 交付運用報告書に記載している1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
- \* 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
- \* 各比率は、年率換算した値です。
- \* マザーファンドが支払った費用を含みます。
- \* その他費用には、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用が含まれます。
- \* 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。
- \* 最新の詳細費用につきましては、委託会社ホームページに掲載している交付運用報告書をご覧ください。

### 5【運用状況】

以下は2024年2月29日現在の運用状況であります。

また、投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

#### (1)【投資状況】

野村日本債券インデックス(野村SMA向け)

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	11,948,324,921	99.98
現金・預金・その他資産(負債控除後)	—	1,196,070	0.01
合計(純資産総額)		11,949,520,991	100.00

(参考)国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
国債証券	日本	935,550,148,850	83.16
地方債証券	日本	60,133,137,326	5.34
特殊債証券	日本	75,373,386,450	6.70
社債証券	日本	50,125,625,400	4.45
現金・預金・その他資産(負債控除後)	—	3,764,586,924	0.33
合計(純資産総額)		1,124,946,884,950	100.00

#### (2)【投資資産】

##### ①【投資有価証券の主要銘柄】

野村日本債券インデックス(野村SMA向け)

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価単価(円)	簿価金額(円)	評価単価(円)	評価金額(円)	投資比率(%)
1	日本	親投資信託受益証券	国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド	9,476,028,965	1.2840	12,167,221,192	1.2609	11,948,324,921	99.98

種類別及び業種別投資比率

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.98
合計	99.98

(参考) 国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価単価(円)	簿価金額(円)	評価単価(円)	評価金額(円)	利率(%)	償還期限	投資比率(%)
1	日本	国債証券	国庫債券 利付(2年)第452回	27,000,000,000	99.93	26,983,170,000	99.82	26,953,290,000	0.005	2025/9/1	2.39
2	日本	国債証券	国庫債券 利付(2年)第453回	22,000,000,000	99.82	21,961,565,000	99.78	21,952,920,000	0.005	2025/10/1	1.95
3	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第370回	16,000,000,000	99.58	15,933,540,000	98.84	15,815,040,000	0.5	2033/3/20	1.40
4	日本	国債証券	国庫債券 利付(5年)第162回	13,000,000,000	99.64	12,954,480,000	99.82	12,976,600,000	0.3	2028/9/20	1.15
5	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第348回	13,000,000,000	99.98	12,997,516,000	99.50	12,935,780,000	0.1	2027/9/20	1.14
6	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第360回	13,000,000,000	98.35	12,785,665,000	97.95	12,734,540,000	0.1	2030/9/20	1.13
7	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第369回	12,500,000,000	100.38	12,548,000,000	99.03	12,379,875,000	0.5	2032/12/20	1.10
8	日本	国債証券	国庫債券 利付(2年)第455回	12,000,000,000	99.95	11,994,360,000	99.72	11,966,400,000	0.005	2025/12/1	1.06
9	日本	国債証券	国庫債券 利付(5年)第157回	12,000,000,000	100.33	12,040,380,000	99.61	11,954,280,000	0.2	2028/3/20	1.06
10	日本	国債証券	国庫債券 利付(5年)第154回	12,000,000,000	99.86	11,984,230,000	99.50	11,940,720,000	0.1	2027/9/20	1.06
11	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第363回	12,050,000,000	97.61	11,762,288,000	97.24	11,718,504,500	0.1	2031/6/20	1.04
12	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第350回	11,650,000,000	99.94	11,643,691,000	99.21	11,559,013,500	0.1	2028/3/20	1.02
13	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第366回	10,500,000,000	97.89	10,279,423,000	97.26	10,212,615,000	0.2	2032/3/20	0.90
14	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第367回	10,500,000,000	98.49	10,341,700,000	97.02	10,187,835,000	0.2	2032/6/20	0.90
15	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第347回	10,000,000,000	99.91	9,991,000,000	99.62	9,962,200,000	0.1	2027/6/20	0.88
16	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第368回	10,000,000,000	97.87	9,787,185,000	96.74	9,674,400,000	0.2	2032/9/20	0.85
17	日本	国債証券	国庫債券 利付(5年)第163回	9,500,000,000	100.40	9,538,760,000	100.24	9,523,370,000	0.4	2028/9/20	0.84
18	日本	国債証券	国庫債券 利付(10年)第351回	9,500,000,000	99.83	9,484,420,000	99.08	9,413,170,000	0.1	2028/6/20	0.83

19	日本	国債証券	国庫債券 利付 (10年) 第3 65回	9,500,000,000	97.20	9,234,328,000	96.70	9,186,880,000	0.1	2031/12/20	0.81
20	日本	国債証券	国庫債券 利付 (5年) 第16 5回	9,000,000,000	99.69	8,972,370,000	99.69	8,972,370,000	0.3	2028/12/20	0.79
21	日本	国債証券	国庫債券 利付 (5年) 第15 3回	9,000,000,000	99.76	8,978,600,000	99.31	8,937,990,000	0.005	2027/6/20	0.79
22	日本	国債証券	国庫債券 利付 (10年) 第3 52回	9,000,000,000	99.63	8,967,210,000	98.92	8,903,070,000	0.1	2028/9/20	0.79
23	日本	国債証券	国庫債券 利付 (10年) 第3 71回	9,000,000,000	97.18	8,746,745,000	97.72	8,794,800,000	0.4	2033/6/20	0.78
24	日本	国債証券	国庫債券 利付 (10年) 第3 64回	9,050,000,000	97.46	8,820,177,000	96.94	8,773,613,000	0.1	2031/9/20	0.77
25	日本	国債証券	国庫債券 利付 (10年) 第3 72回	8,500,000,000	100.73	8,562,543,000	101.12	8,595,370,000	0.8	2033/9/20	0.76
26	日本	国債証券	国庫債券 利付 (10年) 第3 62回	8,500,000,000	98.44	8,367,400,000	97.54	8,290,985,000	0.1	2031/3/20	0.73
27	日本	国債証券	国庫債券 利付 (10年) 第3 73回	8,000,000,000	98.87	7,909,810,000	98.99	7,919,280,000	0.6	2033/12/20	0.70
28	日本	国債証券	国庫債券 利付 (10年) 第3 61回	8,000,000,000	98.15	7,852,110,000	97.75	7,820,240,000	0.1	2030/12/20	0.69
29	日本	国債証券	国庫債券 利付 (20年) 第1 86回	7,500,000,000	100.95	7,571,705,000	101.22	7,591,800,000	1.5	2043/9/20	0.67
30	日本	国債証券	国庫債券 利付 (10年) 第3 49回	7,500,000,000	99.75	7,481,327,000	99.37	7,453,350,000	0.1	2027/12/20	0.66

種類別及び業種別投資比率

種類	投資比率(%)
国債証券	83.16
地方債証券	5.34
特殊債券	6.70
社債券	4.45
合計	99.66

②【投資不動産物件】

野村日本債券インデックス（野村SMA向け）

該当事項はありません。

（参考）国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

野村日本債券インデックス（野村SMA向け）

該当事項はありません。

該当事項はありません。

### (3) 【運用実績】

#### ① 【純資産の推移】

野村日本債券インデックス（野村SMA向け）

2024年2月末日及び同日前1年以内における各月末並びに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第4計算期間 (2014年7月22日)	23,735	23,746	1.0668	1.0673
第5計算期間 (2015年7月21日)	28,754	28,767	1.0856	1.0861
第6計算期間 (2016年7月20日)	23,918	23,929	1.1663	1.1668
第7計算期間 (2017年7月20日)	18,304	18,312	1.1264	1.1269
第8計算期間 (2018年7月20日)	15,945	15,952	1.1381	1.1386
第9計算期間 (2019年7月22日)	14,470	14,476	1.1617	1.1622
第10計算期間 (2020年7月20日)	14,386	14,392	1.1419	1.1424
第11計算期間 (2021年7月20日)	13,681	13,687	1.1451	1.1456
第12計算期間 (2022年7月20日)	12,840	12,845	1.1035	1.1040
第13計算期間 (2023年7月20日)	12,599	12,605	1.0950	1.0955
2023年2月末日	12,308	—	1.0834	—
3月末日	12,416	—	1.0983	—
4月末日	12,447	—	1.1010	—
5月末日	12,428	—	1.0999	—
6月末日	12,685	—	1.1024	—
7月末日	12,485	—	1.0847	—
8月末日	12,430	—	1.0767	—
9月末日	12,388	—	1.0688	—
10月末日	12,187	—	1.0515	—
11月末日	12,438	—	1.0735	—
12月末日	12,485	—	1.0778	—
2024年1月末日	11,917	—	1.0698	—
2月末日	11,949	—	1.0730	—

#### ② 【分配の推移】

野村日本債券インデックス（野村SMA向け）

	計算期間	1口当たりの分配金
--	------	-----------

第4計算期間	2013年7月23日～2014年7月22日	0.0005円
第5計算期間	2014年7月23日～2015年7月21日	0.0005円
第6計算期間	2015年7月22日～2016年7月20日	0.0005円
第7計算期間	2016年7月21日～2017年7月20日	0.0005円
第8計算期間	2017年7月21日～2018年7月20日	0.0005円
第9計算期間	2018年7月21日～2019年7月22日	0.0005円
第10計算期間	2019年7月23日～2020年7月20日	0.0005円
第11計算期間	2020年7月21日～2021年7月20日	0.0005円
第12計算期間	2021年7月21日～2022年7月20日	0.0005円
第13計算期間	2022年7月21日～2023年7月20日	0.0005円

### ③【収益率の推移】

#### 野村日本債券インデックス（野村SMA向け）

	計算期間	収益率
第4計算期間	2013年7月23日～2014年7月22日	2.6%
第5計算期間	2014年7月23日～2015年7月21日	1.8%
第6計算期間	2015年7月22日～2016年7月20日	7.5%
第7計算期間	2016年7月21日～2017年7月20日	△3.4%
第8計算期間	2017年7月21日～2018年7月20日	1.1%
第9計算期間	2018年7月21日～2019年7月22日	2.1%
第10計算期間	2019年7月23日～2020年7月20日	△1.7%
第11計算期間	2020年7月21日～2021年7月20日	0.3%
第12計算期間	2021年7月21日～2022年7月20日	△3.6%
第13計算期間	2022年7月21日～2023年7月20日	△0.7%
第14期（中間期）	2023年7月21日～2024年1月20日	△1.8%

※各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数を記載しております。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

### （4）【設定及び解約の実績】

#### 野村日本債券インデックス（野村SMA向け）

	計算期間	設定口数	解約口数	発行済み口数
第4計算期間	2013年7月23日～2014年7月22日	15,800,495,571	10,148,385,915	22,249,463,805
第5計算期間	2014年7月23日～2015年7月21日	13,708,704,457	9,472,508,410	26,485,659,852
第6計算期間	2015年7月22日～2016年7月20日	2,381,875,269	8,360,047,426	20,507,487,695
第7計算期間	2016年7月21日～2017年7月20日	2,518,385,773	6,775,817,124	16,250,056,344
第8計算期間	2017年7月21日～2018年7月20日	5,856,130,357	8,096,108,033	14,010,078,668
第9計算期間	2018年7月21日～2019年7月22日	395,663,355	1,949,381,599	12,456,360,424
第10計算期間	2019年7月23日～2020年7月20日	1,507,146,468	1,364,953,247	12,598,553,645
第11計算期間	2020年7月21日～2021年7月20日	1,541,264,403	2,191,848,835	11,947,969,213

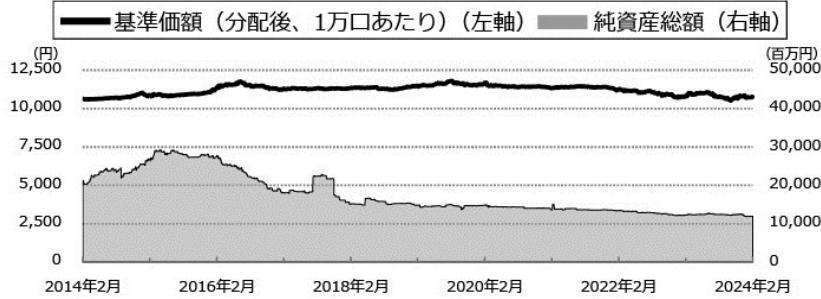
第12計算期間	2021年7月21日～2022年7月20日	39,518,918	352,060,634	11,635,427,497
第13計算期間	2022年7月21日～2023年7月20日	254,316,891	383,198,180	11,506,546,208
第14期(中間期)	2023年7月21日～2024年1月20日	91,688,177	501,112,187	11,097,122,198

※本邦外における設定及び解約の実績はありません。

## 運用実績 (2024年2月29日現在)

### 基準価額・純資産の推移

(日次)



### 分配の推移

(1万口あたり、課税前)

2023年7月	5 円
2022年7月	5 円
2021年7月	5 円
2020年7月	5 円
2019年7月	5 円
設定来累計	65 円

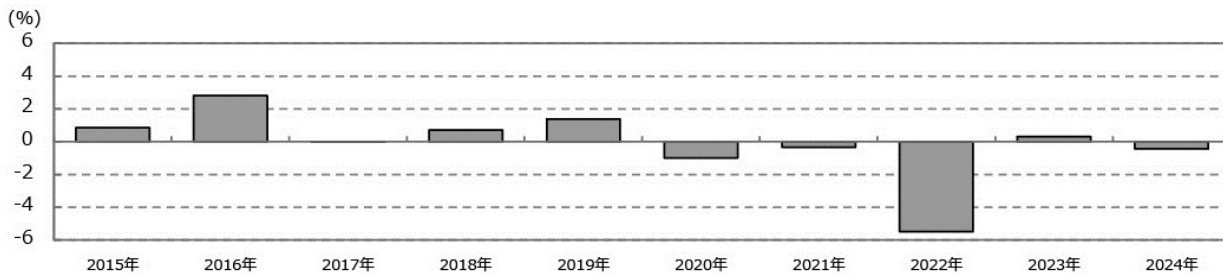
### 主要な資産の状況

実質的な銘柄別投資比率(上位)

順位	銘柄	種類	投資比率(%)
1	国庫債券 利付(2年)第452回	国債証券	2.4
2	国庫債券 利付(2年)第453回	国債証券	1.9
3	国庫債券 利付(10年)第370回	国債証券	1.4
4	国庫債券 利付(5年)第162回	国債証券	1.1
5	国庫債券 利付(10年)第348回	国債証券	1.1
6	国庫債券 利付(10年)第360回	国債証券	1.1
7	国庫債券 利付(10年)第369回	国債証券	1.1
8	国庫債券 利付(2年)第455回	国債証券	1.1
9	国庫債券 利付(5年)第157回	国債証券	1.1
10	国庫債券 利付(5年)第154回	国債証券	1.1

### 年間収益率の推移

(暦年ベース)



- ・ファンドの年間収益率は税引前分配金を再投資して算出。
- ・2024年は年初から運用実績作成基準日までの収益率。

●ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。●ファンドの運用状況は、別途、委託会社ホームページで開示している場合があります。

## 第2【管理及び運営】

### 1【申込（販売）手続等】

ファンドは、SMA(セパレートリー・マネージド・アカウント)に係る契約に基づいて、SMA取引口座の資金を運用するためのファンドです。ファンドの買付けの申込みを行なう投資家は、販売会社にSMA(セパレートリー・マネージド・アカウント)取引口座を開設した者等に限るものとします。

#### (1) 受益権の募集

申込期間中の各営業日に受益権の募集が行なわれます。

#### (2) 申込締切時間

午後3時までに取得申込みが行なわれかつ当該取得申込みの受け付けにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込み分とします。

#### (3) 販売単位

1円以上1円単位（当初元本1口=1円）とします。

#### (4) 販売価額

取得申込日の基準価額とします。

#### (5) 申込代金の支払い

取得申込日から起算して5営業日目までに申込代金を販売会社に支払うものとします。なお、販売会社が別に定める所定の方法により、上記の期日以前に申込代金をお支払いいただく場合があります。

#### (6) 申込受け付けの中止および取り消し

金融商品取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。なお、金融商品取引所を単に「取引所」という場合があります。取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行なう市場ないしは当該市場を開設するものを「証券取引所」という場合があります。)等における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、信託約款の規定に従い、委託者の判断でファンドの受益権の取得申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた取得申込みの受け付けを取り消す場合があります。

#### (7) 申込手続等に関する照会先

ファンドの申込（販売）手続等についてご不明な点がある場合には、下記の照会先までお問い合わせ下さい。

**野村アセットマネジメント株式会社**

サポートダイヤル 0120-753104(フリーダイヤル)

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>



※購入のお申込みの方法ならびに単位等について、販売会社によっては上記と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 2 【換金（解約）手続等】

### (1) 解約の請求

受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行なうものとします。

### (2) 解約請求の締切時間

一部解約の実行の請求の受け付けについては、午後3時までに解約請求の申込みが行われ、かつ、その解約請求の申込みの受け付けにかかる販売会社所定の事務手続が完了したものを当日の申込み分とします。

### (3) 換金単位

1口単位で一部解約の実行を請求することができます。

### (4) 換金価額

換金のお申込み日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額となります。

### (5) 換金制限

信託財産の資金管理を円滑に行なうため、大口換金には制限を設ける場合があります。

### (6) 換金代金の支払い

原則として一部解約の実行の請求日から起算して5営業日目から販売会社において支払います。

### (7) 解約請求の受け付けの中止および取り消し

金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止することおよび既に受付けた一部解約の実行の請求の受け付けを取り消す場合があります。

また、一部解約の実行の請求の受け付けが中止された場合には、受益者は当該受け付け中止以前に行なった当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受け付け中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受付けたものとします。

### (8) 換金手続等に関する照会先

ファンドの換金（解約）手続等についてご不明な点がある場合には、下記の照会先までお問い合わせ下さい。

**野村アセットマネジメント株式会社**

サポートダイヤル 0120-753104(フリーダイヤル)

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

※換金のお申込みの方法ならびに単位等について、販売会社によっては上記と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

### 3 【資産管理等の概要】

#### (1) 【資産の評価】

##### <基準価額の計算方法>

基準価額とは、計算日において、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。)を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(「純資産総額」といいます。)を、計算日における受益権口数で除して得た額をいいます。なお、ファンドにおいては1万口当りの価額で表示されます。

ファンドの主な投資対象の評価方法は以下の通りです。

対象	評価方法
公社債等	原則として、基準価額計算日における以下のいずれかの価額で評価します。* ①日本証券業協会が発表する売買参考統計値(平均値) ②金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(売気配相場を除く) ③価格情報会社の提供する価額

※残存期間1年以内の公社債等については、一部償却原価法(アキュムレーションまたはアモチゼーション)による評価を適用することができます。

ファンドの基準価額については下記の照会先までお問い合わせ下さい。

**野村アセットマネジメント株式会社**

サポートダイヤル 0120-753104 (フリーダイヤル)

<受付時間> 営業日の午前9時~午後5時

インターネットホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

#### (2) 【保管】

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しませんので、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

#### (3) 【信託期間】

無期限とします(2010年7月30日設定)。

#### (4) 【計算期間】

原則として、毎年7月21日から翌年7月20日までとします。

なお、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

#### (5) 【その他】

##### (a) ファンドの繰上償還条項

委託者は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の口数が30億口を下回った

場合またはこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

#### (b) 信託期間の終了

- (i) 委託者は、上記「(a) ファンドの繰上償還条項」に従い信託期間を終了させるには、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行ないます。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- (ii) 上記(i)の書面決議において、受益者(委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- (iii) 上記(i)の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行ないます。
- (iv) 上記(i)から(iii)までの規定は、委託者が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記(i)から(iii)までに規定するこの信託契約の解約の手続を行うことが困難な場合には適用しません。
- (v) 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。
- (vi) 委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の委託者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、下記「(d) 信託約款の変更等(iv)」の書面決議が否決となる場合を除き、その委託者と受託者との間において存続します。

#### (c) 運用報告書

委託者は、ファンドの決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、知れている受益者に対して交付します。

#### (d) 信託約款の変更等

- (i) 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。)を行なうことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は本条に定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- (ii) 委託者は、上記(i)の事項(上記(i)の変更事項にあつてはその変更の内容が重大なものに該当する場合に限り、併合事項にあつてはその併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除き、以下、合わせて「重大な約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行ないます。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- (iii) 上記(ii)の書面決議において、受益者(委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益

者は書面決議について賛成するものとみなします。

(iv) 上記(ii)の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行ないます。

(v) 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。

(vi) 上記(ii)から(v)までの規定は、委託者が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

(vii) 上記(i)から(vi)の規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合にかかる一又は複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行なうことはできません。

#### (e) 公告

委託者が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行ない、次のアドレスに掲載します。

<http://www.nomura-am.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

#### (f) 受託者の辞任および解任に伴う取扱い

(i) 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を申立てることができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、上記「(d)信託約款の変更等」に従い、新受託者を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託者を解任することはできないものとします。

(ii) 委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

#### (g) 反対受益者の受益権買取請求の不適用

この信託は、受益者が一部解約の実行の請求を行なったときは、委託者が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約または重大な約款の変更等を行なう場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権の買取請求の規定の適用を受けません。

#### (h) 他の受益者の氏名等の開示の請求の制限

受益者は、委託者または受託者に対し、次に掲げる事項の開示請求を行うことはできません。

1. 他の受益者の氏名または名称および住所
2. 他の受益者が有する受益権の内容

#### (i) 関係法人との契約の更新に関する手続

委託者と販売会社との間で締結する「募集・販売等に関する契約」は、契約終了の3ヵ月前までに当事者の一方から別段の意思表示のないときは、原則1年毎に自動的に更新されるものとします。

## 4 【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

### ① 収益分配金に対する請求権

#### ■ 収益分配金の支払い開始日 ■

収益分配金は、税金を差引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。この場合の受益権の価額は、

各計算期間終了日(決算日)の基準価額とします。

再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

なお、お客様と販売会社とのご契約によっては、再投資が行なわれない場合があります。

## ②償還金に対する請求権

### ■償還金の支払い開始日■

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に、原則として償還日(償還日が休業日の場合は翌営業日)から起算して5営業日までに支払いを開始します。

### ■償還金請求権の失効■

受益者は、償還金を支払開始日から10年間支払請求しないと権利を失います。

## ③換金(解約)請求権

受益者は、一部解約の実行を請求することができます。詳しくは、前述の「2 換金(解約)手続等」をご参照下さい。

### 第3【ファンドの経理状況】

(1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)(以下「財務諸表等規則」という。)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第13期計算期間(2022年7月21日から2023年7月20日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

# 独立監査人の監査報告書

2023年10月3日

野村アセットマネジメント株式会社

取締役会 御 中

EY 新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 湯原 尚  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている野村日本債券インデックス（野村SMA向け）の2022年7月21日から2023年7月20日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、野村日本債券インデックス（野村SMA向け）の2023年7月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、野村アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンデは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

野村アセットマネジメント株式会社及びファンデと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRL データは監査の対象には含まれていません。



1 【財務諸表】

【野村日本債券インデックス（野村SMA向け）】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第12期 (2022年7月20日現在)	第13期 (2023年7月20日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	17,523,089	16,417,813
親投資信託受益証券	12,838,759,031	12,598,018,297
未収入金	77,421,757	6,280,437
流動資産合計	12,933,703,877	12,620,716,547
資産合計	12,933,703,877	12,620,716,547
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	5,817,713	5,753,273
未払解約金	71,068,695	-
未払受託者報酬	2,169,022	2,028,446
未払委託者報酬	14,460,072	13,522,891
未払利息	7	23
その他未払費用	144,535	135,170
流動負債合計	93,660,044	21,439,803
負債合計	93,660,044	21,439,803
純資産の部		
元本等		
元本	11,635,427,497	11,506,546,208
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金(△)	1,204,616,336	1,092,730,536
(分配準備積立金)	890,732,324	914,015,254
元本等合計	12,840,043,833	12,599,276,744
純資産合計	12,840,043,833	12,599,276,744
負債純資産合計	12,933,703,877	12,620,716,547

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第12期 自 2021年7月21日 至 2022年7月20日	第13期 自 2022年7月21日 至 2023年7月20日
営業収益		
有価証券売買等損益	△453,671,993	△63,853,191
営業収益合計	△453,671,993	△63,853,191
営業費用		
支払利息	1,710	3,580
受託者報酬	4,436,478	4,128,220

委託者報酬	29,576,372	27,521,333
その他費用	295,637	275,092
営業費用合計	34,310,197	31,928,225
営業利益又は営業損失(△)	△487,982,190	△95,781,416
経常利益又は経常損失(△)	△487,982,190	△95,781,416
当期純利益又は当期純損失(△)	△487,982,190	△95,781,416
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額(△)	△10,626,527	△2,312,101
期首剰余金又は期首欠損金(△)	1,733,068,001	1,204,616,336
剰余金増加額又は欠損金減少額	5,400,313	26,616,163
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	5,400,313	26,616,163
剰余金減少額又は欠損金増加額	50,678,602	39,279,375
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	50,678,602	39,279,375
分配金	5,817,713	5,753,273
期末剰余金又は期末欠損金(△)	1,204,616,336	1,092,730,536

### (3)【注記表】

#### (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 基準価額で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4. その他	当ファンドの計算期間は、信託約款の規定により、2022年7月21日から2023年7月20日までとなっております。

#### (重要な会計上の見積りに関する注記)

該当事項はありません。

#### (貸借対照表に関する注記)

第12期 2022年7月20日現在	第13期 2023年7月20日現在
1. 計算期間の末日における受益権の総数 11,635,427,497口	1. 計算期間の末日における受益権の総数 11,506,546,208口
2. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.1035円 (10,000口当たり純資産額) (11,035円)	2. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.0950円 (10,000口当たり純資産額) (10,950円)

#### (損益及び剰余金計算書に関する注記)

第12期 自2021年7月21日 至2022年7月20日	第13期 自2022年7月21日 至2023年7月20日																																																
1. 分配金の計算過程	1. 分配金の計算過程																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>57,610,380円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>1,221,332,959円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>838,939,657円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>2,117,882,996円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>11,635,427,497口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F×10,000</td> <td>1,820円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	57,610,380円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	1,221,332,959円	分配準備積立金額	D	838,939,657円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,117,882,996円	当ファンドの期末残存口数	F	11,635,427,497口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	1,820円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>57,927,448円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>1,227,401,754円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>861,841,079円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>2,147,170,281円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>11,506,546,208口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F×10,000</td> <td>1,866円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	57,927,448円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	1,227,401,754円	分配準備積立金額	D	861,841,079円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,147,170,281円	当ファンドの期末残存口数	F	11,506,546,208口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	1,866円
項目																																																	
費用控除後の配当等収益額	A	57,610,380円																																															
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																															
収益調整金額	C	1,221,332,959円																																															
分配準備積立金額	D	838,939,657円																																															
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,117,882,996円																																															
当ファンドの期末残存口数	F	11,635,427,497口																																															
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	1,820円																																															
項目																																																	
費用控除後の配当等収益額	A	57,927,448円																																															
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																															
収益調整金額	C	1,227,401,754円																																															
分配準備積立金額	D	861,841,079円																																															
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,147,170,281円																																															
当ファンドの期末残存口数	F	11,506,546,208口																																															
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	1,866円																																															

10,000口当たり分配金額	H	5円
収益分配金金額	$I=F \times H / 10,000$	5,817,713円

10,000口当たり分配金額	H	5円
収益分配金金額	$I=F \times H / 10,000$	5,753,273円

(金融商品に関する注記)

(1) 金融商品の状況に関する事項

第12期 自 2021年7月21日 至 2022年7月20日	第13期 自 2022年7月21日 至 2023年7月20日
<p>1. 金融商品に対する取組方針</p> <p>当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。</p> <p>2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク</p> <p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。</p> <p>当ファンドが保有する有価証券の詳細は、(その他の注記)の2 有価証券関係に記載しております。</p> <p>これらは、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。</p> <p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>委託会社においては、独立した投資リスク管理に関する委員会を設け、パフォーマンスの考査及び運用リスクの管理を行っております。</p> <p>○市場リスクの管理</p> <p>市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p>○信用リスクの管理</p> <p>信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>○流動性リスクの管理</p> <p>流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>	<p>1. 金融商品に対する取組方針</p> <p>同左</p> <p>2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク</p> <p>同左</p> <p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>同左</p>

(2) 金融商品の時価等に関する事項

第12期 2022年7月20日現在	第13期 2023年7月20日現在
<p>1. 貸借対照表計上額、時価及び差額</p> <p>貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>2. 時価の算定方法</p> <p>親投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	<p>1. 貸借対照表計上額、時価及び差額</p> <p>同左</p> <p>2. 時価の算定方法</p> <p>同左</p>

(関連当事者との取引に関する注記)

第12期 自 2021年7月21日 至 2022年7月20日	第13期 自 2022年7月21日 至 2023年7月20日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はございません。	同左

(その他の注記)

1 元本の移動

第12期 自 2021年 7月 21日 至 2022年 7月 20日		第13期 自 2022年 7月 21日 至 2023年 7月 20日	
期首元本額	11,947,969,213 円	期首元本額	11,635,427,497 円
期中追加設定元本額	39,518,918 円	期中追加設定元本額	254,316,891 円
期中一部解約元本額	352,060,634 円	期中一部解約元本額	383,198,180 円

2 有価証券関係  
売買目的有価証券

種類	第12期 自 2021年 7月 21日 至 2022年 7月 20日	第13期 自 2022年 7月 21日 至 2023年 7月 20日
	損益に含まれた評価差額 (円)	損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	△439,560,922	△59,813,133
合計	△439,560,922	△59,813,133

3 デリバティブ取引関係  
該当事項はありません。

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式(2023年7月20日現在)

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券(2023年7月20日現在)

(単位:円)

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	日本円	国内債券NOMURA-BPI総合マザーファンド	9,805,431,427	12,598,018,297	
	小計	銘柄数:1 組入時価比率:100.0%	9,805,431,427	12,598,018,297 100.0%	
合計				12,598,018,297	

(注1) 投資信託受益証券、投資証券及び親投資信託受益証券における券面総額の数値は、証券数を表示しております。

(注2) 比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドは「国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された親投資信託受益証券は、すべて同親投資信託の受益証券です。

なお、以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド

貸借対照表

(単位:円)

(2023年7月20日現在)

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	5,302,737,900
国債証券	765,404,963,800
地方債証券	54,976,469,001
特殊債券	62,146,128,907
社債券	42,022,656,000
未収利息	1,553,693,333
前払費用	40,343,142
流動資産合計	931,446,992,083
資産合計	931,446,992,083
負債の部	
流動負債	
未払金	502,383,000
未払解約金	223,521,254
未払利息	7,577
流動負債合計	725,911,831
負債合計	725,911,831
純資産の部	
元本等	
元本	724,390,520,496
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金(△)	206,330,559,756
元本等合計	930,721,080,252
純資産合計	930,721,080,252
負債純資産合計	931,446,992,083

## 注記表

### (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、価格情報社の提供する価額等で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

### (重要な会計上の見積りに関する注記)

該当事項はありません。

### (貸借対照表に関する注記)

2023年7月20日現在	
1. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	1.2848円
(10,000口当たり純資産額)	(12,848円)

### (金融商品に関する注記)

#### (1) 金融商品の状況に関する事項

	自 2022年7月21日 至 2023年7月20日
1. 金融商品に対する取組方針	
当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	

2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク

当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。

当ファンドが保有する有価証券の詳細は、附属明細表に記載しております。

これらは、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。

3. 金融商品に係るリスク管理体制

委託会社においては、独立した投資リスク管理に関する委員会を設け、パフォーマンスの考査及び運用リスクの管理を行なっております。

○市場リスクの管理

市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行なっております。

○信用リスクの管理

信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行なっております。

○流動性リスクの管理

流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行なっております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2023年7月20日現在

1. 貸借対照表計上額、時価及び差額

貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。

2. 時価の算定方法

国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。

コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務

これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(その他の注記)

元本の移動及び期末元本額の内訳

2023年7月20日現在

期首	2022年7月21日
本報告書における開示対象ファンドの期首における当ファンドの元本額	666,430,677,933円
同期中における追加設定元本額	151,514,229,264円
同期中における一部解約元本額	93,554,386,701円
期末元本額	724,390,520,496円
期末元本額の内訳*	
野村国内債券インデックスファンド	382,816,286円
野村世界6資産分散投信(安定コース)	43,719,897,914円
野村世界6資産分散投信(分配コース)	19,478,668,214円
野村世界6資産分散投信(成長コース)	5,226,903,173円
野村資産設計ファンド2015	335,025,671円
野村資産設計ファンド2020	375,749,244円
野村資産設計ファンド2025	428,311,188円
野村資産設計ファンド2030	385,141,126円
野村資産設計ファンド2035	234,193,614円
野村資産設計ファンド2040	279,093,573円
野村日本債券インデックスファンド	653,762,607円
野村日本債券インデックス(野村投資一任口座向け)	145,552,054,002円
のむらっぴ・ファンド(保守型)	21,072,618,200円
のむらっぴ・ファンド(普通型)	46,575,612,571円
のむらっぴ・ファンド(積極型)	4,890,702,592円
野村日本債券インデックス(野村SMA向け)	9,805,431,427円
野村資産設計ファンド2045	42,758,232円
野村円債投資インデックスファンド	592,479,339円
野村インデックスファンド・国内債券	2,021,475,705円
マイ・ロード	38,548,990,589円
野村インデックスファンド・内外7資産バランス・為替ヘッジ型	1,629,851,327円
野村日本債券インデックス(野村SMA・EW向け)	19,525,863,559円
野村世界6資産分散投信(配分変更コース)	2,223,427,052円
野村資産設計ファンド2050	32,027,746円

野村ターゲットデートファンド2016	2026-2028年目標型	35,856,197円
野村ターゲットデートファンド2016	2029-2031年目標型	12,746,960円
野村ターゲットデートファンド2016	2032-2034年目標型	5,813,565円
野村ターゲットデートファンド2016	2035-2037年目標型	4,099,827円
のむらップ・ファンド(やや保守型)		2,198,759,157円
のむらップ・ファンド(やや積極型)		1,029,608,064円
インデックス・ブレンド(タイプI)		44,835,701円
インデックス・ブレンド(タイプII)		23,151,819円
インデックス・ブレンド(タイプIII)		107,295,046円
インデックス・ブレンド(タイプIV)		28,627,894円
インデックス・ブレンド(タイプV)		25,602,302円
野村6資産均等バランス		7,427,891,464円
世界6資産分散ファンド		160,302,365円
野村資産設計ファンド2060		16,105,991円
NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI総合連動型上場投信		47,708,648,439円
ファンドラップ(ウエルス・スクエア)債券・安定型		33,453,620,423円
グローバル・インデックス・バランス25VA(適格機関投資家専用)		481,752,587円
グローバル・インデックス・バランス50VA(適格機関投資家専用)		90,828,978円
グローバル・インデックス・バランス40VA(適格機関投資家専用)		1,365,831,490円
グローバル・インデックス・バランス60VA(適格機関投資家専用)		386,774,172円
ワールド・インデックス・ファンドVA安定型(適格機関投資家専用)		10,173,035円
ワールド・インデックス・ファンドVAバランス型(適格機関投資家専用)		11,031,420円
ワールド・インデックス・ファンドVA積極型(適格機関投資家専用)		158,409円
野村インデックス・バランス60VA(適格機関投資家専用)		3,088,205,228円
野村ワールド・インデックス・バランス35VA(適格機関投資家専用)		2,703,633円
野村ワールド・インデックス・バランス50VA(適格機関投資家専用)		22,766,025円
野村世界インデックス・バランス40VA(適格機関投資家専用)		39,109,843円
野村グローバル・インデックス・バランス25VA(適格機関投資家専用)		390,832,643円
野村グローバル・インデックス・バランス50VA(適格機関投資家専用)		272,661,971円
野村グローバル・インデックス・バランス75VA(適格機関投資家専用)		1,013,113,689円
野村世界バランス25VA(適格機関投資家専用)		124,393,767円
ノムラ日本債券インデックスファンドVA(適格機関投資家専用)		1,613,157,474円
ノムラFOFs用インデックスファンド・国内債券(適格機関投資家専用)		398,154,280円
野村FOFs用・ターゲット・リターン・8資産バランス(2%コース向け)(適格機関投資家専用)		15,312,304円
マイバランス30(確定拠出年金向け)		41,485,830,070円
マイバランス50(確定拠出年金向け)		60,023,658,997円
マイバランス70(確定拠出年金向け)		25,763,392,915円
野村国内債券インデックスファンド・NOMURA-BPI総合(確定拠出年金向け)		52,315,985,382円
マイバランスDC30		17,792,538,061円
マイバランスDC50		15,539,157,699円
マイバランスDC70		6,049,480,036円
野村DC国内債券インデックスファンド・NOMURA-BPI総合		13,566,143,850円
マイターゲット2050(確定拠出年金向け)		2,518,409,966円
マイターゲット2030(確定拠出年金向け)		8,172,555,941円
マイターゲット2040(確定拠出年金向け)		3,342,303,492円
野村世界6資産分散投信(DC)安定コース		344,867,891円
野村世界6資産分散投信(DC)インカムコース		56,036,867円
野村世界6資産分散投信(DC)成長コース		70,077,169円
野村資産設計ファンド(DC・つみたてNISA)2030		195,636,280円
野村資産設計ファンド(DC・つみたてNISA)2040		79,902,880円
野村資産設計ファンド(DC・つみたてNISA)2050		28,077,554円
マイターゲット2035(確定拠出年金向け)		3,042,324,003円
マイターゲット2045(確定拠出年金向け)		1,343,137,189円
マイターゲット2055(確定拠出年金向け)		596,374,410円
マイターゲット2060(確定拠出年金向け)		663,188,330円
野村資産設計ファンド(DC・つみたてNISA)2060		14,024,993円

マイターゲット2065（確定拠出年金向け）	247,653,214 円
多資産分散投資ファンド（バランス10）（確定拠出年金向け）	641,279,743 円
みらいバランス・株式10（富士通企業年金基金DC向け）	4,734,251,258 円
野村DCバランスファンド（年金運用戦略タイプ）	141,451,193 円

\*は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式(2023年7月20日現在)

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券(2023年7月20日現在)

(単位:円)

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	日本円	国庫債券 利付（2年）第439回	1,100,000,000	1,101,584,000	
		国庫債券 利付（2年）第442回	3,000,000,000	3,004,800,000	
		国庫債券 利付（2年）第443回	2,500,000,000	2,503,925,000	
		国庫債券 利付（2年）第444回	2,000,000,000	2,002,900,000	
		国庫債券 利付（2年）第446回	5,500,000,000	5,507,095,000	
		国庫債券 利付（2年）第449回	1,500,000,000	1,501,530,000	
		国庫債券 利付（5年）第141回	9,600,000,000	9,624,096,000	
		国庫債券 利付（5年）第142回	1,200,000,000	1,203,396,000	
		国庫債券 利付（5年）第143回	6,070,000,000	6,087,178,100	
		国庫債券 利付（5年）第144回	4,400,000,000	4,413,904,000	
		国庫債券 利付（5年）第145回	3,900,000,000	3,913,533,000	
		国庫債券 利付（5年）第146回	5,100,000,000	5,119,125,000	
		国庫債券 利付（5年）第147回	5,600,000,000	5,608,176,000	
		国庫債券 利付（5年）第148回	7,300,000,000	7,310,585,000	
		国庫債券 利付（5年）第149回	4,100,000,000	4,105,166,000	
		国庫債券 利付（5年）第150回	6,300,000,000	6,306,426,000	
		国庫債券 利付（5年）第151回	5,500,000,000	5,504,015,000	
		国庫債券 利付（5年）第152回	4,000,000,000	4,016,840,000	
		国庫債券 利付（5年）第153回	11,500,000,000	11,502,185,000	
		国庫債券 利付（5年）第154回	5,500,000,000	5,518,315,000	
		国庫債券 利付（5年）第155回	1,500,000,000	1,516,845,000	
		国庫債券 利付（5年）第156回	5,000,000,000	5,034,150,000	
		国庫債券 利付（5年）第157回	7,500,000,000	7,543,500,000	
国庫債券 利付（5年）第158回	4,000,000,000	4,003,680,000			
国庫債券 利付（40年）第1回	1,860,000,000	2,320,071,000			



国庫債券 利付（４０年）第２回	2,700,000,000	3,245,670,000
国庫債券 利付（４０年）第３回	900,000,000	1,080,702,000
国庫債券 利付（４０年）第４回	1,630,000,000	1,958,347,200
国庫債券 利付（４０年）第５回	1,300,000,000	1,507,337,000
国庫債券 利付（４０年）第６回	2,300,000,000	2,615,008,000
国庫債券 利付（４０年）第７回	1,500,000,000	1,631,535,000
国庫債券 利付（４０年）第８回	1,500,000,000	1,514,955,000
国庫債券 利付（４０年）第９回	4,550,000,000	3,385,973,500
国庫債券 利付（４０年）第１０回	2,110,000,000	1,835,024,800
国庫債券 利付（４０年）第１１回	1,750,000,000	1,465,607,500
国庫債券 利付（４０年）第１２回	2,070,000,000	1,545,938,100
国庫債券 利付（４０年）第１３回	4,070,000,000	3,007,648,600
国庫債券 利付（４０年）第１４回	3,960,000,000	3,118,737,600
国庫債券 利付（４０年）第１５回	3,000,000,000	2,601,090,000
国庫債券 利付（１０年）第３３５回	5,600,000,000	5,640,208,000
国庫債券 利付（１０年）第３３６回	1,750,000,000	1,764,892,500
国庫債券 利付（１０年）第３３７回	3,000,000,000	3,017,010,000
国庫債券 利付（１０年）第３３８回	9,000,000,000	9,070,380,000
国庫債券 利付（１０年）第３３９回	10,000,000,000	10,089,100,000
国庫債券 利付（１０年）第３４０回	4,200,000,000	4,241,916,000
国庫債券 利付（１０年）第３４１回	5,900,000,000	5,950,622,000
国庫債券 利付（１０年）第３４２回	4,550,000,000	4,568,154,500
国庫債券 利付（１０年）第３４３回	6,000,000,000	6,025,380,000
国庫債券 利付（１０年）第３４４回	6,400,000,000	6,427,392,000
国庫債券 利付（１０年）第３４５回	7,000,000,000	7,029,890,000
国庫債券 利付（１０年）第３４６回	8,600,000,000	8,636,206,000
国庫債券 利付（１０年）第３４７回	12,000,000,000	12,046,920,000
国庫債券 利付（１０年）第３４８回	6,800,000,000	6,822,644,000
国庫債券 利付（１０年）第３４９回	4,800,000,000	4,811,616,000

国庫債券 利付（10年）第350回	10,150,000,000	10,161,774,000
国庫債券 利付（10年）第351回	6,500,000,000	6,498,375,000
国庫債券 利付（10年）第352回	5,400,000,000	5,393,034,000
国庫債券 利付（10年）第353回	4,500,000,000	4,490,280,000
国庫債券 利付（10年）第354回	3,350,000,000	3,338,710,500
国庫債券 利付（10年）第355回	4,000,000,000	3,982,400,000
国庫債券 利付（10年）第356回	4,000,000,000	3,976,840,000
国庫債券 利付（10年）第357回	4,500,000,000	4,468,635,000
国庫債券 利付（10年）第358回	5,570,000,000	5,522,432,200
国庫債券 利付（10年）第359回	6,200,000,000	6,136,760,000
国庫債券 利付（10年）第360回	10,000,000,000	9,873,500,000
国庫債券 利付（10年）第361回	9,500,000,000	9,358,735,000
国庫債券 利付（10年）第362回	9,200,000,000	9,041,760,000
国庫債券 利付（10年）第363回	6,950,000,000	6,813,502,000
国庫債券 利付（10年）第364回	8,150,000,000	7,972,330,000
国庫債券 利付（10年）第365回	7,000,000,000	6,834,520,000
国庫債券 利付（10年）第366回	6,500,000,000	6,388,460,000
国庫債券 利付（10年）第367回	7,000,000,000	6,867,630,000
国庫債券 利付（10年）第368回	7,000,000,000	6,857,970,000
国庫債券 利付（10年）第369回	7,000,000,000	7,044,310,000
国庫債券 利付（10年）第370回	7,000,000,000	7,035,630,000
国庫債券 利付（30年）第1回	2,000,000,000	2,319,600,000
国庫債券 利付（30年）第2回	500,000,000	571,135,000
国庫債券 利付（30年）第3回	160,000,000	182,270,400
国庫債券 利付（30年）第4回	1,400,000,000	1,664,194,000
国庫債券 利付（30年）第5回	150,000,000	171,475,500
国庫債券 利付（30年）第6回	600,000,000	699,318,000

国庫債券 利付（30年）第7回	600,000,000	698,118,000
国庫債券 利付（30年）第8回	100,000,000	112,402,000
国庫債券 利付（30年）第9回	265,000,000	288,261,700
国庫債券 利付（30年）第10回	250,000,000	265,047,500
国庫債券 利付（30年）第11回	660,000,000	737,952,600
国庫債券 利付（30年）第12回	720,000,000	833,875,200
国庫債券 利付（30年）第13回	1,090,000,000	1,253,118,500
国庫債券 利付（30年）第14回	1,800,000,000	2,146,212,000
国庫債券 利付（30年）第15回	2,000,000,000	2,409,020,000
国庫債券 利付（30年）第16回	1,415,000,000	1,707,989,900
国庫債券 利付（30年）第17回	1,500,000,000	1,797,120,000
国庫債券 利付（30年）第18回	2,200,000,000	2,616,218,000
国庫債券 利付（30年）第19回	1,550,000,000	1,846,081,000
国庫債券 利付（30年）第20回	1,270,000,000	1,543,608,800
国庫債券 利付（30年）第21回	300,000,000	358,104,000
国庫債券 利付（30年）第22回	600,000,000	731,580,000
国庫債券 利付（30年）第23回	1,840,000,000	2,248,259,200
国庫債券 利付（30年）第24回	700,000,000	856,548,000
国庫債券 利付（30年）第25回	500,000,000	599,955,000
国庫債券 利付（30年）第26回	850,000,000	1,031,475,000
国庫債券 利付（30年）第27回	2,450,000,000	3,012,569,000
国庫債券 利付（30年）第28回	1,500,000,000	1,847,985,000
国庫債券 利付（30年）第29回	2,000,000,000	2,439,420,000
国庫債券 利付（30年）第30回	2,500,000,000	3,017,750,000
国庫債券 利付（30年）第31回	1,700,000,000	2,029,086,000
国庫債券 利付（30年）第32回	2,500,000,000	3,024,675,000
国庫債券 利付（30年）第33回	2,400,000,000	2,790,480,000
国庫債券 利付（30年）第34回	2,800,000,000	3,344,544,000
国庫債券 利付（30年）第35回	2,300,000,000	2,672,071,000
国庫債券 利付（30年）第36回	2,000,000,000	2,325,520,000
国庫債券 利付（30年）第37回	2,300,000,000	2,632,925,000
国庫債券 利付（30年）第38回	1,600,000,000	1,802,912,000
国庫債券 利付（30年）第39回	1,400,000,000	1,602,594,000
国庫債券 利付（30年）第40回	1,300,000,000	1,464,697,000
国庫債券 利付（30年）第41回	1,500,000,000	1,662,510,000
国庫債券 利付（30年）第42回	1,600,000,000	1,772,064,000

国庫債券	利付（30年）第43回	1,300,000,000	1,439,958,000
国庫債券	利付（30年）第44回	1,400,000,000	1,549,534,000
国庫債券	利付（30年）第45回	1,700,000,000	1,816,280,000
国庫債券	利付（30年）第46回	1,800,000,000	1,922,580,000
国庫債券	利付（30年）第47回	1,700,000,000	1,846,829,000
国庫債券	利付（30年）第48回	1,900,000,000	1,989,167,000
国庫債券	利付（30年）第49回	2,900,000,000	3,034,618,000
国庫債券	利付（30年）第50回	2,400,000,000	2,223,000,000
国庫債券	利付（30年）第51回	3,650,000,000	3,005,556,000
国庫債券	利付（30年）第52回	2,200,000,000	1,895,058,000
国庫債券	利付（30年）第53回	1,700,000,000	1,494,419,000
国庫債券	利付（30年）第54回	1,700,000,000	1,560,294,000
国庫債券	利付（30年）第55回	1,500,000,000	1,373,190,000
国庫債券	利付（30年）第56回	1,700,000,000	1,552,236,000
国庫債券	利付（30年）第57回	2,000,000,000	1,821,400,000
国庫債券	利付（30年）第58回	3,000,000,000	2,722,410,000
国庫債券	利付（30年）第59回	1,600,000,000	1,414,000,000
国庫債券	利付（30年）第60回	1,650,000,000	1,523,395,500
国庫債券	利付（30年）第61回	2,000,000,000	1,753,980,000
国庫債券	利付（30年）第62回	3,000,000,000	2,490,240,000
国庫債券	利付（30年）第63回	4,000,000,000	3,220,960,000
国庫債券	利付（30年）第64回	3,300,000,000	2,647,722,000
国庫債券	利付（30年）第65回	2,500,000,000	2,000,525,000
国庫債券	利付（30年）第66回	4,500,000,000	3,584,520,000
国庫債券	利付（30年）第67回	3,500,000,000	2,932,545,000
国庫債券	利付（30年）第68回	3,450,000,000	2,881,267,500
国庫債券	利付（30年）第69回	2,700,000,000	2,311,794,000
国庫債券	利付（30年）第70回	2,610,000,000	2,230,114,500
国庫債券	利付（30年）第71回	2,400,000,000	2,048,400,000
国庫債券	利付（30年）第72回	2,200,000,000	1,875,632,000
国庫債券	利付（30年）第73回	2,000,000,000	1,703,260,000
国庫債券	利付（30年）第74回	2,000,000,000	1,843,900,000
国庫債券	利付（30年）第75回	2,000,000,000	1,985,380,000
国庫債券	利付（30年）第76回	2,000,000,000	2,031,540,000
国庫債券	利付（30年）第77回	1,500,000,000	1,595,745,000
国庫債券	利付（30年）第78回	1,500,000,000	1,522,320,000

国庫債券 利付（20年）第72回	1,470,000,000	1,508,043,600
国庫債券 利付（20年）第73回	1,200,000,000	1,235,736,000
国庫債券 利付（20年）第74回	800,000,000	824,960,000
国庫債券 利付（20年）第75回	600,000,000	621,672,000
国庫債券 利付（20年）第76回	910,000,000	939,838,900
国庫債券 利付（20年）第77回	700,000,000	724,122,000
国庫債券 利付（20年）第78回	800,000,000	830,136,000
国庫債券 利付（20年）第79回	860,000,000	894,047,400
国庫債券 利付（20年）第80回	1,400,000,000	1,458,114,000
国庫債券 利付（20年）第81回	360,000,000	376,092,000
国庫債券 利付（20年）第82回	820,000,000	858,433,400
国庫債券 利付（20年）第83回	1,370,000,000	1,441,431,800
国庫債券 利付（20年）第84回	1,200,000,000	1,259,664,000
国庫債券 利付（20年）第85回	400,000,000	422,932,000
国庫債券 利付（20年）第86回	1,700,000,000	1,806,522,000
国庫債券 利付（20年）第87回	500,000,000	529,995,000
国庫債券 利付（20年）第88回	1,100,000,000	1,175,284,000
国庫債券 利付（20年）第89回	470,000,000	500,794,400
国庫債券 利付（20年）第90回	1,500,000,000	1,606,290,000
国庫債券 利付（20年）第91回	250,000,000	268,507,500
国庫債券 利付（20年）第92回	650,000,000	697,229,000
国庫債券 利付（20年）第93回	2,300,000,000	2,469,855,000
国庫債券 利付（20年）第94回	3,700,000,000	3,986,787,000
国庫債券 利付（20年）第95回	3,100,000,000	3,379,124,000
国庫債券 利付（20年）第96回	2,400,000,000	2,597,304,000
国庫債券 利付（20年）第97回	2,300,000,000	2,508,748,000
国庫債券 利付（20年）第98回	1,300,000,000	1,412,580,000
国庫債券 利付（20年）第99回	1,100,000,000	1,199,627,000
国庫債券 利付（20年）第100回	820,000,000	901,171,800
国庫債券 利付（20年）第101回	250,000,000	277,072,500
国庫債券 利付（20年）第102回	1,500,000,000	1,668,735,000
国庫債券 利付（20年）第103回	600,000,000	664,560,000
国庫債券 利付（20年）第104回	400,000,000	439,128,000
国庫債券 利付（20年）第105回	1,900,000,000	2,093,173,000

	回			
	国庫債券 利付（20年）第106回	400,000,000	442,724,000	
	国庫債券 利付（20年）第107回	800,000,000	884,528,000	
	国庫債券 利付（20年）第108回	1,600,000,000	1,751,840,000	
	国庫債券 利付（20年）第109回	900,000,000	988,434,000	
	国庫債券 利付（20年）第110回	2,600,000,000	2,884,674,000	
	国庫債券 利付（20年）第111回	800,000,000	895,360,000	
	国庫債券 利付（20年）第112回	1,800,000,000	2,004,030,000	
	国庫債券 利付（20年）第113回	2,000,000,000	2,233,520,000	
	国庫債券 利付（20年）第115回	1,000,000,000	1,126,700,000	
	国庫債券 利付（20年）第116回	1,100,000,000	1,243,429,000	
	国庫債券 利付（20年）第117回	1,400,000,000	1,573,348,000	
	国庫債券 利付（20年）第118回	500,000,000	560,045,000	
	国庫債券 利付（20年）第119回	800,000,000	885,192,000	
	国庫債券 利付（20年）第120回	800,000,000	874,304,000	
	国庫債券 利付（20年）第121回	1,200,000,000	1,338,468,000	
	国庫債券 利付（20年）第122回	900,000,000	997,515,000	
	国庫債券 利付（20年）第123回	1,500,000,000	1,697,730,000	
	国庫債券 利付（20年）第124回	1,000,000,000	1,124,550,000	
	国庫債券 利付（20年）第125回	1,400,000,000	1,598,058,000	
	国庫債券 利付（20年）第126回	1,200,000,000	1,351,788,000	
	国庫債券 利付（20年）第127回	500,000,000	559,505,000	
	国庫債券 利付（20年）第128回	800,000,000	897,224,000	
	国庫債券 利付（20年）第129回	1,300,000,000	1,447,953,000	
	国庫債券 利付（20年）第130回	2,200,000,000	2,453,286,000	
	国庫債券 利付（20年）第131回	800,000,000	885,752,000	

	回			
	国庫債券 利付（20年）第132回	1,300,000,000	1,441,713,000	
	国庫債券 利付（20年）第133回	1,400,000,000	1,564,038,000	
	国庫債券 利付（20年）第134回	1,900,000,000	2,126,271,000	
	国庫債券 利付（20年）第135回	700,000,000	777,168,000	
	国庫債券 利付（20年）第136回	700,000,000	771,295,000	
	国庫債券 利付（20年）第137回	1,000,000,000	1,111,900,000	
	国庫債券 利付（20年）第138回	800,000,000	875,744,000	
	国庫債券 利付（20年）第139回	1,000,000,000	1,103,290,000	
	国庫債券 利付（20年）第140回	3,000,000,000	3,341,910,000	
	国庫債券 利付（20年）第141回	2,600,000,000	2,900,118,000	
	国庫債券 利付（20年）第142回	950,000,000	1,068,265,500	
	国庫債券 利付（20年）第143回	2,300,000,000	2,547,273,000	
	国庫債券 利付（20年）第144回	1,300,000,000	1,427,725,000	
	国庫債券 利付（20年）第145回	3,300,000,000	3,689,763,000	
	国庫債券 利付（20年）第146回	4,000,000,000	4,475,200,000	
	国庫債券 利付（20年）第147回	4,500,000,000	4,990,050,000	
	国庫債券 利付（20年）第148回	4,300,000,000	4,725,700,000	
	国庫債券 利付（20年）第149回	4,350,000,000	4,780,432,500	
	国庫債券 利付（20年）第150回	4,030,000,000	4,385,768,400	
	国庫債券 利付（20年）第151回	4,000,000,000	4,263,240,000	
	国庫債券 利付（20年）第152回	3,150,000,000	3,356,010,000	
	国庫債券 利付（20年）第153回	2,500,000,000	2,690,100,000	
	国庫債券 利付（20年）第154回	2,820,000,000	2,999,944,200	
	国庫債券 利付（20年）第155回	3,850,000,000	4,000,188,500	
	国庫債券 利付（20年）第156回	5,150,000,000	4,970,265,000	

	回			
	国庫債券 利付（20年）第157回	4,540,000,000	4,258,520,000	
	国庫債券 利付（20年）第158回	3,470,000,000	3,374,123,900	
	国庫債券 利付（20年）第159回	3,010,000,000	2,958,559,100	
	国庫債券 利付（20年）第160回	2,500,000,000	2,482,950,000	
	国庫債券 利付（20年）第161回	3,100,000,000	3,031,831,000	
	国庫債券 利付（20年）第162回	2,000,000,000	1,950,340,000	
	国庫債券 利付（20年）第163回	2,500,000,000	2,430,650,000	
	国庫債券 利付（20年）第164回	3,600,000,000	3,442,428,000	
	国庫債券 利付（20年）第165回	3,500,000,000	3,335,640,000	
	国庫債券 利付（20年）第166回	2,300,000,000	2,250,619,000	
	国庫債券 利付（20年）第167回	2,600,000,000	2,462,512,000	
	国庫債券 利付（20年）第168回	3,200,000,000	2,974,208,000	
	国庫債券 利付（20年）第169回	4,430,000,000	4,037,457,700	
	国庫債券 利付（20年）第170回	4,300,000,000	3,905,518,000	
	国庫債券 利付（20年）第171回	5,000,000,000	4,525,550,000	
	国庫債券 利付（20年）第172回	3,340,000,000	3,062,512,800	
	国庫債券 利付（20年）第173回	4,250,000,000	3,881,057,500	
	国庫債券 利付（20年）第174回	6,970,000,000	6,343,257,600	
	国庫債券 利付（20年）第175回	5,500,000,000	5,073,255,000	
	国庫債券 利付（20年）第176回	6,020,000,000	5,534,908,400	
	国庫債券 利付（20年）第177回	6,070,000,000	5,462,696,500	
	国庫債券 利付（20年）第178回	4,250,000,000	3,881,525,000	
	国庫債券 利付（20年）第179回	5,500,000,000	5,009,950,000	
	国庫債券 利付（20年）第180回	2,000,000,000	1,918,980,000	
	国庫債券 利付（20年）第181回	2,500,000,000	2,435,050,000	



		回			
		国庫債券 利付（20年）第182回	2,000,000,000	2,012,740,000	
		国庫債券 利付（20年）第183回	2,500,000,000	2,643,250,000	
		国庫債券 利付（20年）第184回	1,000,000,000	1,003,240,000	
		ハンガリー円貨債券（2020）第8回	100,000,000	99,571,000	
	小計	銘柄数：266 組入時価比率：82.2%	760,750,000,000	765,404,963,800 82.9%	
	合計			765,404,963,800	
地方債証券	日本円	東京都 公募第736回	100,000,000	100,579,000	
		東京都 公募第745回	300,000,000	302,658,000	
		東京都 公募第760回	100,000,000	99,845,000	
		東京都 公募第761回	100,000,000	99,939,000	
		東京都 公募第769回	500,000,000	501,650,000	
		東京都 公募第778回	100,000,000	99,769,000	
		東京都 公募第784回	200,000,000	199,784,000	
		東京都 公募第794回	100,000,000	98,403,000	
		東京都 公募第813回	200,000,000	195,828,000	
		東京都 公募第822回	130,000,000	125,329,100	
		東京都 公募第830回	400,000,000	388,840,000	
		東京都 公募（30年）第7回	100,000,000	121,135,000	
		東京都 公募第10回	200,000,000	237,552,000	
		東京都 公募第7回	100,000,000	104,522,000	
		東京都 公募（20年）第13回	100,000,000	108,612,000	
		東京都 公募（20年）第16回	200,000,000	218,410,000	
		東京都 公募（20年）第17回	200,000,000	219,264,000	
		東京都 公募（20年）第20回	180,000,000	199,033,200	
		東京都 公募第23回	100,000,000	111,948,000	
		東京都 公募（20年）第26回	100,000,000	109,782,000	
		東京都 公募（20年）第28回	100,000,000	108,880,000	
		東京都 公募（20年）第29回	200,000,000	217,860,000	
		東京都 公募（20年）第30回	100,000,000	107,769,000	
		東京都 公募（5年）第32回	300,000,000	299,682,000	
		北海道 公募平成26年度第13回	100,000,000	100,590,000	
		北海道 公募平成26年度第15回	100,000,000	100,593,000	

北海道	公募平成27年度第7回	100,000,000	100,933,000
北海道	公募平成29年度第5回	200,000,000	200,312,000
北海道	公募平成29年度第7回	100,000,000	100,204,000
北海道	公募平成29年度第9回	100,000,000	100,106,000
北海道	公募平成30年度第15回	238,560,000	232,004,371
北海道	公募平成30年度第18回	200,000,000	198,136,000
北海道	公募令和2年度第4回	300,000,000	294,744,000
北海道	公募令和4年度第5回	100,000,000	97,198,000
北海道	公募令和5年度第2回	100,000,000	100,020,000
宮城県	公募第31回1号	300,000,000	302,892,000
宮城県	公募第32回2号	100,000,000	100,018,000
神奈川県	公募第210回	200,000,000	201,180,000
神奈川県	公募第212回	100,000,000	100,598,000
神奈川県	公募第231回	200,000,000	200,306,000
神奈川県	公募第243回	200,000,000	196,362,000
神奈川県	公募第247回	339,150,000	332,421,264
神奈川県	公募第258回	100,000,000	97,337,000
神奈川県	公募(30年)第3回	100,000,000	121,718,000
神奈川県	公募第7回	300,000,000	323,031,000
神奈川県	公募(20年)第14回	100,000,000	110,604,000
神奈川県	公募(20年)第17回	200,000,000	222,536,000
神奈川県	公募(20年)第20回	100,000,000	109,494,000
神奈川県	公募(20年)第21回	200,000,000	219,754,000
神奈川県	公募(20年)第26回	100,000,000	107,456,000
大阪府	公募第387回	300,000,000	301,695,000
大阪府	公募第389回	100,000,000	100,652,000
大阪府	公募第396回	200,000,000	201,754,000
大阪府	公募第417回	102,000,000	102,445,740
大阪府	公募第423回	100,000,000	100,102,000
大阪府	公募第429回	179,000,000	178,812,050
大阪府	公募第452回	100,000,000	97,928,000
大阪府	公募第467回	140,000,000	136,327,800
大阪府	公募第469回	150,000,000	145,353,000
大阪府	公募第479回	200,000,000	194,544,000
大阪府	公募第481回	100,000,000	98,045,000
大阪府	公募第5回	100,000,000	111,705,000

	大阪府 公募第8回	100,000,000	110,260,000	
	大阪府 公募(5年)第173回	200,000,000	199,658,000	
	大阪府 公募(5年)第174回	200,000,000	199,646,000	
	大阪府 公募(5年)第178回	400,000,000	399,132,000	
	大阪府 公募(5年)第184回	400,000,000	398,836,000	
	大阪府 公募(5年)第190回	200,000,000	199,188,000	
	京都府 公募平成26年度第5回	100,000,000	107,203,000	
	京都府 公募平成26年度第7回	200,000,000	201,292,000	
	京都府 公募(20年)平成27年度第5回	200,000,000	208,786,000	
	京都府 公募(15年)平成27年度第8回	100,000,000	102,353,000	
	京都府 公募(15年)平成28年度第2回	200,000,000	195,598,000	
	京都府 公募(20年)平成28年度第5回	100,000,000	93,079,000	
	京都府 公募平成29年度第4回	100,000,000	100,234,000	
	兵庫県 公募平成26年度第17回	100,000,000	100,633,000	
	兵庫県 公募平成29年度第22回	100,000,000	99,866,000	
	兵庫県 公募(30年)第2回	200,000,000	238,468,000	
	兵庫県 公募(15年)第1回	300,000,000	314,067,000	
	兵庫県 公募(15年)第3回	200,000,000	209,556,000	
	兵庫県 公募(12年)第3回	300,000,000	302,526,000	
	兵庫県 公募(15年)第8回	100,000,000	104,318,000	
	兵庫県 公募(15年)第11回	100,000,000	101,971,000	
	兵庫県 公募第2回	100,000,000	109,090,000	
	兵庫県 公募第9回	100,000,000	111,703,000	
	兵庫県 公募(20年)第11回	200,000,000	219,358,000	
	兵庫県 公募(20年)第14回	100,000,000	109,497,000	
	兵庫県 公募(20年)第21回	100,000,000	108,008,000	
	兵庫県 公募(20年)第22回	100,000,000	106,464,000	
	静岡県 公募平成26年度第8回	100,000,000	100,655,000	
	静岡県 公募平成26年度第9回	200,000,000	201,348,000	
	静岡県 公募平成27年度第11回	115,400,000	115,491,166	
	静岡県 公募平成28年度第2回	300,000,000	300,000,000	
	静岡県 公募平成29年度第3回	100,000,000	100,200,000	
	静岡県 公募(31年)第1回	174,000,000	171,917,220	
	静岡県 公募(5年)令和3年度第2回	100,000,000	99,800,000	

静岡県	公募（5年）令和3年度第5回	300,000,000	299,256,000
静岡県	公募（15年）第2回	200,000,000	209,980,000
静岡県	公募（15年）第5回	200,000,000	208,376,000
静岡県	公募（15年）第9回	100,000,000	102,113,000
静岡県	公募（20年）第11回	100,000,000	109,850,000
静岡県	公募（20年）第14回	200,000,000	219,496,000
静岡県	公募（20年）第18回	100,000,000	107,393,000
静岡県	公募（20年）第30回	200,000,000	180,568,000
愛知県	公募平成20年度第8回	100,000,000	109,366,000
愛知県	公募（20年）平成22年度第8回	200,000,000	220,270,000
愛知県	公募（20年）平成24年度第4回	100,000,000	109,314,000
愛知県	公募（15年）平成24年度第14回	400,000,000	419,708,000
愛知県	公募平成24年度第17回	100,000,000	111,050,000
愛知県	公募（30年）平成25年度第8回	120,000,000	137,203,200
愛知県	公募（20年）平成25年度第17回	200,000,000	217,632,000
愛知県	公募平成26年度第8回	100,000,000	110,446,000
愛知県	公募平成26年度第13回	200,000,000	212,240,000
愛知県	公募平成26年度第17回	300,000,000	301,962,000
愛知県	公募（15年）平成27年度第2回	300,000,000	306,618,000
愛知県	公募平成27年度第15回	100,000,000	100,931,000
愛知県	公募平成29年度第8回	100,000,000	100,204,000
愛知県	公募平成29年度第9回	100,000,000	99,979,000
愛知県	公募平成30年度第7回	200,000,000	199,226,000
愛知県	公募令和3年度第10回	200,000,000	199,364,000
広島県	公募平成26年度第5回	109,650,000	110,117,109
広島県	公募平成26年度第7回	200,000,000	201,324,000
広島県	公募平成29年度第3回	100,000,000	99,958,000
広島県	公募平成29年度第4回	211,300,000	211,709,922
広島県	公募令和2年度第2回	100,000,000	98,231,000
広島県	公募令和2年度第7回	300,000,000	293,778,000
埼玉県	公募平成26年度第6回	200,000,000	201,290,000
埼玉県	公募平成26年度第7回	400,000,000	402,500,000
埼玉県	公募平成26年度第9回	100,000,000	100,599,000

	埼玉県 公募平成27年度第9回	100,000,000	100,402,000
	埼玉県 公募平成28年度第5回	100,000,000	99,880,000
	埼玉県 公募平成30年度第4回	200,000,000	199,548,000
	埼玉県 公募令和元年度第4回	100,000,000	98,432,000
	埼玉県 公募令和2年度第4回	300,000,000	294,558,000
	埼玉県 公募(15年)第1回	100,000,000	103,582,000
	埼玉県 公募(15年)第2回	200,000,000	206,106,000
	埼玉県 公募(15年)第3回	100,000,000	98,862,000
	埼玉県 公募(25年)第2回	200,000,000	186,802,000
	埼玉県 公募(30年)第9回	200,000,000	178,522,000
	埼玉県 公募(20年)第6回	100,000,000	110,151,000
	埼玉県 公募(20年)第16回	100,000,000	104,237,000
	埼玉県 公募(20年)第19回	100,000,000	95,489,000
	埼玉県 公募(20年)第20回	100,000,000	96,286,000
	福岡県 公募平成27年度第1回	300,000,000	302,943,000
	福岡県 公募平成29年度第1回	100,000,000	100,273,000
	福岡県 公募平成23年度第1回	100,000,000	104,618,000
	福岡県 公募(15年)平成27年度第1回	200,000,000	204,660,000
	福岡県 公募(15年)令和元年度第1回	100,000,000	94,778,000
	福岡県 公募(30年)平成19年度第1回	100,000,000	121,968,000
	福岡県 公募(30年)平成26年度第1回	100,000,000	110,663,000
	福岡県 公募(30年・定時償還)平成29年度第2回	100,000,000	91,411,000
	福岡県 公募(30年・定時償還)令和元年度第3回	100,000,000	78,817,000
	福岡県 公募(20年)平成20年度第1回	300,000,000	330,018,000
	福岡県 公募(20年)平成20年度第2回	100,000,000	109,419,000
	福岡県 公募(20年)平成22年度第1回	300,000,000	327,741,000
	福岡県 公募(20年)平成22年度第2回	300,000,000	336,192,000
	福岡県 公募(20年)平成24年度第2回	100,000,000	108,999,000
	千葉県 公募平成26年度第6回	120,000,000	120,517,200
	千葉県 公募平成27年度第6回	200,000,000	201,888,000
	千葉県 公募平成28年度第4回	200,000,000	199,910,000

千葉県	公募平成29年度第4回	100,000,000	99,958,000
千葉県	公募平成29年度第8回	100,000,000	99,907,000
千葉県	公募令和元年度第6回	300,000,000	295,380,000
千葉県	公募令和4年度第4回	100,000,000	97,907,000
千葉県	公募(20年)第1回	400,000,000	419,148,000
千葉県	公募(20年)第8回	100,000,000	111,769,000
千葉県	公募(20年)第13回	200,000,000	219,368,000
千葉県	公募(20年)第16回	200,000,000	216,536,000
千葉県	公募(20年)第17回	100,000,000	106,545,000
新潟県	公募平成30年度第2回	200,000,000	199,778,000
新潟県	公募令和2年度第2回	120,000,000	117,171,600
長野県	公募令和3年度第1回	300,000,000	292,962,000
茨城県	公募令和3年度第3回	200,000,000	199,448,000
茨城県	公募令和5年度第1回	100,000,000	100,300,000
群馬県	公募第12回	100,000,000	100,928,000
群馬県	公募(5年)第13回	300,000,000	299,175,000
群馬県	公募(20年)第3回	100,000,000	109,352,000
岐阜県	公募平成26年度第1回	186,670,000	187,885,221
共同発行市場地方債	公募第137回	500,000,000	503,040,000
共同発行市場地方債	公募第139回	155,000,000	156,027,650
共同発行市場地方債	公募第143回	540,000,000	543,396,600
共同発行市場地方債	公募第145回	1,000,000,000	1,006,000,000
共同発行市場地方債	公募第148回	100,000,000	100,971,000
共同発行市場地方債	公募第152回	400,000,000	403,948,000
共同発行市場地方債	公募第154回	300,000,000	302,442,000
共同発行市場地方債	公募第156回	200,000,000	200,080,000
共同発行市場地方債	公募第157回	300,000,000	299,958,000
共同発行市場地方債	公募第161回	300,000,000	299,682,000
共同発行市場地方債	公募第172回	600,000,000	602,148,000
共同発行市場地方債	公募第184回	100,000,000	99,591,000
共同発行市場地方債	公募第186回	400,000,000	399,488,000

	回			
	共同発行市場地方債 公募第188回	300,000,000	299,667,000	
	共同発行市場地方債 公募第190回	610,000,000	605,522,600	
	共同発行市場地方債 公募第191回	100,000,000	99,092,000	
	共同発行市場地方債 公募第194回	300,000,000	296,358,000	
	共同発行市場地方債 公募第196回	400,000,000	393,632,000	
	共同発行市場地方債 公募第197回	300,000,000	294,894,000	
	共同発行市場地方債 公募第200回	100,000,000	98,202,000	
	共同発行市場地方債 公募第206回	300,000,000	294,426,000	
	共同発行市場地方債 公募第213回	300,000,000	292,464,000	
	共同発行市場地方債 公募第215回	400,000,000	389,888,000	
	共同発行市場地方債 公募第228回	300,000,000	290,199,000	
	共同発行市場地方債 公募第229回	250,000,000	243,842,500	
	共同発行市場地方債 公募第234回	300,000,000	293,589,000	
	堺市 公募平成22年度第1回	100,000,000	110,738,000	
	堺市 公募平成26年度第1回	100,000,000	107,559,000	
	堺市 公募第3回	100,000,000	96,346,000	
	長崎県 公募令和元年度第3回	100,000,000	98,403,000	
	長崎県 公募令和4年度第3回	100,000,000	97,963,000	
	島根県 公募(30年)平成29年度第1回	100,000,000	91,547,000	
	島根県 公募(5年)令和2年度第3回	150,000,000	149,805,000	
	佐賀県 公募平成28年度第1回	100,000,000	99,916,000	
	福島県 公募平成26年度第1回	200,000,000	201,264,000	
	滋賀県 公募平成26年度第1回	142,000,000	142,897,440	
	熊本県 公募平成28年度第2回	132,000,000	131,829,720	
	熊本市 公募平成29年度第1回	100,000,000	100,064,000	
	新潟市 公募平成29年度第1回	100,000,000	100,109,000	
	浜松市 公募平成26年度第1回	100,000,000	100,438,000	
	大阪市 公募平成26年度第5回	100,000,000	100,693,000	

大阪市	公募平成27年度第6回	100,000,000	100,929,000
大阪市	公募令和2年度第2回	300,000,000	294,432,000
大阪市	公募令和3年度第2回	300,000,000	291,981,000
大阪市	公募(15年)第1回	100,000,000	104,962,000
大阪市	公募(20年)第1回	300,000,000	327,351,000
大阪市	公募(20年)第5回	100,000,000	111,223,000
大阪市	公募(20年)第6回	100,000,000	110,273,000
大阪市	公募(20年)第17回	200,000,000	219,990,000
大阪市	公募(20年)第26回	100,000,000	95,841,000
名古屋市	公募第488回	300,000,000	302,061,000
名古屋市	公募第489回	100,000,000	100,605,000
名古屋市	公募第501回	200,000,000	200,124,000
名古屋市	公募第503回	100,000,000	99,930,000
名古屋市	公募第504回	200,000,000	199,552,000
名古屋市	公募第511回	200,000,000	195,830,000
名古屋市	公募第512回	300,000,000	294,651,000
名古屋市	公募(12年)第1回	200,000,000	203,688,000
名古屋市	公募(15年)第2回	100,000,000	103,370,000
名古屋市	公募(20年)第19回	100,000,000	93,407,000
京都市	公募平成29年度第1回	100,000,000	100,244,000
京都市	公募平成29年度第4回	101,280,000	101,439,009
京都市	公募平成30年度第1回	101,090,000	100,987,899
京都市	公募(20年)第2回	100,000,000	104,424,000
京都市	公募(20年)第5回	200,000,000	215,304,000
京都市	公募(20年)第6回	100,000,000	109,176,000
京都市	公募(20年)第13回	100,000,000	106,037,000
京都市	公募(20年)第15回	200,000,000	189,832,000
神戸市	公募(20年)平成20年度第24回	100,000,000	109,579,000
神戸市	公募平成26年度第17回	300,000,000	301,050,000
神戸市	公募平成28年度第1回	200,000,000	199,972,000
神戸市	公募平成30年度第2回	200,000,000	178,522,000
横浜市	公募公債平成26年度5回	200,000,000	201,220,000
横浜市	公募平成28年度第5回	300,000,000	301,212,000
横浜市	公募平成29年度第3回	100,000,000	100,303,000
横浜市	公募2019年度第3回	200,000,000	196,276,000



	横浜市 公募（30年）第2回	200,000,000	236,938,000
	横浜市 公募（20年）第11回	100,000,000	107,108,000
	横浜市 公募（20年）第18回	100,000,000	110,900,000
	横浜市 公募（20年）第26回	100,000,000	110,591,000
	横浜市 公募（20年）第30回	100,000,000	106,276,000
	札幌市 公募（15年）平成23年度第9回	200,000,000	209,774,000
	札幌市 公募（20年）平成24年度第1回	100,000,000	110,130,000
	札幌市 公募（20年）平成24年度第11回	100,000,000	110,790,000
	札幌市 公募平成26年度第9回	200,000,000	201,122,000
	札幌市 公募（5年）令和3年度第8回	100,000,000	96,707,000
	札幌市 公募（5年）令和4年度第4回	100,000,000	98,518,000
	川崎市 公募第95回	160,000,000	159,016,000
	川崎市 公募（20年）第14回	200,000,000	220,140,000
	川崎市 公募（20年）第17回	100,000,000	108,349,000
	川崎市 公募（20年）第19回	100,000,000	106,144,000
	川崎市 公募（30年）第11回	100,000,000	88,671,000
	川崎市 公募（5年）第67回	100,000,000	100,433,000
	北九州市 公募（10年）令和2年度第2回	200,000,000	194,838,000
	北九州市 公募（20年）第3回	200,000,000	217,896,000
	北九州市 公募（20年）第14回	100,000,000	109,937,000
	福岡市 公募（20年）平成21年度第3回	200,000,000	221,732,000
	福岡市 公募（20年）平成23年度第4回	100,000,000	110,582,000
	福岡市 公募平成26年度第2回	100,000,000	107,587,000
	福岡市 公募平成26年度第5回	100,000,000	100,661,000
	福岡市 公募平成26年度第8回	160,000,000	161,073,600
	福岡市 公募（5年）2020年度第9回	300,000,000	299,490,000
	広島市 公募平成26年度第2回	100,000,000	100,596,000
	広島市 公募平成27年度第2回	500,000,000	504,660,000
	広島市 公募（10年）平成30年度第6回	241,000,000	238,891,250
	広島市 公募（10年）令和3年度第6回	100,000,000	97,168,000
	千葉市 公募平成26年度第2回	200,000,000	201,288,000

		三重県 公募平成28年度第1回	155,000,000	155,292,950	
		福井県 公募平成27年度第4回	200,000,000	200,000,000	
		福井県 公募令和元年度第3回	200,000,000	196,254,000	
		福井県 公募令和4年度第5回	100,000,000	97,904,000	
		徳島県 公募平成29年度第2回	200,000,000	200,128,000	
		徳島県 公募平成30年度第2回	300,000,000	299,667,000	
		山梨県 公募令和元年度第1回	100,000,000	98,127,000	
		岡山県 公募平成28年度第2回	168,900,000	169,426,968	
		岡山県 公募令和2年度第3回	300,000,000	293,865,000	
		岡山県 公募令和3年度第1回	100,000,000	96,862,000	
		秋田県 公募令和3年度第1回	116,600,000	113,127,652	
		愛知県・名古屋市折半保証名古屋高速道路債券 第96回	100,000,000	110,202,000	
		愛知県・名古屋市折半保証名古屋高速道路債券 第102回	300,000,000	334,167,000	
		愛知県・名古屋市折半保証名古屋高速道路債券 第148回	100,000,000	92,218,000	
		福岡北九州高速道路債券 第117回	100,000,000	109,836,000	
		福岡北九州高速道路債券 第136回	100,000,000	102,246,000	
		福岡北九州高速道路債券 第145回	100,000,000	94,812,000	
	小計	銘柄数：302 組入時価比率：5.9%	53,998,600,000	54,976,469,001 5.9%	
	合計			54,976,469,001	
特殊債券	日本円	フランス預金供託公庫 第4回円貨債券(2014)	100,000,000	100,553,000	
		新関西国際空港債券 政府保証第5回	117,000,000	117,236,340	
		新関西国際空港社債 財投機関債第6回	300,000,000	315,681,000	
		新関西国際空港社債 財投機関債第9回	100,000,000	104,324,000	
		新関西国際空港社債 財投機関債第12回	100,000,000	103,579,000	
		日本政策投資銀行社債 財投機関債第47回	100,000,000	103,837,000	
		日本政策投資銀行社債 財投機関債第66回	400,000,000	399,780,000	
		日本政策投資銀行社債 財投機関債第78回	200,000,000	200,406,000	
		日本政策投資銀行社債 財投機関債第82回	100,000,000	100,296,000	

日本政策投資銀行社債 財投機関債 第86回	300,000,000	300,186,000
日本政策投資銀行社債 財投機関債 第96回	200,000,000	198,852,000
日本政策投資銀行社債 財投機関債 第101回	300,000,000	299,673,000
日本政策投資銀行社債 財投機関債 第137回	400,000,000	399,148,000
日本政策投資銀行社債 財投機関債 第138回	400,000,000	388,628,000
日本政策投資銀行社債 政府保証第 37回	400,000,000	400,136,000
日本政策投資銀行社債 政府保証第 42回	300,000,000	300,129,000
日本政策投資銀行社債 政府保証第 52回	410,000,000	409,913,900
日本政策投資銀行社債 政府保証第 55回	300,000,000	297,237,000
日本政策投資銀行社債 政府保証第 75回	370,000,000	362,255,900
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第1回	400,000,000	519,716,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第4回	100,000,000	119,461,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第8回	200,000,000	212,454,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第17回	100,000,000	106,948,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第23回	300,000,000	326,067,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第26回	100,000,000	121,603,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第33回	200,000,000	258,548,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第39回	300,000,000	331,191,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第47回	100,000,000	111,654,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第55回	100,000,000	111,500,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第89回	100,000,000	109,167,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第95回	200,000,000	219,608,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第103回	350,000,000	383,047,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第105回	100,000,000	110,924,000
日本高速道路保有・債務返済機構債 券 財投機関債第136回	200,000,000	201,304,000

	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第145回	300,000,000	311,223,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第149回	100,000,000	105,216,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第151回	100,000,000	104,097,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第157回	100,000,000	102,696,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第164回	100,000,000	103,187,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第173回	100,000,000	77,246,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第188回	100,000,000	95,450,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第204回	100,000,000	86,110,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第260回	200,000,000	163,614,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第90回	100,000,000	110,907,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第92回	200,000,000	221,920,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第97回	200,000,000	222,318,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第99回	200,000,000	223,744,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第106回	200,000,000	222,878,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第111回	100,000,000	110,916,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第114回	200,000,000	220,588,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第123回	100,000,000	115,830,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第146回	100,000,000	110,192,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第164回	100,000,000	109,506,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第165回	100,000,000	111,303,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第167回	100,000,000	109,501,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第169回	200,000,000	218,456,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第171回	300,000,000	325,872,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第172回	300,000,000	338,754,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第176回	200,000,000	219,036,000

	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第181回	100,000,000	109,763,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第183回	100,000,000	110,397,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第185回	200,000,000	221,412,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第196回	400,000,000	444,976,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第216回	100,000,000	108,064,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第217回	100,000,000	109,498,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第219回	100,000,000	108,025,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第224回	100,000,000	109,401,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第225回	190,000,000	191,174,200
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第228回	100,000,000	107,058,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第229回	630,000,000	634,277,700
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第233回	100,000,000	106,139,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第234回	100,000,000	100,656,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第239回	500,000,000	522,180,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第241回	200,000,000	201,406,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第245回	400,000,000	413,792,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第246回	200,000,000	208,988,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第258回	400,000,000	403,108,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第261回	401,000,000	404,171,910
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第271回	151,000,000	150,856,550
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第296回	200,000,000	191,688,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第297回	100,000,000	100,018,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第306回	403,000,000	403,814,060
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第315回	100,000,000	100,117,000
	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第321回	600,000,000	600,978,000

日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第3 2 4回	100,000,000	99,853,000
日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第3 3 5回	100,000,000	90,137,000
日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第3 3 9回	500,000,000	500,570,000
日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第3 4 2回	131,000,000	130,785,160
日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第3 5 1回	100,000,000	99,674,000
日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第3 5 4回	200,000,000	199,026,000
日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第3 5 7回	100,000,000	99,872,000
日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第3 9 8回	100,000,000	78,693,000
日本高速道路保有・債務返済機構承継 財投機関債第9回	100,000,000	119,041,000
日本高速道路保有・債務返済機構承継 財投機関債第2 8回	400,000,000	481,312,000
日本高速道路保有・債務返済機構承継 財投機関債第3 3回	100,000,000	121,680,000
日本高速道路保有・債務返済機構承継 財投機関債第3 8回	1,000,000,000	1,026,140,000
公営企業債券 3 0年第4回財投機関債	300,000,000	366,309,000
地方公営企業等金融機構債券(2 0年) 第1回	100,000,000	109,263,000
地方公共団体金融機構債券(2 0年) 第1回	300,000,000	333,150,000
地方公共団体金融機構債券 2 0年第4回	100,000,000	110,831,000
地方公共団体金融機構債券 F 1 6回	100,000,000	106,476,000
地方公共団体金融機構債券 2 0年第6回	300,000,000	335,556,000
地方公共団体金融機構債券 2 0年第7回	400,000,000	446,608,000
地方公共団体金融機構債券(2 0年) 第1 0回	300,000,000	326,559,000
地方公共団体金融機構債券(2 0年) 第1 9回	200,000,000	220,174,000
地方公共団体金融機構債券(2 0年) 第2 0回	100,000,000	109,821,000
地方公共団体金融機構債券 F 1 0 4回	100,000,000	102,025,000
地方公共団体金融機構債券 F 1 2 2回	100,000,000	104,867,000
地方公共団体金融機構債券 F 1 2 4回	100,000,000	104,843,000

地方公共団体金融機構債券 F 1 3 2回	500,000,000	510,115,000
地方公共団体金融機構債券 (20 年) 第24回	100,000,000	109,360,000
地方公共団体金融機構債券 F 1 4 2回	100,000,000	101,319,000
地方公共団体金融機構債券 F 1 4 5回	200,000,000	203,268,000
地方公共団体金融機構債券 F 1 4 7回	100,000,000	104,156,000
地方公共団体金融機構債券 F 1 6 0回	100,000,000	103,640,000
地方公共団体金融機構債券 (20 年) 第29回	100,000,000	109,891,000
地方公共団体金融機構債券 (15 年) 第2回	200,000,000	208,938,000
地方公共団体金融機構債券 (20 年) 第37回	100,000,000	107,946,000
地方公共団体金融機構債券 (20 年) 第38回	100,000,000	107,400,000
地方公共団体金融機構債券 F 2 4 0回	300,000,000	312,546,000
地方公共団体金融機構債券 F 2 4 8回	100,000,000	107,738,000
政保 地方公共団体金融機構債券 第64回	100,000,000	100,625,000
地方公共団体金融機構債券 第64 回	100,000,000	100,652,000
地方公共団体金融機構債券 (20 年) 第39回	200,000,000	213,388,000
政保 地方公共団体金融機構債券 第65回	400,000,000	402,672,000
政保 地方公共団体金融機構債券 第69回	420,000,000	422,583,000
地方公共団体金融機構債券 (20 年) 第43回	100,000,000	103,770,000
政保 地方公共団体金融機構債券 第72回	189,000,000	190,629,180
政保 地方公共団体金融機構債券 第73回	209,000,000	210,759,780
地方公共団体金融機構債券 第74 回	300,000,000	302,595,000
地方公共団体金融機構債券 第77 回	100,000,000	100,910,000
政保 地方公共団体金融機構債券 第78回	616,000,000	620,817,120
地方公共団体金融機構債券 第79 回	400,000,000	403,828,000
政保 地方公共団体金融機構債券 第80回	300,000,000	302,022,000

政保 地方公共団体金融機構債券 第83回	116,000,000	115,888,640
地方公共団体金融機構債券（20 年）第53回	200,000,000	182,678,000
政保 地方公共団体金融機構債券 第91回	300,000,000	300,102,000
地方公共団体金融機構債券（20 年）第58回	100,000,000	97,463,000
地方公共団体金融機構債券 第95 回	200,000,000	200,336,000
地方公共団体金融機構債券 第10 1回	400,000,000	400,252,000
政保 地方公共団体金融機構債券 第108回	157,000,000	156,580,810
政保 地方公共団体金融機構債券 第110回	100,000,000	99,519,000
政保 地方公共団体金融機構債券 第113回	110,000,000	109,880,100
政保 地方公共団体金融機構債券 第119回	116,000,000	114,469,960
政保 地方公共団体金融機構債券 第121回	100,000,000	98,079,000
政保 地方公共団体金融機構債券 11回	500,000,000	500,005,000
地方公共団体金融機構債券 12回	200,000,000	166,688,000
地方公共団体金融機構債券 第16 6回	200,000,000	201,524,000
公営企業債券（20年）第19回 財投機関債	100,000,000	107,485,000
公営企業債券（20年）第20回 財投機関債	100,000,000	107,579,000
公営企業債券（20年）第23回 財投機関債	200,000,000	217,238,000
公営企業債券（20年）第24回 財投機関債	100,000,000	109,473,000
公営企業債券（20年）第25回 財投機関債	100,000,000	110,682,000
首都高速道路 第28回	200,000,000	199,124,000
阪神高速道路 第25回	100,000,000	99,655,000
日本政策金融公庫債券 政府保証第 63回	270,000,000	263,058,300
都市再生債券 財投機関債第93回	100,000,000	104,268,000
都市再生債券 財投機関債第96回	200,000,000	201,342,000
都市再生債券 財投機関債第97回	100,000,000	103,777,000
都市再生債券 財投機関債第101 回	100,000,000	103,306,000
都市再生債券 財投機関債第109 回	100,000,000	103,105,000



	都市再生債券 財投機関債第1 1 3回	300,000,000	307,392,000
	都市再生債券 財投機関債第1 2 1回	200,000,000	199,082,000
	都市再生債券 財投機関債第1 2 7回	200,000,000	199,596,000
	都市再生債券 財投機関債第1 5 5回	100,000,000	79,824,000
	本州四国連絡橋債券 財投機関債第7回	100,000,000	104,074,000
	民間都市開発推進機構 政府保証第1 7回	400,000,000	400,988,000
	関西国際空港債券 政府保証第5 4回	300,000,000	332,010,000
	預金保険機構債券 政府保証第2 3 0回	600,000,000	600,624,000
	預金保険機構債券 政府保証第2 3 1回	300,000,000	300,360,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第3回	400,000,000	430,428,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第6回	200,000,000	217,672,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第4 2回	100,000,000	103,097,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第4 9回	100,000,000	111,202,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第5 9回	100,000,000	110,168,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第7 5回	100,000,000	111,432,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第7 7回	300,000,000	314,166,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第7 8回	100,000,000	111,419,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第8 1回	100,000,000	110,514,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第8 5回	200,000,000	219,752,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第9 0回	200,000,000	209,850,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第9 4回	100,000,000	110,448,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第1 1 1回	100,000,000	104,775,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第1 1 2回	100,000,000	109,415,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第1 1 5回	100,000,000	110,124,000
	住宅金融支援機構債券 財投機関債第1 2 0回	100,000,000	110,513,000

住宅金融支援機構債券 財投機関債 第123回	300,000,000	330,138,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第128回	100,000,000	118,176,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第132回	200,000,000	207,656,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第134回	100,000,000	104,885,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第137回	100,000,000	104,940,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第143回	100,000,000	104,477,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第162回	100,000,000	104,918,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第177回	450,000,000	454,162,500
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第188回	300,000,000	299,829,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第198回	300,000,000	300,048,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第208回	200,000,000	200,304,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第223回	100,000,000	97,656,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第244回	130,000,000	129,677,600
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第277回	100,000,000	80,740,000
住宅金融支援機構債券 財投機関債 第301回	300,000,000	299,529,000
成田国際空港 第17回	400,000,000	402,372,000
成田国際空港 第19回	100,000,000	100,244,000
沖縄振興開発金融公庫債券 財投機 関債第6回	200,000,000	207,406,000
商工債券 利付第831回い号	200,000,000	199,966,000
商工債券 利付第833回い号	100,000,000	99,911,000
商工債券 利付第845回い号	300,000,000	299,556,000
商工債券 利付第852回い号	100,000,000	99,645,000
商工債券 利付第854回い号	400,000,000	398,324,000
商工債券 利付第856回い号	200,000,000	199,120,000
商工債券 利付第862回い号	100,000,000	99,744,000
商工債券 利付第868回い号	100,000,000	99,731,000
商工債券 利付第871回い号	100,000,000	100,087,000
商工債券 利付第872回い号	100,000,000	100,490,000
しんきん中金債券 利付第374回	300,000,000	299,394,000

しんきん中金債券 利付第377回	100,000,000	99,737,000
しんきん中金債券 利付第379回	400,000,000	398,712,000
しんきん中金債券 利付第380回	100,000,000	99,640,000
しんきん中金債券 利付第400回	100,000,000	100,462,000
しんきん中金債券 利付第402回	100,000,000	100,092,000
商工債券 利付(10年)第15回	200,000,000	201,316,000
商工債券 利付(10年)第41回	200,000,000	192,896,000
国際協力機構債券 第6回財投機関債	200,000,000	222,638,000
国際協力機構債券 第15回財投機関債	100,000,000	109,380,000
国際協力機構債券 第25回財投機関債	100,000,000	107,456,000
国際協力機構債券 第32回財投機関債	100,000,000	103,938,000
国際協力機構債券 第35回財投機関債	100,000,000	99,898,000
国際協力機構債券 第40回財投機関債	100,000,000	100,174,000
国際協力機構債券 第68回財投機関債	100,000,000	97,845,000
東日本高速道路 第57回	100,000,000	99,840,000
東日本高速道路 第61回	200,000,000	196,706,000
東日本高速道路 第64回	100,000,000	98,113,000
東日本高速道路 第83回	200,000,000	199,332,000
東日本高速道路 第86回	400,000,000	397,964,000
中日本高速道路 第63回	100,000,000	100,995,000
中日本高速道路 第79回	300,000,000	299,982,000
中日本高速道路 第86回	100,000,000	99,762,000
中日本高速道路 第89回	100,000,000	99,686,000
中日本高速道路 第90回	300,000,000	298,920,000
中日本高速道路 第91回	200,000,000	199,124,000
西日本高速道路 第30回	300,000,000	300,084,000
西日本高速道路 第64回	200,000,000	199,124,000
鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券 財投機関債第68回	200,000,000	201,170,000
鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券 財投機関債第69回	100,000,000	106,834,000
鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券 財投機関債第71回	500,000,000	503,220,000
鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券 財投機関債第90回	300,000,000	291,543,000

鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券 財投機関債第135回	300,000,000	293,664,000
貸付債権担保第40回住宅金融公庫債券	21,082,000	21,290,922
貸付債権担保第7回住宅金融支援機構債券	10,414,000	10,527,512
貸付債権担保第25回住宅金融支援機構債券	15,601,000	16,387,290
貸付債権担保第28回住宅金融支援機構債券	53,739,000	56,481,301
貸付債権担保第42回住宅金融支援機構債券	47,794,000	49,616,385
貸付債権担保第45回住宅金融支援機構債券	56,040,000	58,429,545
貸付債権担保第52回住宅金融支援機構債券	41,452,000	42,987,796
貸付債権担保第24回住宅金融支援機構債券	27,658,000	28,805,807
貸付債権担保第48回住宅金融支援機構債券	51,957,000	54,146,467
貸付債権担保第40回住宅金融支援機構債券	60,039,000	61,988,466
貸付債権担保第62回住宅金融支援機構債券	90,273,000	93,044,381
貸付債権担保第60回住宅金融支援機構債券	79,941,000	82,757,321
貸付債権担保第61回住宅金融支援機構債券	53,582,000	55,313,234
貸付債権担保第51回住宅金融支援機構債券	19,226,000	19,974,275
貸付債権担保第43回住宅金融支援機構債券	47,156,000	49,219,075
貸付債権担保第79回住宅金融支援機構債券	31,287,000	32,069,487
貸付債権担保第81回住宅金融支援機構債券	69,402,000	71,119,005
貸付債権担保第72回住宅金融支援機構債券	30,005,000	30,772,227
貸付債権担保第70回住宅金融支援機構債券	92,970,000	96,036,150
貸付債権担保第33回住宅金融支援機構債券	19,905,000	20,897,463
貸付債権担保第34回住宅金融支援機構債券	20,168,000	21,185,677
貸付債権担保第35回住宅金融支援機構債券	19,080,000	20,016,637
貸付債権担保第46回住宅金融支援機構債券	18,250,000	19,038,035
貸付債権担保第55回住宅金融支援機構債券	51,570,000	53,502,843

貸付債権担保第56回住宅金融支援機構債券	73,569,000	76,316,066
貸付債権担保第57回住宅金融支援機構債券	24,689,000	25,629,650
貸付債権担保第76回住宅金融支援機構債券	59,462,000	61,320,782
貸付債権担保第23回住宅金融支援機構債券	56,136,000	58,526,270
貸付債権担保第32回住宅金融支援機構債券	56,253,000	58,855,263
貸付債権担保第39回住宅金融支援機構債券	99,795,000	103,523,341
貸付債権担保第58回住宅金融支援機構債券	55,090,000	57,175,707
貸付債権担保第64回住宅金融支援機構債券	98,016,000	100,838,860
貸付債権担保第71回住宅金融支援機構債券	87,912,000	90,129,140
貸付債権担保第73回住宅金融支援機構債券	70,696,000	73,221,968
貸付債権担保第75回住宅金融支援機構債券	58,564,000	60,525,308
貸付債権担保第83回住宅金融支援機構債券	148,976,000	152,368,183
貸付債権担保第84回住宅金融支援機構債券	255,318,000	260,817,549
貸付債権担保第88回住宅金融支援機構債券	39,545,000	40,203,819
貸付債権担保第89回住宅金融支援機構債券	40,657,000	41,367,277
貸付債権担保第90回住宅金融支援機構債券	41,650,000	42,208,943
貸付債権担保第92回住宅金融支援機構債券	88,428,000	88,909,932
貸付債権担保第93回住宅金融支援機構債券	93,934,000	93,625,896
貸付債権担保第94回住宅金融支援機構債券	49,531,000	49,916,351
貸付債権担保第96回住宅金融支援機構債券	53,188,000	53,389,050
貸付債権担保第97回住宅金融支援機構債券	156,720,000	158,099,136
貸付債権担保第98回住宅金融支援機構債券	162,966,000	164,918,332
貸付債権担保第99回住宅金融支援機構債券	110,198,000	111,327,529
貸付債権担保第100回住宅金融支援機構債券	53,515,000	54,037,841
貸付債権担保第101回住宅金融支援機構債券	54,617,000	55,303,535

貸付債権担保第1 1 5 回住宅金融支援機構債券	208,650,000	204,635,574
貸付債権担保第1 1 6 回住宅金融支援機構債券	140,392,000	138,259,445
貸付債権担保第1 1 7 回住宅金融支援機構債券	140,932,000	138,517,834
貸付債権担保第1 1 8 回住宅金融支援機構債券	70,029,000	68,907,135
貸付債権担保第1 1 9 回住宅金融支援機構債券	140,574,000	138,195,487
貸付債権担保第1 2 0 回住宅金融支援機構債券	70,616,000	69,092,812
貸付債権担保第1 2 1 回住宅金融支援機構債券	71,326,000	69,887,354
貸付債権担保第1 2 3 回住宅金融支援機構債券	72,715,000	71,337,050
貸付債権担保第1 2 5 回住宅金融支援機構債券	289,856,000	283,534,240
貸付債権担保第1 2 6 回住宅金融支援機構債券	219,684,000	214,916,857
貸付債権担保第1 2 8 回住宅金融支援機構債券	146,506,000	143,241,846
貸付債権担保第1 2 9 回住宅金融支援機構債券	149,762,000	146,690,381
貸付債権担保第1 3 4 回住宅金融支援機構債券	152,288,000	148,349,832
貸付債権担保第1 3 5 回住宅金融支援機構債券	76,648,000	74,648,253
貸付債権担保第1 3 6 回住宅金融支援機構債券	76,985,000	75,225,122
貸付債権担保第1 4 0 回住宅金融支援機構債券	77,090,000	74,971,566
貸付債権担保第1 4 2 回住宅金融支援機構債券	239,349,000	231,553,403
貸付債権担保第1 4 4 回住宅金融支援機構債券	237,054,000	229,378,191
貸付債権担保第1 5 0 回住宅金融支援機構債券	418,675,000	400,450,077
貸付債権担保第1 5 2 回住宅金融支援機構債券	168,988,000	163,046,381
貸付債権担保第1 5 4 回住宅金融支援機構債券	170,724,000	164,221,122
貸付債権担保第1 6 4 回住宅金融支援機構債券	269,724,000	259,353,112
貸付債権担保第1 6 5 回住宅金融支援機構債券	178,646,000	172,236,181
貸付債権担保第1 6 6 回住宅金融支援機構債券	269,370,000	260,728,610
貸付債権担保第1 6 7 回住宅金融支援機構債券	180,120,000	174,246,286

		貸付債権担保第168回住宅金融支援機構債券	179,962,000	173,926,074	
		貸付債権担保第169回住宅金融支援機構債券	272,856,000	263,374,254	
		貸付債権担保第170回住宅金融支援機構債券	456,075,000	439,756,636	
		貸付債権担保第174回住宅金融支援機構債券	278,739,000	268,983,135	
		貸付債権担保第175回住宅金融支援機構債券	281,448,000	271,042,867	
		貸付債権担保第176回住宅金融支援機構債券	281,505,000	269,966,110	
		貸付債権担保第177回住宅金融支援機構債券	188,026,000	181,520,300	
		貸付債権担保第178回住宅金融支援機構債券	281,685,000	273,916,127	
		貸付債権担保第179回住宅金融支援機構債券	283,287,000	274,762,894	
		貸付債権担保第180回住宅金融支援機構債券	189,286,000	184,442,171	
		貸付債権担保第183回住宅金融支援機構債券	578,112,000	563,792,165	
		貸付債権担保第185回住宅金融支援機構債券	291,147,000	285,082,407	
		貸付債権担保第186回住宅金融支援機構債券	194,696,000	193,525,877	
	小計	銘柄数：334 組入時価比率：6.7%	60,647,543,000	62,146,128,907 6.7%	
	合計			62,146,128,907	
社債券	日本円	フランス相互信用連合銀行（BFCEM）第24回円貨社債	100,000,000	99,913,000	
		フランス相互信用連合銀行（BFCEM）第29回円貨社債	200,000,000	199,496,000	
		フランス相互信用連合銀行（BFCEM）第31回円貨社債	100,000,000	96,222,000	
		ビー・ピー・シー・イー・エス・エー 第14回円貨社債	100,000,000	99,162,000	
		ビー・ピー・シー・イー・エス・エー 第25回非上位円貨社債	200,000,000	196,796,000	
		クレディ・アグリコル・エス・エー 第6回円貨社債（2014）	100,000,000	100,333,000	
		クレディ・アグリコル・エス・エー 第16回円貨社債（2018）	100,000,000	97,237,000	
		スタンダード・チャータード 第3回円貨社債（2015）	100,000,000	99,955,000	
		エイチエスビーシー・ホールディングス・ピーエルシー 第3回円	100,000,000	99,493,000	
		ロイズ・バンキング・グループ・ピーエルシー 第7回円貨社債	100,000,000	98,007,000	

サンタンデール銀行 第1回円貨社債	100,000,000	99,644,000
フランス電力 第4回円貨社債(2017)	100,000,000	100,016,000
I N P E X 第1回社債間限定同順位特約付	500,000,000	497,565,000
長谷工コーポレーション 第14回社債間限定同順位特約付	200,000,000	196,230,000
五洋建設 第7回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,576,000
大和ハウス工業 第9回社債間限定同順位特約付	100,000,000	94,848,000
大和ハウス工業 第25回特定社債間限定同順位特約付	300,000,000	289,326,000
明治ホールディングス 第10回社債間限定同順位特約付	200,000,000	198,960,000
アサヒグループホールディングス 第16回特定社債間限定同順位	300,000,000	298,698,000
麒麟ホールディングス 第10回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,725,000
コカ・コーラボトラーズジャパン 第2回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,704,000
コカ・コーラボトラーズジャパン 第3回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,920,000
日本たばこ産業 第13回	100,000,000	99,550,000
三越伊勢丹ホールディングス 第6回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,483,000
森ヒルズリート投資法人 第17回特定投資法人債間限定同順位特約付	200,000,000	199,574,000
森ビル 第23回社債間限定同順位特約付	100,000,000	92,690,000
東急不動産ホールディングス 第20回社債間限定同順位特約付	100,000,000	98,134,000
セブン&アイ・ホールディングス 第14回社債間限定同順位特約付	600,000,000	599,352,000
セブン&アイ・ホールディングス 第15回社債間限定同順位特約付	200,000,000	199,192,000
東レ 第30回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,960,000
東レ 第33回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,042,000
旭化成 第11回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,949,000
日本土地建物 第4回社債間限定同順位特約付	200,000,000	196,832,000
王子ホールディングス 第34回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,988,000
王子ホールディングス 第42回社債間限定同順位特約付	600,000,000	597,450,000



日本製紙 第15回社債間限定同順位特約付	100,000,000	92,571,000
レゾナックホールディングス 第35回社債間限定同順位特約付	100,000,000	94,597,000
住友化学 第52回社債間限定同順位特約付	100,000,000	93,296,000
住友化学 第56回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,398,000
イビデン 第11回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,872,000
三井化学 第48回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,058,000
JSR 第9回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,796,000
三菱ケミカルホールディングス 第29回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,859,000
三菱ケミカルホールディングス 第33回社債間限定同順位特約付	200,000,000	193,474,000
三菱ケミカルホールディングス 第37回社債間限定同順位特約付	100,000,000	88,367,000
ダイセル 第17回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,704,000
電通 第3回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,526,000
電通 第6回社債間限定同順位特約付	300,000,000	296,217,000
武田薬品工業 第16回社債間限定同順位特約付	200,000,000	192,494,000
オリエンタルランド 第16回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,892,000
オリエンタルランド 第18回社債間限定同順位特約付	200,000,000	194,550,000
ヤフー 第6回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,886,000
ヤフー 第12回社債間限定同順位特約付	200,000,000	198,222,000
楽天 第13回社債間限定同順位特約付	100,000,000	65,924,000
楽天 第15回社債間限定同順位特約付	100,000,000	94,494,000
富士フイルムホールディングス 第16回社債間限定同順位特約付	200,000,000	199,716,000
出光興産 第14回社債間限定同順位特約付	100,000,000	95,871,000
JXホールディングス 第13回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,956,000
コスモエネルギーホールディングス 第1回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,270,000
ブリヂストン 第11回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,875,000

住友理工 第7回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,064,000
AGC 第2回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,821,000
太平洋セメント 第27回社債間限定同順位特約付	100,000,000	98,601,000
日本碍子 第7回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,430,000
新日鐵住金 第9回社債間限定同順位特約付	300,000,000	297,957,000
ジェイ エフ イー ホールディングス 第28回社債間限定同順位	100,000,000	99,944,000
ジェイ エフ イー ホールディングス 第34回社債間限定同順位	100,000,000	100,048,000
プロテリアル 第32回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,858,000
三菱マテリアル 第36回社債間限定同順位特約付	100,000,000	98,941,000
住友金属鉱山 第33回社債間限定同順位特約付	200,000,000	199,032,000
住友金属鉱山 第35回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,132,000
住友電気工業 第26回社債間限定同順位特約付	200,000,000	199,544,000
LIXILグループ 第16回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,494,000
住友重機械工業 第8回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,132,000
日立建機 第20回社債間限定同順位特約付	100,000,000	95,971,000
荏原製作所 第10回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,664,000
ダイキン工業 第30回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,150,000
日立製作所 第17回社債間限定同順位特約付	200,000,000	209,378,000
セイコーエプソン 第15回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,955,000
パナソニック 第17回社債間限定同順位特約付	200,000,000	200,754,000
パナソニック 第21回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,747,000
パナソニック 第22回社債間限定同順位特約付	200,000,000	197,770,000
パナソニック 第23回社債間限定同順位特約付	100,000,000	95,920,000
TDK 第7回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,676,000
デンソー 第17回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,066,000

東海理化電機製作所 第1回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	99,566,000	
三菱重工業 第35回社債間限定同 順位特約付	100,000,000	99,777,000	
三菱重工業 第38回社債間限定同 順位特約付 (第2回グリーンボ)	300,000,000	298,197,000	
I H I 第50回社債間限定同順位 特約付	100,000,000	95,547,000	
J A 三井リース 第8回社債間限定 同順位特約付	100,000,000	100,116,000	
三井住友トラスト・パナソニックフ ァイナンス 第9回社債間限定	100,000,000	99,734,000	
トヨタ自動車 第26回社債間限定 同順位特約付	700,000,000	697,312,000	
トヨタ自動車 第27回社債間限定 同順位特約付	300,000,000	291,951,000	
楽天カード 第3回社債間限定同順 位特約付	100,000,000	86,800,000	
ニコン 第22回特定社債間限定同 順位特約付	100,000,000	99,647,000	
丸紅 第113回社債間限定同順位 特約付	100,000,000	96,028,000	
豊田通商 第18回社債間限定同順 位特約付	100,000,000	101,830,000	
豊田通商 第19回社債間限定同順 位特約付	200,000,000	204,126,000	
三井物産 第64回社債間限定同順 位特約付	100,000,000	107,708,000	
三井物産 第71回社債間限定同順 位特約付	100,000,000	103,538,000	
住友商事 第49回社債間限定同順 位特約付	100,000,000	103,886,000	
住友商事 第53回社債間限定同順 位特約付	100,000,000	99,690,000	
クレディセゾン 第65回社債間限 定同順位特約付	100,000,000	99,887,000	
クレディセゾン 第76回社債間限 定同順位特約付	100,000,000	97,797,000	
三菱UFJフィナンシャル・グルー プ 第7回劣後特約付	100,000,000	101,820,000	
りそなホールディングス 第20回 社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,840,000	
三井住友トラスト・ホールディング ス 第2回劣後特約付	200,000,000	200,478,000	
みずほコーポレート銀行 第8回特 定社債間限定同順位特約付	100,000,000	108,320,000	
三菱東京UFJ銀行 第23回劣後 特約付	100,000,000	111,514,000	
三菱東京UFJ銀行 第24回劣後 特約付	100,000,000	107,618,000	

三井住友フィナンシャルグループ 第1回劣後特約付	300,000,000	300,669,000
三井住友フィナンシャルグループ 第3回劣後特約付	100,000,000	100,271,000
三井住友フィナンシャルグループ 第4回劣後特約付	100,000,000	101,070,000
三井住友信託銀行 第18回社債間 限定同順位特約付	200,000,000	199,324,000
セブン銀行 第11回社債間限定同 順位特約付	100,000,000	100,514,000
セブン銀行 第12回社債間限定同 順位特約付	300,000,000	299,592,000
みずほ銀行 第7回劣後特約付	100,000,000	106,569,000
みずほリース 第3回社債間限定同 順位特約付	300,000,000	299,700,000
みずほリース 第7回社債間限定同 順位特約付	200,000,000	198,696,000
みずほリース 第9回社債間限定同 順位特約付	100,000,000	98,399,000
N T Tファイナンス 第2回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	100,020,000
N T Tファイナンス 第16回日本 電信電話保証付	200,000,000	199,784,000
N T Tファイナンス 第17回日本 電信電話保証付	200,000,000	199,408,000
N T Tファイナンス 第18回日本 電信電話保証付	300,000,000	294,765,000
東京センチュリー 第28回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	97,736,000
東京センチュリー 第33回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	99,033,000
ホンダファイナンス 第63回社債 間限定同順位特約付	100,000,000	99,856,000
ホンダファイナンス 第69回社債 間限定同順位特約付	200,000,000	199,048,000
S B Iホールディングス 第26回 社債間限定同順位特約付	200,000,000	199,154,000
トヨタファイナンス 第81回社債 間限定同順位特約付	100,000,000	99,810,000
トヨタファイナンス 第96回社債 間限定同順位特約付	800,000,000	796,624,000
リコーリース 第28回社債間限定 同順位特約付	100,000,000	99,691,000
イオンフィナンシャルサービス 第 21回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,838,000
アコム 第78回特定社債間限定同 順位特約付	100,000,000	99,879,000
オリエントコーポレーション 第3 2回社債間限定同順位特約付	100,000,000	95,102,000

	日立キャピタル 第61回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,929,000
	日立キャピタル 第80回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,631,000
	オリックス 第189回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,324,000
	オリックス 第202回社債間限定同順位特約付	100,000,000	96,757,000
	三井住友ファイナンス&リース 第27回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,634,000
	三菱UFJリース 第52回社債間限定同順位特約付	300,000,000	299,664,000
	三菱UFJリース 第56回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,988,000
	三菱UFJリース 第76回社債間限定同順位特約付	300,000,000	293,745,000
	大和証券グループ本社 第23回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,927,000
	大和証券グループ本社 第36回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,252,000
	大和証券グループ本社 第39回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,497,000
	三井住友海上火災保険 第7回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,576,000
	三井不動産 第60回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,217,000
	三井不動産 第68回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,961,000
	三井不動産 第71回社債間限定同順位特約付	200,000,000	195,676,000
	三井不動産 第83回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,910,000
	三菱地所 第93回担保提供制限等財務上特約無	200,000,000	220,434,000
	三菱地所 第120回担保提供制限等財務上特約無	100,000,000	99,696,000
	三菱地所 第129回担保提供制限等財務上特約無	100,000,000	99,700,000
	三菱地所 第135回担保提供制限等財務上特約無	100,000,000	96,165,000
	東京建物 第25回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,238,000
	ダイビル 第19回特定社債間限定同順位特約付	100,000,000	90,938,000
	京阪神ビルディング 第13回社債間限定同順位特約付	100,000,000	93,877,000
	住友不動産 第109回社債間限定同順位特約付	100,000,000	96,621,000
	イオンモール 第22回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,448,000

イオンモール 第23回社債間限定同順位特約付	100,000,000	87,941,000
エヌ・ティ・ティ都市開発 第15回社債間限定同順位特約付	100,000,000	104,243,000
日本プライムリアルティ投資法人 第27回特定投資法人債間限定	100,000,000	94,864,000
グローバル・ワン不動産投資法人 第9回	100,000,000	99,763,000
野村不動産オフィスファンド投資法人 第7回特定投資法人債間限	100,000,000	110,332,000
積水ハウス・S Iレジデンシャル投資法人 第5回特定投資法人債	100,000,000	100,634,000
相鉄ホールディングス 第32回相模鉄道株式会社保証付	200,000,000	200,950,000
東京急行電鉄 第82回社債間限定同順位特約付	100,000,000	103,831,000
東京急行電鉄 第83回社債間限定同順位特約付	200,000,000	195,388,000
小田急電鉄 第68回社債間限定同順位特約付	200,000,000	205,918,000
小田急電鉄 第74回社債間限定同順位特約付	100,000,000	94,122,000
京成電鉄 第58回社債間限定同順位特約付	200,000,000	199,660,000
東日本旅客鉄道 第57回社債間限定同順位特約付	200,000,000	220,064,000
東日本旅客鉄道 第71回社債間限定同順位特約付	100,000,000	108,622,000
東日本旅客鉄道 第86回社債間限定同順位特約付	100,000,000	107,695,000
東日本旅客鉄道 第106回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,654,000
東日本旅客鉄道 第107回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,241,000
東日本旅客鉄道 第119回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,641,000
東日本旅客鉄道 第133回社債間限定同順位特約付	100,000,000	83,792,000
東日本旅客鉄道 第145回社債間限定同順位特約付	200,000,000	141,400,000
東日本旅客鉄道 第147回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,602,000
東日本旅客鉄道 第153回社債間限定同順位特約付	100,000,000	97,123,000
東日本旅客鉄道 第164回社債間限定同順位特約付	100,000,000	96,308,000
東日本旅客鉄道 第165回社債間限定同順位特約付	100,000,000	87,904,000
東日本旅客鉄道 第167回社債間限定同順位特約付	100,000,000	75,123,000

東日本旅客鉄道 第184回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	99,944,000
西日本旅客鉄道 第13回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	107,250,000
西日本旅客鉄道 第15回社債間 限定同順位特約付	300,000,000	324,861,000
西日本旅客鉄道 第60回社債間 限定同順位特約付	200,000,000	194,892,000
西日本旅客鉄道 第65回社債間 限定同順位特約付	200,000,000	193,970,000
西日本旅客鉄道 第66回社債間 限定同順位特約付	200,000,000	178,622,000
西日本旅客鉄道 第77回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	74,612,000
東海旅客鉄道 第17回社債間 限定同順位特約付	200,000,000	204,882,000
東海旅客鉄道 第51回社債間 限定同順位特約付	200,000,000	221,084,000
東海旅客鉄道 第70回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	104,049,000
東海旅客鉄道 第73回社債間 限定同順位特約付	300,000,000	299,676,000
東海旅客鉄道 第74回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	102,013,000
東京地下鉄 第22回	100,000,000	99,632,000
東京地下鉄 第23回	100,000,000	93,646,000
東京地下鉄 第24回	100,000,000	88,930,000
西武ホールディングス 第1回社債 間限定同順位特約付	200,000,000	194,376,000
西日本鉄道 第45回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	99,018,000
阪急阪神ホールディングス 第47 回	400,000,000	414,280,000
阪急阪神ホールディングス 第49 回	100,000,000	95,367,000
名古屋鉄道 第50回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	101,667,000
日本通運 第11回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	99,868,000
日本通運 第12回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	94,766,000
日立物流 第4回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	99,515,000
日本郵船 第32回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	107,379,000
横浜高速鉄道 第2回社債間 限定同順位特約付	100,000,000	99,968,000
九州旅客鉄道 第2回社債間 限定同順位特約付	200,000,000	166,010,000

九州旅客鉄道 第4回社債間限定同順位特約付	100,000,000	87,977,000
ANAホールディングス 第32回社債間限定同順位特約付	100,000,000	90,081,000
KDDI 第25回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,240,000
KDDI 第30回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,000,000
ソフトバンク 第11回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,393,000
ソフトバンク 第12回社債間限定同順位特約付	200,000,000	195,732,000
ソフトバンク 第14回社債間限定同順位特約付	100,000,000	98,864,000
ソフトバンク 第16回社債間限定同順位特約付	100,000,000	93,934,000
東京電力 第548回	100,000,000	103,310,000
東京電力 第560回	100,000,000	102,181,000
中部電力 第524回	100,000,000	100,094,000
中部電力 第530回	200,000,000	195,818,000
中部電力 第559回	100,000,000	92,751,000
中部電力 第560回	100,000,000	93,764,000
関西電力 第509回	100,000,000	100,208,000
関西電力 第511回	300,000,000	299,571,000
関西電力 第522回	200,000,000	198,894,000
関西電力 第535回	200,000,000	199,184,000
関西電力 第556回	100,000,000	100,082,000
関西電力 第557回	100,000,000	99,938,000
中国電力 第400回	100,000,000	99,773,000
中国電力 第402回	100,000,000	100,113,000
中国電力 第406回	100,000,000	91,531,000
中国電力 第416回	100,000,000	98,441,000
中国電力 第422回	600,000,000	584,544,000
中国電力 第425回	100,000,000	97,335,000
北陸電力 第307回	100,000,000	102,179,000
北陸電力 第308回	100,000,000	100,755,000
北陸電力 第322回	100,000,000	100,038,000
北陸電力 第326回	200,000,000	182,010,000
北陸電力 第330回	100,000,000	98,468,000
東北電力 第475回	100,000,000	100,790,000



	東北電力 第481回	200,000,000	202,174,000
	東北電力 第484回	100,000,000	93,450,000
	東北電力 第491回	100,000,000	100,119,000
	東北電力 第508回	100,000,000	99,093,000
	東北電力 第521回	300,000,000	293,661,000
	東北電力 第529回	200,000,000	198,604,000
	四国電力 第293回	100,000,000	93,738,000
	四国電力 第321回	100,000,000	83,915,000
	九州電力 第449回	200,000,000	200,296,000
	九州電力 第451回	100,000,000	100,208,000
	九州電力 第476回	100,000,000	98,864,000
	九州電力 第478回	100,000,000	90,606,000
	九州電力 第481回	300,000,000	294,255,000
	九州電力 第484回	200,000,000	196,112,000
	九州電力 第493回	300,000,000	297,843,000
	北海道電力 第321回	100,000,000	101,009,000
	北海道電力 第323回	100,000,000	103,733,000
	北海道電力 第338回	100,000,000	93,768,000
	北海道電力 第345回	300,000,000	300,459,000
	沖縄電力 第32回	100,000,000	100,011,000
	電源開発 第41回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,713,000
	電源開発 第50回社債間限定同順位特約付	100,000,000	100,045,000
	電源開発 第55回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,376,000
	電源開発 第59回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,258,000
	電源開発 第73回社債間限定同順位特約付	200,000,000	191,520,000
	東京電力パワーグリッド 第6回	100,000,000	100,546,000
	東京電力パワーグリッド 第11回	300,000,000	300,291,000
	東京電力パワーグリッド 第15回	300,000,000	296,298,000
	東京電力パワーグリッド 第28回	100,000,000	100,450,000
	東京電力パワーグリッド 第35回	100,000,000	100,981,000
	東京電力パワーグリッド 第38回	400,000,000	400,508,000
	東京電力パワーグリッド 第40回	400,000,000	395,352,000
	東京電力パワーグリッド 第45回	300,000,000	291,921,000
	東京電力パワーグリッド 第50回	100,000,000	97,557,000

	東京電力パワーグリッド 第54回	100,000,000	99,600,000	
	J E R A 第3回無担保社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,143,000	
	東京瓦斯 第28回社債間限定同順位特約付	100,000,000	107,657,000	
	東京瓦斯 第37回社債間限定同順位特約付	100,000,000	108,670,000	
	東京瓦斯 第38回社債間限定同順位特約付	100,000,000	108,515,000	
	東京瓦斯 第55回社債間限定同順位特約付	100,000,000	85,416,000	
	大阪瓦斯 第36回社債間限定同順位特約付	100,000,000	78,116,000	
	大阪瓦斯 第43回社債間限定同順位特約付	200,000,000	161,058,000	
	大阪瓦斯 第51回社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,961,000	
	北海道瓦斯 第23回社債間限定同順位特約付	100,000,000	92,212,000	
	広島ガス 第13回社債間限定同順位特約付	100,000,000	98,918,000	
	ファーストリテイリング 第7回特定社債間限定同順位特約付	100,000,000	99,870,000	
	ファーストリテイリング 第8回特定社債間限定同順位特約付	100,000,000	94,661,000	
小計	銘柄数：290 組入時価比率：4.5%	42,600,000,000	42,022,656,000	4.5%
合計			42,022,656,000	
合計			924,550,217,708	

(注1) 比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表  
該当事項はありません。

## 【中間財務諸表】

(1)当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)(以下「中間財務諸表等規則」という。)ならびに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第14期中間計算期間(2023年7月21日から2024年1月20日まで)の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

# 独立監査人の中間監査報告書

2024年4月2日

野村アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

EY 新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 湯原 尚  
業務執行社員

## 中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている野村日本債券インデックス（野村SMA向け）の2023年7月21日から2024年1月20日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、野村日本債券インデックス（野村SMA向け）の2024年1月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年7月21日から2024年1月20日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、野村アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。  
2. XBRL データは中間監査の対象には含まれていません。

【野村日本債券インデックス（野村SMA向け）】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第 13 期 (2023 年 7 月 20 日現在)	第 14 期中間計算期間末 (2024 年 1 月 20 日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	16,417,813	16,764,751
親投資信託受益証券	12,598,018,297	11,926,062,652
未収入金	6,280,437	241,007
流動資産合計	12,620,716,547	11,943,068,410
資産合計	12,620,716,547	11,943,068,410
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	5,753,273	-
未払受託者報酬	2,028,446	2,044,525
未払委託者報酬	13,522,891	13,630,116
未払利息	23	5
その他未払費用	135,170	136,238
流動負債合計	21,439,803	15,810,884
負債合計	21,439,803	15,810,884
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	11,506,546,208	11,097,122,198
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金 (△)	1,092,730,536	830,135,328
(分配準備積立金)	914,015,254	875,015,384
元本等合計	12,599,276,744	11,927,257,526
純資産合計	12,599,276,744	11,927,257,526
負債純資産合計	12,620,716,547	11,943,068,410

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第 13 期中間計算期間 自 2022 年 7 月 21 日 至 2023 年 1 月 20 日	第 14 期中間計算期間 自 2023 年 7 月 21 日 至 2024 年 1 月 20 日
<b>営業収益</b>		
有価証券売買等損益	△276,162,401	△214,031,879
営業収益合計	△276,162,401	△214,031,879
<b>営業費用</b>		
支払利息	1,885	1,196
受託者報酬	2,099,774	2,044,525
委託者報酬	13,998,442	13,630,116
その他費用	139,922	136,238
営業費用合計	16,240,023	15,812,075

営業利益又は営業損失（△）	△292,402,424	△229,843,954
経常利益又は経常損失（△）	△292,402,424	△229,843,954
中間純利益又は中間純損失（△）	△292,402,424	△229,843,954
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（△）	△1,976,585	△7,145,592
期首剰余金又は期首欠損金（△）	1,204,616,336	1,092,730,536
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,728,708	7,130,027
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,728,708	7,130,027
剰余金減少額又は欠損金増加額	30,552,804	47,026,873
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	30,552,804	47,026,873
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（△）	885,366,401	830,135,328

### (3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 基準価額で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4. その他	当ファンドの中間計算期間は、2023年7月21日から2024年1月20日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

第13期 2023年7月20日現在	第14期中間計算期間末 2024年1月20日現在
1. 計算期間の末日における受益権の総数 11,506,546,208口	1. 中間計算期間の末日における受益権の総数 11,097,122,198口
2. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.0950円 (10,000口当たり純資産額) (10,950円)	2. 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.0748円 (10,000口当たり純資産額) (10,748円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

第13期 2023年7月20日現在	第14期中間計算期間末 2024年1月20日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額 貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	1. 中間貸借対照表計上額、時価及び差額 中間貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法 親投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	2. 時価の算定方法 親投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(その他の注記)

1 元本の移動

第 13 期 自 2022 年 7 月 21 日 至 2023 年 7 月 20 日		第 14 期中間計算期間 自 2023 年 7 月 21 日 至 2024 年 1 月 20 日	
期首元本額	11,635,427,497 円	期首元本額	11,506,546,208 円
期中追加設定元本額	254,316,891 円	期中追加設定元本額	91,688,177 円
期中一部解約元本額	383,198,180 円	期中一部解約元本額	501,112,187 円

## 2 デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

### (参考)

当ファンドは「国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された親投資信託受益証券は、すべて同親投資信託の受益証券です。

なお、以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

## 国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド

### 貸借対照表

(単位：円)

(2024 年 1 月 20 日現在)

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	6,205,294,231
国債証券	817,661,864,100
地方債証券	58,801,147,328
特殊債券	71,201,487,704
社債券	49,796,121,000
未収利息	1,627,538,786
前払費用	93,069,670
流動資産合計	1,005,386,522,819
資産合計	1,005,386,522,819
負債の部	
流動負債	
未払金	497,860,000
未払解約金	816,271,222
未払利息	1,965
流動負債合計	1,314,133,187
負債合計	1,314,133,187
純資産の部	
元本等	
元本	795,164,751,731
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金 (△)	208,907,637,901
元本等合計	1,004,072,389,632
純資産合計	1,004,072,389,632
負債純資産合計	1,005,386,522,819

### 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)



1. 運用資産の評価基準及び評価方法	国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、価格情報会社の提供する価額等で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(貸借対照表に関する注記)

2024年1月20日現在	
1. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	1.2627円
(10,000口当たり純資産額)	(12,627円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

2024年1月20日現在	
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	
貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	
2. 時価の算定方法	
国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。	
コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	

(その他の注記)

元本の移動及び期末元本額の内訳

2024年1月20日現在	
期首	2023年7月21日
本報告書における開示対象ファンドの期首における当ファンドの元本額	724,390,520,496円
同期中における追加設定元本額	119,534,049,176円
同期中における一部解約元本額	48,759,817,941円
期末元本額	795,164,751,731円
期末元本額の内訳*	
野村国内債券インデックスファンド	330,170,764円
野村世界6資産分散投信(安定コース)	43,657,568,862円
野村世界6資産分散投信(分配コース)	20,092,857,980円
野村世界6資産分散投信(成長コース)	6,202,676,531円
野村資産設計ファンド2015	331,337,489円
野村資産設計ファンド2020	366,071,768円
野村資産設計ファンド2025	421,507,351円
野村資産設計ファンド2030	391,291,565円
野村資産設計ファンド2035	237,896,508円
野村資産設計ファンド2040	283,365,453円
野村日本債券インデックスファンド	593,554,077円
野村日本債券インデックス(野村投資一任口座向け)	133,959,845,426円
のむラップ・ファンド(保守型)	22,476,777,672円
のむラップ・ファンド(普通型)	60,263,739,340円
のむラップ・ファンド(積極型)	6,331,536,562円
野村日本債券インデックス(野村SMA向け)	9,444,890,039円
野村資産設計ファンド2045	43,878,434円
野村円債投資インデックスファンド	533,389,947円
野村インデックスファンド・国内債券	2,506,260,335円
マイ・ロード	39,897,540,062円
野村インデックスファンド・内外7資産バランス・為替ヘッジ型	1,566,032,649円
野村日本債券インデックス(野村SMA・EW向け)	20,399,577,641円
野村世界6資産分散投信(配分変更コース)	1,705,102,395円

野村資産設計ファンド2050		33,817,295円
野村ターゲットデートファンド2016	2026-2028年目標型	34,238,804円
野村ターゲットデートファンド2016	2029-2031年目標型	14,099,149円
野村ターゲットデートファンド2016	2032-2034年目標型	6,421,144円
野村ターゲットデートファンド2016	2035-2037年目標型	4,678,525円
のむらップ・ファンド (やや保守型)		2,647,804,498円
のむらップ・ファンド (やや積極型)		1,398,652,097円
インデックス・ブレンド (タイプI)		34,167,974円
インデックス・ブレンド (タイプII)		19,896,026円
インデックス・ブレンド (タイプIII)		103,837,846円
インデックス・ブレンド (タイプIV)		24,804,619円
インデックス・ブレンド (タイプV)		11,865,869円
野村6資産均等バランス		9,025,178,462円
世界6資産分散ファンド		188,136,312円
野村資産設計ファンド2060		17,425,291円
NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI総合連動型上場投信		102,552,834,457円
ファンドラップ (ウエルス・スクエア) 債券・安定型		21,168,542,311円
グローバル・インデックス・バランス25VA (適格機関投資家専用)		453,865,424円
グローバル・インデックス・バランス50VA (適格機関投資家専用)		90,746,511円
グローバル・インデックス・バランス40VA (適格機関投資家専用)		1,295,850,312円
グローバル・インデックス・バランス60VA (適格機関投資家専用)		360,998,440円
ワールド・インデックス・ファンドVA安定型 (適格機関投資家専用)		12,527,774円
ワールド・インデックス・ファンドVAバランス型 (適格機関投資家専用)		8,719,940円
ワールド・インデックス・ファンドVA積極型 (適格機関投資家専用)		169,806円
野村インデックス・バランス60VA (適格機関投資家専用)		3,106,028,460円
野村ワールド・インデックス・バランス35VA (適格機関投資家専用)		872,448円
野村ワールド・インデックス・バランス50VA (適格機関投資家専用)		16,833,520円
野村世界インデックス・バランス40VA (適格機関投資家専用)		33,850,690円
野村グローバル・インデックス・バランス25VA (適格機関投資家専用)		385,868,462円
野村グローバル・インデックス・バランス50VA (適格機関投資家専用)		266,321,918円
野村グローバル・インデックス・バランス75VA (適格機関投資家専用)		1,024,407,086円
野村世界バランス25VA (適格機関投資家専用)		103,931,355円
ノムラ日本債券インデックスファンドVA (適格機関投資家専用)		1,527,714,718円
ノムラFOFs用インデックスファンド・国内債券 (適格機関投資家専用)		426,085,055円
野村FOFs用・ターゲット・リターン・8資産バランス (2%コース向け) (適格機関投資家専用)		14,808,228円
マイバランス30 (確定拠出年金向け)		43,641,590,442円
マイバランス50 (確定拠出年金向け)		64,981,036,062円
マイバランス70 (確定拠出年金向け)		28,275,849,724円
野村国内債券インデックスファンド・NOMURA-BPI総合 (確定拠出年金向け)		51,668,479,257円
マイバランスDC30		19,036,054,015円
マイバランスDC50		17,256,494,719円
マイバランスDC70		6,921,888,170円
野村DC国内債券インデックスファンド・NOMURA-BPI総合		13,393,367,401円
マイターゲット2050 (確定拠出年金向け)		3,010,893,703円
マイターゲット2030 (確定拠出年金向け)		9,363,594,716円
マイターゲット2040 (確定拠出年金向け)		4,012,413,702円
野村世界6資産分散投信 (DC) 安定コース		397,286,564円
野村世界6資産分散投信 (DC) インカムコース		65,322,498円
野村世界6資産分散投信 (DC) 成長コース		84,945,094円
野村資産設計ファンド (DC・つみたてNISA) 2030		232,901,059円
野村資産設計ファンド (DC・つみたてNISA) 2040		102,873,782円
野村資産設計ファンド (DC・つみたてNISA) 2050		34,788,729円
マイターゲット2035 (確定拠出年金向け)		3,569,596,861円
マイターゲット2045 (確定拠出年金向け)		1,610,172,526円
マイターゲット2055 (確定拠出年金向け)		738,260,003円
マイターゲット2060 (確定拠出年金向け)		873,454,293円

野村資産設計ファンド（DC・つみたてNISA）2060	17,985,336円
マイターゲット2065（確定拠出年金向け）	329,539,619円
多資産分散投資ファンド（バランス10）（確定拠出年金向け）	691,416,844円
みらいバランス・株式10（富士通企業年金基金DC向け）	6,179,002,046円
野村DCバランスファンド（年金運用戦略タイプ）	222,515,936円
マイターゲット2070（確定拠出年金向け）	158,954円

\*は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

## 2【ファンドの現況】

### 【純資産額計算書】

野村日本債券インデックス（野村SMA向け）

2024年2月29日現在

I 資産総額	11,952,683,584円
II 負債総額	3,162,593円
III 純資産総額（I－II）	11,949,520,991円
IV 発行済口数	11,136,881,855口
V 1口当たり純資産額（III／IV）	1.0730円

（参考）国内債券NOMURA－BPI総合 マザーファンド

2024年2月29日現在

I 資産総額	1,162,017,271,220円
II 負債総額	37,070,386,270円
III 純資産総額（I－II）	1,124,946,884,950円
IV 発行済口数	892,163,399,909口
V 1口当たり純資産額（III／IV）	1.2609円

#### 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

##### (1) 受益証券の名義書換えの事務等

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

##### (2) 受益者に対する特典

該当事項はありません。

##### (3) 受益権の譲渡

① 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

② 上記①の申請のある場合には、上記①の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記①の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

③ 上記①の振替について、委託者は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

##### (4) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

##### (5) 受益権の再分割

委託者は、受託者と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

##### (6) 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

## 第三部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

##### (1)資本金の額

2024年2月末現在、17,180百万円

会社が発行する株式総数 20,000,000株

発行済株式総数 5,150,693株

過去5年間における主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

##### (2)会社の機構

###### (a)会社の意思決定機構

当社は監査等委員会設置会社であり、会社の機関として株主総会、取締役会のほか代表取締役および監査等委員会を設けております。各機関の権限は以下のとおりです。

###### **株主総会**

株主により構成され、取締役・会計監査人の選任・解任、剰余金の配当の承認、定款変更・合併等の重要事項の承認等を行います。

###### **取締役会**

取締役により構成され、当社の業務につき意思決定を行います。また代表取締役等を選任し、取締役の職務の執行を監督します。

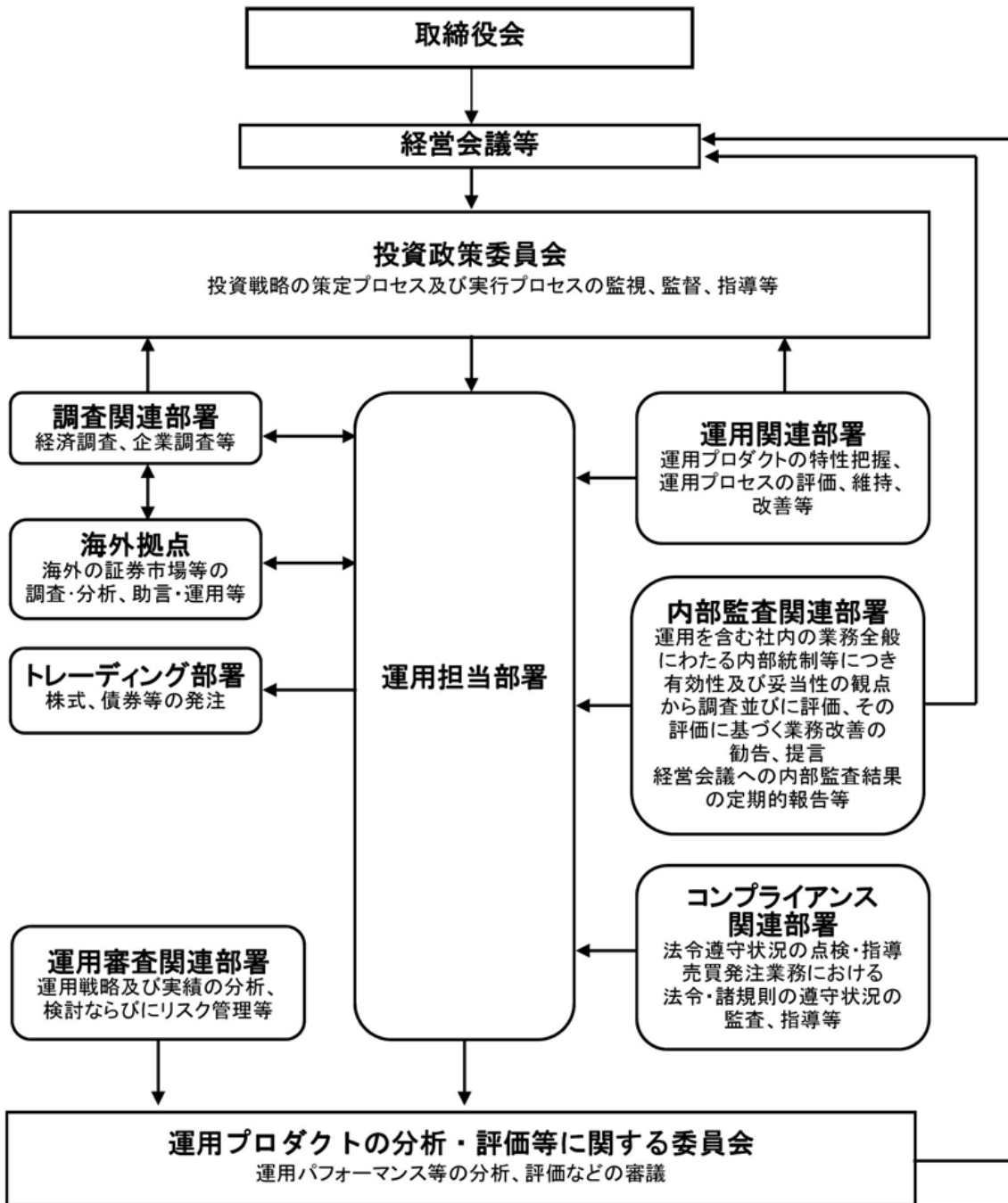
###### **代表取締役・業務執行取締役**

代表取締役を含む各業務執行取締役は、当社の業務の執行を行います。代表取締役は当社を代表いたします。また取締役会により委任された一定の事項について、代表取締役を含む業務執行取締役で構成される経営会議が意思決定を行います。なお、当社は執行役員制度を導入しており、経営会議の構成員には執行役員が含まれます。

###### **監査等委員会**

監査等委員である取締役3名以上（但し、過半数は社外取締役）で構成され、取締役の職務執行の適法性および妥当性に関する監査を行うとともに、株主総会に提出する会計監査人の選任・解任・不再任に関する議案の内容や監査等委員である取締役以外の取締役の選任・解任・辞任および報酬等についての監査等委員会としての意見を決定します。

(b) 投資信託の運用体制



## 2 【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託者は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業に係る業務の一部及び投資助言業務を行っています。

委託者の運用する証券投資信託は2024年1月31日現在次の通りです(ただし、親投資信託を除きます。)

種類	本数	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	994	49,640,942
単位型株式投資信託	176	662,104
追加型公社債投資信託	14	7,094,438
単位型公社債投資信託	464	933,607
合計	1,648	58,331,091

### 3 【委託会社等の経理状況】

1. 委託会社である野村アセットマネジメント株式会社(以下「委託会社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和 38 年大蔵省令第 59 号、以下「財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第 2 条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成 19 年 8 月 6 日内閣府令第 52 号)により作成しております。

委託会社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和 52 年大蔵省令第 38 号、以下「中間財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第 38 条及び第 57 条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成 19 年 8 月 6 日内閣府令第 52 号)により作成しております。

2. 財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

3. 委託会社は、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づき、事業年度(2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで)の財務諸表ならびに中間会計期間(2023 年 4 月 1 日から 2023 年 9 月 30 日まで)の中間財務諸表について、EY 新日本有限責任監査法人の監査及び中間監査を受けております。



# 独立監査人の監査報告書

2023年6月9日

野村アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

## EY 新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士	湯原	尚
-------	----	---

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士	水永	真太郎
-------	----	-----

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第64期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求めら

れているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。  
2. XBRL データは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の中間監査報告書

2023年11月24日

野村アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

## EY 新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 湯原 尚

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 水永 真太郎

### 中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第65期事業年度の中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の2023年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。  
2. XBRL データは中間監査の対象には含まれていません。

## (1) 【貸借対照表】

区分	注記 番号	前事業年度 (2022年3月31日)		当事業年度 (2023年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
(資産の部)					
流動資産					
現金・預金			2,006		1,865
金銭の信託			35,894		42,108
有価証券			29,300		21,900
前払金			11		11
前払費用			454		775
未収入金			694		1,775
未収委託者報酬			27,176		26,116
未収運用受託報酬			4,002		3,780
短期貸付金			1,835		1,001
未収還付法人税等			-		2,083
その他			57		84
貸倒引当金			△15		△15
流動資産計			101,417		101,486
固定資産					
有形固定資産			1,744		1,335
建物	※2	1,219		906	
器具備品	※2	525		428	
無形固定資産			5,210		5,563
ソフトウェア		5,209		5,562	
その他		0		0	
投資その他の資産			16,067		16,336
投資有価証券		2,201		1,793	
関係会社株式		9,214		10,025	
長期差入保証金		443		520	
長期前払費用		13		10	
前払年金費用		1,297		1,553	
繰延税金資産		2,784		2,340	
その他		112		92	
固定資産計			23,023		23,235
資産合計			124,440		124,722

		前事業年度 (2022年3月31日)		当事業年度 (2023年3月31日)	
区分	注記 番号	金額(百万円)		金額(百万円)	
(負債の部)					
流動負債					
預り金			120		124
未払金			17,615		17,879
未払収益分配金		0		0	
未払償還金		17		57	
未払手数料		8,357		8,409	
関係会社未払金		8,149		8,911	
その他未払金		1,089		500	
未払費用	※1		9,512		9,682
未払法人税等			1,319		1,024
前受収益			22		22
賞与引当金			4,416		3,635
その他			121		46
流動負債計			33,127		32,414
固定負債					
退職給付引当金			3,194		2,940
時効後支払損引当金			588		595
資産除去債務			1,123		1,123
固定負債計			4,905		4,659
負債合計			38,033		37,074
(純資産の部)					
株主資本			86,232		87,419
資本金			17,180		17,180
資本剰余金			13,729		13,729
資本準備金		11,729		11,729	
その他資本剰余金		2,000		2,000	
利益剰余金			55,322		56,509
利益準備金		685		685	
その他利益剰余金		54,637		55,823	
別途積立金		24,606		24,606	
繰越利益剰余金		30,030		31,217	
評価・換算差額等			174		229
その他有価証券評価差額金			174		229
純資産合計			86,407		87,648
負債・純資産合計			124,440		124,722



## (2)【損益計算書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)		当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
営業収益					
委託者報酬			115,733		113,491
運用受託報酬			17,671		18,198
その他営業収益			530		331
営業収益計			133,935		132,021
営業費用					
支払手数料			39,087		38,684
広告宣伝費			804		1,187
公告費			0		0
調査費			26,650		29,050
調査費		4,867		6,045	
委託調査費		21,783		23,004	
委託計算費			1,384		1,363
営業雑経費			3,094		3,302
通信費		72		89	
印刷費		918		903	
協会費		79		83	
諸経費		2,023		2,225	
営業費用計			71,021		73,587
一般管理費					
給料			12,033		11,316
役員報酬		229		226	
給料・手当		7,375		7,752	
賞与		4,427		3,337	
交際費			47		78
寄付金			73		115
旅費交通費			65		283
租税公課			1,049		963
不動産賃借料			1,432		1,232
退職給付費用			1,212		829
固定資産減価償却費			2,525		2,409
諸経費			11,116		12,439
一般管理費計			29,556		29,669
営業利益			33,357		28,763

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)		当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
営業外収益					
受取配当金	※1	3,530		7,645	
受取利息		10		45	
為替差益		-		49	
その他		1,268		637	
営業外収益計			4,809		8,377
営業外費用					
金銭の信託運用損		1,387		1,736	
時効後支払損引当金繰入額		12		10	
為替差損		23		-	
その他		266		8	
営業外費用計			1,689		1,755
經常利益			36,477		35,385
特別利益					
投資有価証券等売却益		26		10	
株式報酬受入益		53		46	
固定資産売却益		9		-	
資産除去債務履行差額		141		-	
特別利益計			230		57
特別損失					
投資有価証券等売却損		0		16	
関係会社株式評価損		727		-	
固定資産除却損	※2	374		52	
資産除去債務履行差額		0		-	
事務所移転費用		54		-	
特別損失計			1,158		69
税引前当期純利益			35,549		35,374
法人税、住民税及び事業税			10,474		8,890
法人税等調整額			171		419
当期純利益			24,904		26,064

## (3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	31,395	56,686	87,596
当期変動額									
剰余金の配当							△26,268	△26,268	△26,268
当期純利益							24,904	24,904	24,904
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	△1,364	△1,364	△1,364
当期末残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	30,030	55,322	86,232

(単位：百万円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	57	57	87,654
当期変動額			
剰余金の配当			△26,268
当期純利益			24,904
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	116	116	116
当期変動額合計	116	116	△1,247
当期末残高	174	174	86,407

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	30,030	55,322	86,232
当期変動額									
剰余金の配当							△24,877	△24,877	△24,877
当期純利益							26,064	26,064	26,064
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	1,186	1,186	1,186
当期末残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	31,217	56,509	87,419

(単位：百万円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	174	174	86,407
当期変動額			
剰余金の配当			△24,877
当期純利益			26,064
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	54	54	54
当期変動額合計	54	54	1,240
当期末残高	229	229	87,648

[重要な会計方針]

<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p>	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 … 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券          市場価格のない … 時価法          株式等以外のもの (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)          市場価格のない … 移動平均法による原価法          株式等</p>						
<p>2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法</p>	<p>時価法</p>						
<p>3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法</p>	<p>時価法</p>						
<p>4. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準</p>	<p>外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>						
<p>5. 固定資産の減価償却の方法</p>	<p>(1) 有形固定資産          定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)、並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。          主な耐用年数は以下の通りであります。</p> <table border="0" data-bbox="671 913 1023 1010"> <tr> <td>建物</td> <td>6年</td> </tr> <tr> <td>附属設備</td> <td>6～15年</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>4～15年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産及び投資その他の資産          定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p>	建物	6年	附属設備	6～15年	器具備品	4～15年
建物	6年						
附属設備	6～15年						
器具備品	4～15年						
<p>6. 引当金の計上基準</p>	<p>(1) 貸倒引当金          一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金          賞与の支払いに備えるため、支払見込額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金          従業員の退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企业年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>① 退職給付見込額の期間帰属方法          退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法          確定給付型企业年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。          退職一時金及び確定給付型企业年金に係る過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金          時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p>						

## 7. 収益及び費用の計上基準

当社は、資産運用サービスから委託者報酬、運用受託報酬を稼得しております。これらには成功報酬が含まれる場合があります。

### ① 委託者報酬

委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を投資信託によって主に年4回、もしくは年2回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

### ② 運用受託報酬

運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき契約期間の純資産総額等に対する一定割合として認識され、確定した報酬を顧問口座によって主に年4回、もしくは年2回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、顧問口座の運用期間にわたり収益として認識しております。

### ③ 成功報酬

成功報酬は、対象となる投資信託または顧問口座の特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。

## [会計上の見積りに関する注記]

該当事項はありません。

## [会計方針の変更]

### (時価の算定に関する会計基準の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

これにより、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うこととしました。

なお、「金融商品関係」注記の金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項における投資信託に関する注記事項においては、時価算定会計基準適用指針第27-3項に従って、前事業年度に係るものについては記載しておりません。

## [未適用の会計基準等]

該当事項はありません。

[注記事項]

◇ 貸借対照表関係

前事業年度末 (2022年3月31日)	当事業年度末 (2023年3月31日)												
<p>※1. 関係会社に対する資産及び負債 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">未払費用 1,223 百万円</p>	<p>※1. 関係会社に対する資産及び負債 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">未払費用 1,350 百万円</p>												
<p>※2. 有形固定資産より控除した減価償却累計額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">589 百万円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">618</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,207</td> </tr> </table>	建物	589 百万円	器具備品	618	合計	1,207	<p>※2. 有形固定資産より控除した減価償却累計額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">901 百万円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">657</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,559</td> </tr> </table>	建物	901 百万円	器具備品	657	合計	1,559
建物	589 百万円												
器具備品	618												
合計	1,207												
建物	901 百万円												
器具備品	657												
合計	1,559												

◇ 損益計算書関係

前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)																
<p>※1. 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">受取配当金 3,525 百万円</p>	<p>※1. 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">受取配当金 7,634 百万円</p>																
<p>※2. 固定資産除却損</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">346 百万円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">28</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">374</td> </tr> </table>	建物	346 百万円	器具備品	28	ソフトウェア	-	合計	374	<p>※2. 固定資産除却損</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">0 百万円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">52</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">52</td> </tr> </table>	建物	0 百万円	器具備品	0	ソフトウェア	52	合計	52
建物	346 百万円																
器具備品	28																
ソフトウェア	-																
合計	374																
建物	0 百万円																
器具備品	0																
ソフトウェア	52																
合計	52																

◇ 株主資本等変動計算書関係

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
普通株式	5,150,693株	—	—	5,150,693株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当財産が金銭である場合における当該金銭の総額

2021年5月14日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	26,268百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	5,100円
基準日	2021年3月31日
効力発生日	2021年6月30日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2022年5月18日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	24,877百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	4,830円
基準日	2022年3月31日
効力発生日	2022年6月30日



当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
普通株式	5,150,693株	—	—	5,150,693株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当財産が金銭である場合における当該金銭の総額

2022年5月18日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	24,877百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	4,830円
基準日	2022年3月31日
効力発生日	2022年6月30日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2023年5月23日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	55,782百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	10,830円
基準日	2023年3月31日
効力発生日	2023年6月30日

## ◇ 金融商品関係

前事業年度（自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日）

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### （1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を特定金外信託を通じ保有しております。特定金外信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、投資信託保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

なお、余資運用に関しては、譲渡性預金等安全性の高い金融資産で運用し、資金調達に関しては、親会社である野村ホールディングス株式会社及びその他の金融機関からの短期借入による方針であります。

#### （2）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

特定金外信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物などのデリバティブ取引によりヘッジしております。また、株式につきましては、政策投資として、あるいは業務上の関係維持を目的として保有しておりますが、価格変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券並びに金銭の信託については財務部が管理しており、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、その内容を経営に報告しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、財務部及び運用部で行っております。デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。財務部は月に一度デリバティブ取引の内容を含んだ財務報告を経営会議で行っております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。同じく営業債権である未収運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき、運用受託者に対して支払われる報酬の未払金額であります。この未収運用受託報酬は、信託財産から運用受託者に対して支払われる場合は、信託財産が信託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しており、顧客から直接運用受託者に対して支払われる場合は、当該顧客の信用リスクにさらされておりますが、顧客ごとに決済期日および残高を管理することにより、回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2022年3月31日における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	35,894	35,894	-
資産計	35,894	35,894	-
(2) その他 (デリバティブ取引)	121	121	-
負債計	121	121	-

(注1) 現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、有価証券、短期貸付金、未払金、未払費用、未払法人税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 投資有価証券及び関係会社株式は、市場価格のない株式等及び組合出資金等であることから、上表には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

	前事業年度 (百万円)
市場価格のない株式等 (※) 1. 2	9,529
組合出資金等	1,886
合計	11,415

(※) 1 市場価格のない株式等には非上場株式等が含まれております。

2 非上場株式等について、前事業年度において727百万円減損処理を行っております。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	2,006	-	-	-
金銭の信託	35,894	-	-	-
未収委託者報酬	27,176	-	-	-
未収運用受託報酬	4,002	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券	29,300	-	-	-
短期貸付金	1,835			
合計	100,215	-	-	-

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

区分	貸借対照表計上額（単位：百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託（運用目的・その他） （※）	-	1,736	-	1,736
資産計	-	1,736	-	1,736
デリバティブ取引（通貨関連）	-	121	-	121
負債計	-	121	-	121

（※）時価算定適用指針第26項に従い経過措置を適用し、投資信託を主要な構成物とする金銭の信託34,157百万円は表中に含まれておりません。

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

#### 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。

信託財産を構成する金融商品の時価について、投資信託は基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

#### デリバティブ取引

時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算出しており、レベル2の時価に分類しております。

当事業年度（自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

### （1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を特定金外信託を通じ保有しております。特定金外信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、投資信託保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

なお、余資運用に関しては、譲渡性預金等安全性の高い金融資産で運用し、資金調達に関しては、親会社である野村ホールディングス株式会社及びその他の金融機関からの短期借入による方針であります。

### （2）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

特定金外信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物などのデリバティブ取引によりヘッジしております。また、株式につきましては、政策投資として、あるいは業務上の関係維持を目的として保有しておりますが、価格変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券並びに金銭の信託については財務部が管理しており、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、その内容を経営に報告しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、財務部及び運用部で行っております。デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。財務部は月に一度デリバティブ取引の内容を含んだ財務報告を経営会議で行っております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。同じく営業債権である未収運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき、運用受託者に対して支払われる報酬の未払金額であります。この未収運用受託報酬は、信託財産から運用受託者に対して支払われる場合は、信託財産が信託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しており、顧客から直接運用受託者に対して支払われる場合は、当該顧客の信用リスクにさらされておりますが、顧客ごとに決済期日および残高を管理することにより、回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2023年3月31日における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	42,108	42,108	-
資産計	42,108	42,108	-
(2) その他 (デリバティブ取引)	46	46	-
負債計	46	46	-

(注1) 現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、有価証券、短期貸付金、未払金、未払費用、未払法人税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 投資有価証券及び関係会社株式は、市場価格のない株式等及び組合出資金等であることから、上表には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

	当事業年度 (百万円)
市場価格のない株式等 (※)	10,261
組合出資金等	1,557
合計	11,819

(※) 市場価格のない株式等には非上場株式等が含まれております。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	1,865	-	-	-
金銭の信託	42,108	-	-	-
未収委託者報酬	26,116	-	-	-
未収運用受託報酬	3,780	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
其他有価証券	21,900	-	-	-
短期貸付金	1,001			
合計	96,772	-	-	-

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

区分	貸借対照表計上額（単位：百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託（運用目的・その他）	-	42,108	-	42,108
資産計	-	42,108	-	42,108
デリバティブ取引（通貨関連）	-	46	-	46
負債計	-	46	-	46

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

#### 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。

信託財産を構成する金融商品の時価について、投資信託は基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。構成物のレベルに基づき、レベル2の時価に分類しております。

#### デリバティブ取引

時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算出しており、レベル2の時価に分類しております。

◇ 有価証券関係

前事業年度（自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日）

1. 売買目的有価証券(2022 年 3 月 31 日)

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券(2022 年 3 月 31 日)

該当事項はありません。

3. 子会社株式及び関連会社株式(2022 年 3 月 31 日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	前事業年度 (百万円)
子会社株式	9,107
関連会社株式	106

4. その他有価証券(2022 年 3 月 31 日)

区分	貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	-	-	-
小計	-	-	-
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 譲渡性預金	29,300	29,300	-
小計	29,300	29,300	-
合計	29,300	29,300	-

※市場価格のない株式等（貸借対照表計上額 315 百万円）及び組合出資金等（貸借対照表計上額 1,886 百万円）は、記載しておりません。

5. 事業年度中に売却したその他有価証券（自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日）

該当事項はありません。



当事業年度（自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日）

1. 売買目的有価証券(2023 年 3 月 31 日)

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券(2023 年 3 月 31 日)

該当事項はありません。

3. 子会社株式及び関連会社株式(2023 年 3 月 31 日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	当事業年度 (百万円)
子会社株式	9,919
関連会社株式	106

4. その他有価証券(2023 年 3 月 31 日)

区分	貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	-	-	-
小計	-	-	-
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 譲渡性預金	21,900	21,900	-
小計	21,900	21,900	-
合計	21,900	21,900	-

※市場価格のない株式等（貸借対照表計上額 235 百万円）及び組合出資金等（貸借対照表計上額 1,557 百万円）は、記載しておりません。

5. 事業年度中に売却したその他有価証券（自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日）

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	66	-	16
合計	66	-	16

◇ デリバティブ取引関係

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前事業年度（自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日）

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち一年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 米ドル	1,714	-	△121	△121

当事業年度（自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日）

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち一年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 米ドル	952	-	△46	△46

◇ 退職給付関係

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
1. 採用している退職給付制度の概要	
当社は、確定給付型の制度として確定給付型企业年金制度及び退職一時金制度を、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。	
2. 確定給付制度	
(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表	
退職給付債務の期首残高	23,270 百万円
勤務費用	961
利息費用	176
数理計算上の差異の発生額	△1,521
退職給付の支払額	△904
その他	△14
<u>退職給付債務の期末残高</u>	<u>21,967</u>
(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表	
年金資産の期首残高	19,349 百万円
期待運用収益	454
数理計算上の差異の発生額	△258
事業主からの拠出額	814
退職給付の支払額	△672
<u>年金資産の期末残高</u>	<u>19,687</u>
(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表	
積立型制度の退職給付債務	18,807 百万円
年金資産	△19,687
	△879
非積立型制度の退職給付債務	3,159
未積立退職給付債務	2,279
未認識数理計算上の差異	△489
未認識過去勤務費用	106
<u>貸借対照表上に計上された負債と資産の純額</u>	<u>1,896</u>
退職給付引当金	3,194
前払年金費用	△1,297
<u>貸借対照表上に計上された負債と資産の純額</u>	<u>1,896</u>
(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額	
勤務費用	961 百万円
利息費用	176
期待運用収益	△454
数理計算上の差異の費用処理額	322
過去勤務費用の費用処理額	△45
<u>確定給付制度に係る退職給付費用</u>	<u>959</u>
(5) 年金資産に関する事項	
①年金資産の主な内容	
年金資産合計に対する主な分類毎の比率は、次の通りです。	
債券	51%
株式	32%
生保一般勘定	10%
生保特別勘定	6%
その他	1%
<u>合計</u>	<u>100%</u>

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

確定給付型企業年金制度の割引率	0.9%
退職一時金制度の割引率	0.6%
長期期待運用収益率	2.35%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、197百万円でした。

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付型企业年金制度及び退職一時金制度を、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	21,967 百万円
勤務費用	853
利息費用	188
数理計算上の差異の発生額	△1,476
退職給付の支払額	△1,133
その他	△83
退職給付債務の期末残高	20,314

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	19,687 百万円
期待運用収益	462
数理計算上の差異の発生額	△716
事業主からの拠出額	819
退職給付の支払額	△874
年金資産の期末残高	19,378

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	17,386 百万円
年金資産	△19,378
	△1,991
非積立型制度の退職給付債務	2,927
未積立退職給付債務	935
未認識数理計算上の差異	398
未認識過去勤務費用	53
貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	1,387
退職給付引当金	2,940
前払年金費用	△1,553
貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	1,387

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	853 百万円
利息費用	188
期待運用収益	△462
数理計算上の差異の費用処理額	127
過去勤務費用の費用処理額	△52
確定給付制度に係る退職給付費用	653

(5) 年金資産に関する事項

①年金資産の主な内容

年金資産合計に対する主な分類毎の比率は、次の通りです。

債券	34%
株式	27%
生保一般勘定	11%
生保特別勘定	7%
その他	21%
合計	100%

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分

と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

確定給付型企業年金制度の割引率	1.4%
退職一時金制度の割引率	1.1%
長期期待運用収益率	2.35%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、202 百万円でした。

◇ 税効果会計関係

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

前事業年度末 (2022年3月31日)		当事業年度末 (2023年3月31日)	
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳		1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	
繰延税金資産	百万円	繰延税金資産	百万円
賞与引当金	1,381	賞与引当金	1,138
退職給付引当金	990	退職給付引当金	911
関係会社株式評価減	1,010	関係会社株式評価減	1,010
未払事業税	285	未払事業税	227
投資有価証券評価減	110	投資有価証券評価減	11
減価償却超過額	272	減価償却超過額	331
時効後支払損引当金	182	時効後支払損引当金	184
関係会社株式売却損	505	関係会社株式売却損	505
ゴルフ会員権評価減	92	ゴルフ会員権評価減	78
資産除去債務	348	資産除去債務	348
未払社会保険料	114	未払社会保険料	85
その他	84	その他	44
繰延税金資産小計	5,376	繰延税金資産小計	4,878
評価性引当額	△1,795	評価性引当額	△1,696
繰延税金資産合計	3,581	繰延税金資産合計	3,181
繰延税金負債		繰延税金負債	
資産除去債務に対応する除去費用	△233	資産除去債務に対応する除去費用	△171
関係会社株式評価益	△81	関係会社株式評価益	△84
その他有価証券評価差額金	△78	その他有価証券評価差額金	△102
前払年金費用	△402	前払年金費用	△481
繰延税金負債合計	△796	繰延税金負債合計	△840
繰延税金資産の純額	2,784	繰延税金資産の純額	2,340
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳		2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	31.0%	法定実効税率	31.0%
(調整)		(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.0%	交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.9%	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△6.4%
タックスヘイブン税制	1.8%	タックスヘイブン税制	2.1%
外国税額控除	△0.5%	外国税額控除	△0.6%
外国子会社からの受取配当に係る外国源泉税	0.4%	外国子会社からの受取配当に係る外国源泉税	0.7%
その他	0.1%	その他	△0.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.9%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.3%

2. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、当事業年度から、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

◇ 資産除去債務関係

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

本社の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を当該不動産賃貸借契約期間とし、割引率は0.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

(単位：百万円)

	前事業年度		当事業年度	
	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
期首残高	1,371		1,123	
有形固定資産の取得に伴う増加	48		-	
資産除去債務の履行による減少	△296		-	
期末残高	1,123		1,123	



◇ 収益認識に関する注記

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前事業年度（自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日）

区分	前事業年度 (自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日)
委託者報酬	115,670 百万円
運用受託報酬	16,675 百万円
成功報酬 (注)	1,058 百万円
その他営業収益	530 百万円
合計	133,935 百万円

(注) 成功報酬は、損益計算書において委託者報酬または運用受託報酬に含めて表示しております。

当事業年度（自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日）

区分	当事業年度 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)
委託者報酬	113,491 百万円
運用受託報酬	17,245 百万円
成功報酬 (注)	952 百万円
その他営業収益	331 百万円
合計	132,021 百万円

(注) 成功報酬は、損益計算書において委託者報酬または運用受託報酬に含めて表示しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

[重要な会計方針] 7. 収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から当事業年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## ◇ セグメント情報等

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

### 1. セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

### 2. 関連情報

#### (1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

#### (2) 地域ごとの情報

##### ① 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

##### ② 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

#### (3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

## 1. セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 2. 関連情報

### (1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

### (2) 地域ごとの情報

#### ① 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

#### ② 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

### (3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

◇ 関連当事者情報

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(ア) 親会社及び法人主要株主等

該当はありません。

(イ) 子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
子会社	ノムラ・エー エム・ファイ ナンス・イン ク	ケイマン	2,500 (米ドル)	資金管理	直接 100%	資産の賃貸借	資金の貸付	3,427	短期貸付 金	1,835
							資金の返済	1,709		
							貸付金利息	9	未収利息	4

(ウ) 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
親会社の子会社	野村証券株式会社	東京都 中央区	10,000 (百万円)	証券業	—	当社投資信託 の募集の取扱 及び売出の取 扱ならびに投 資信託に係る 事務代行の委 託等 役員の兼任	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (*1)	29,119	未払手 数 料	6,013

(エ) 役員及び個人主要株主等

該当はありません。

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(\*1) 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

野村ホールディングス(株) (東京証券取引所、名古屋証券取引所、シンガポール証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません。

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(ア) 親会社及び法人主要株主等

該当はありません。

(イ) 子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
子会社	ノムラ・エー エム・ファイ ナンス・イン ク	ケイマン	2,500 (米ドル)	資金管理	直接 100%	資産の賃貸借	資金の貸付	5,736	短期貸付 金	1,001
							資金の返済	6,489		
							貸付金利息	44	未収利息	11

(ウ) 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
親会社の子会社	野村証券株式会社	東京都 中央区	10,000 (百万円)	証券業	—	当社投資信託 の募集の取扱 及び売出の取 扱ならびに投 資信託に係る 事務代行の委 託等 役員の兼任	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払(*1)	27,180	未払手 数料	5,773

(エ) 役員及び個人主要株主等

該当はありません。

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(\*1) 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

野村ホールディングス(株) (東京証券取引所、名古屋証券取引所、シンガポール証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません。

## ◇ 1株当たり情報

前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)		当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
1株当たり純資産額	16,775円81銭	1株当たり純資産額	17,016円74銭
1株当たり当期純利益	4,835円10銭	1株当たり当期純利益	5,060円34銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。		潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。	
1株当たり当期純利益の算定上の基礎		1株当たり当期純利益の算定上の基礎	
損益計算書上の当期純利益	24,904百万円	損益計算書上の当期純利益	26,064百万円
普通株式に係る当期純利益	24,904百万円	普通株式に係る当期純利益	26,064百万円
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳		普通株主に帰属しない金額の主要な内訳	
該当事項はありません。		該当事項はありません。	
普通株式の期中平均株式数	5,150,693株	普通株式の期中平均株式数	5,150,693株

中間財務諸表

◇ 中間貸借対照表

		2023年9月30日現在
区分	注記 番号	金額(百万円)
(資産の部)		
流動資産		
現金・預金		7,755
金銭の信託		42,741
未収委託者報酬		28,981
未収運用受託報酬		5,565
短期貸付金		747
その他		1,398
貸倒引当金		△17
流動資産計		87,173
固定資産		
有形固定資産	※1	1,140
無形固定資産		5,519
ソフトウェア		5,518
その他		0
投資その他の資産		16,784
投資有価証券		1,862
関係会社株式		10,025
長期差入保証金		519
前払年金費用		1,721
繰延税金資産		1,761
その他		893
固定資産計		23,444
資産合計		110,617

		2023年9月30日現在
区分	注記 番号	金額(百万円)
(負債の部)		
流動負債		
短期借入金		29,900
未払金		12,829
未払収益分配金		1
未払償還金		40
未払手数料		9,305
関係会社未払金		2,395
その他未払金	※2	1,085
未払費用		10,122
未払法人税等		2,521
賞与引当金		1,993
その他		201
流動負債計		57,568
固定負債		
退職給付引当金		2,855
時効後支払損引当金		601
資産除去債務		1,123
固定負債計		4,579
負債合計		62,148
(純資産の部)		
株主資本		48,142
資本金		17,180
資本剰余金		13,729
資本準備金		11,729
その他資本剰余金		2,000
利益剰余金		17,232
利益準備金		685
その他利益剰余金		16,547
繰越利益剰余金		16,547
評価・換算差額等		325
その他有価証券評価差額金		325
純資産合計		48,468
負債・純資産合計		110,617



## ◇ 中間損益計算書

		自 2023年4月1日 至 2023年9月30日
区分	注記 番号	金額(百万円)
営業収益		
委託者報酬		59,892
運用受託報酬		10,062
その他営業収益		156
営業収益計		70,111
営業費用		
支払手数料		20,743
調査費		15,670
その他営業費用		2,845
営業費用計		39,259
一般管理費	※1	15,475
営業利益		15,376
営業外収益	※2	7,161
営業外費用	※3	715
経常利益		21,822
特別利益	※4	11
特別損失	※5	10
税引前中間純利益		21,823
法人税、住民税及び事業税		4,781
法人税等調整額		536
中間純利益		16,505

◇ 中間株主資本等変動計算書  
 当中間会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	繰越利益剰余金		
					別途積立金				
当期首残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	31,217	56,509	87,419
当中間期変動額									
剰余金の配当							△55,782	△55,782	△55,782
中間純利益							16,505	16,505	16,505
別途積立金の取崩						△24,606	24,606	—	—
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)									
当中間期変動額合計	—	—	—	—	—	△24,606	△14,669	△39,276	△39,276
当中間期末残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	—	16,547	17,232	48,142

(単位：百万円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	229	229	87,648
当中間期変動額			
剰余金の配当			△55,782
中間純利益			16,505
別途積立金の取崩			—
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	96	96	96
当中間期変動額合計	96	96	△39,179
当中間期末残高	325	325	48,468

[重要な会計方針]

<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p>	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 … 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 市場価格のない … 時価法 株式等以外のもの (評価差額は全部純資産直入法により処理し、 売却原価は移動平均法により算定) 市場価格のない … 移動平均法による原価法 株式等</p>						
<p>2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法</p>	<p>時価法</p>						
<p>3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法</p>	<p>時価法</p>						
<p>4. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準</p>	<p>外貨建金銭債権債務は、中間会計期間末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>						
<p>5. 固定資産の減価償却の方法</p>	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)、並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。 主な耐用年数は以下の通りであります。</p> <table border="0" data-bbox="670 963 1037 1064"> <tr> <td>建物</td> <td>6年</td> </tr> <tr> <td>附属設備</td> <td>6～15年</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>4～15年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産及び投資その他の資産 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p>	建物	6年	附属設備	6～15年	器具備品	4～15年
建物	6年						
附属設備	6～15年						
器具備品	4～15年						
<p>6. 引当金の計上基準</p>	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 賞与の支払いに備えるため、支払見込額に基づき当中間会計期間に見合う分を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企業年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>① 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 確定給付型企業年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。 退職一時金及び確定給付型企業年金に係る過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金 時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、</p>						

## 7. 収益及び費用の計上基準

受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

当社は、資産運用サービスから委託者報酬、運用受託報酬を稼得しております。これらには成功報酬が含まれる場合があります。

### ① 委託者報酬

委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を投資信託によって主に年4回、もしくは年2回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

### ② 運用受託報酬

運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき契約期間の純資産総額等に対する一定割合として認識され、確定した報酬を顧問口座によって主に年4回、もしくは年2回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、顧問口座の運用期間にわたり収益として認識しております。

### ③ 成功報酬

成功報酬は、対象となる投資信託または顧問口座の特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。

[注記事項]

◇ 中間貸借対照表関係

2023年9月30日現在	
※1 有形固定資産の減価償却累計額	1,754百万円
※2 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他未払金」に含めて表示しております。	

◇ 中間損益計算書関係

自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	
※1 減価償却実施額	
有形固定資産	196百万円
無形固定資産	958百万円
※2 営業外収益のうち主要なもの 受取配当金	6,692百万円
※3 営業外費用のうち主要なもの 金銭の信託運用損	627百万円
※4 特別利益の内訳 株式報酬受入益	11百万円
※5 特別損失の内訳 固定資産除却損	10百万円

◇ 中間株主資本等変動計算書関係

自 2023年4月1日 至 2023年9月30日				
1 発行済株式に関する事項				
	株式の種類	当事業年度期首	増加	減少
	普通株式	5,150,693株	—	—
				当中間会計期間末
				5,150,693株
2 配当に関する事項				
配当金支払額				
2023年5月23日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。				
・普通株式の配当に関する事項				
(1) 配当金の総額			55,782百万円	
(2) 1株当たり配当額			10,830円	
(3) 基準日			2023年3月31日	
(4) 効力発生日			2023年6月30日	

◇ 金融商品関係

1. 金融商品の時価等に関する事項

2023年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。

(単位：百万円)

	中間貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	42,741	42,741	-
資産計	42,741	42,741	-
(2) その他（デリバティブ取引）	60	60	-
負債計	60	60	-

(注1) 現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、短期貸付金、短期借入金、未払金、未払費用、未払法人税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 投資有価証券及び関係会社株式は、市場価格のない株式等及び組合出資金等であることから、上表には含まれておりません。当該金融商品の中間貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

	中間貸借対照表計上額 (百万円)
市場価格のない株式等（※）	10,266
組合出資金等	1,621
合計	11,888

(※) 市場価格のない株式等には非上場株式等が含まれております。

## 2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

区分	中間貸借対照表計上額（単位：百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託（運用目的・その他）	-	42,741	-	42,741
資産計	-	42,741	-	42,741
デリバティブ取引（通貨関連）	-	60	-	60
負債計	-	60	-	60

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

### 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。

信託財産を構成する金融商品の時価について、投資信託は基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。構成物のレベルに基づき、レベル2の時価に分類しております。

### デリバティブ取引

時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算出しており、レベル2の時価に分類しております。

◇ 有価証券関係

当中間会計期間末（2023年9月30日）

1. 売買目的有価証券(2023年9月30日)

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券(2023年9月30日)

該当事項はありません。

3. 子会社株式及び関連会社株式(2023年9月30日)

市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額

区分	中間貸借対照表 計上額（百万円）
子会社株式	9,919
関連会社株式	106

4. その他有価証券(2023年9月30日)

該当事項はありません。

◇ デリバティブ取引関係

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

当中間会計期間（2023年9月30日）

区分	取引の種類	契約額等 （百万円）	契約額等 のうち一年超 （百万円）	時価 （百万円）	評価損益 （百万円）
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 米ドル	684	-	△60	△60

◇ 資産除去債務関係

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の総額の増減（単位：百万円）

	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日
期首残高	1,123
有形固定資産の取得に伴う増加	-
時の経過による調整額	-
中間期末残高	1,123



◇ 収益認識に関する注記

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

区分	当中間会計期間 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2023 年 9 月 30 日)
委託者報酬	59,884 百万円
運用受託報酬	9,422 百万円
成功報酬 (注)	646 百万円
その他営業収益	156 百万円
合計	70,111 百万円

(注) 成功報酬は、中間損益計算書において委託者報酬または運用受託報酬に含めて表示しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

[重要な会計方針] 7. 収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当中間会計期間末において存在する顧客との契約から当中間会計期間の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

◇ セグメント情報等

当中間会計期間(自 2023 年 4 月 1 日 至 2023 年 9 月 30 日)

1. セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

① 営業収益

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の 90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

② 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の 90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の 10%以上を占める相手先が識別されていないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

◇ 1 株当たり情報

自 2023 年 4 月 1 日 至 2023 年 9 月 30 日									
1 株当たり純資産額	9,410 円 05 銭								
1 株当たり中間純利益	3,204 円 61 銭								
<p>(注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益につきましては、潜在株式がないため、記載しておりません。</p> <p>2. 1 株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>中間純利益</td> <td>16,505 百万円</td> </tr> <tr> <td>普通株主に帰属しない金額</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通株式に係る中間純利益</td> <td>16,505 百万円</td> </tr> <tr> <td>期中平均株式数</td> <td>5,150 千株</td> </tr> </table>		中間純利益	16,505 百万円	普通株主に帰属しない金額	—	普通株式に係る中間純利益	16,505 百万円	期中平均株式数	5,150 千株
中間純利益	16,505 百万円								
普通株主に帰属しない金額	—								
普通株式に係る中間純利益	16,505 百万円								
期中平均株式数	5,150 千株								

#### 4 【利害関係人との取引制限】

委託者は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- ①自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ②運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ③通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託者の親法人等(委託者の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下④⑤において同じ。)又は子法人等(委託者が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。
- ④委託者の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ⑤上記③④に掲げるもののほか、委託者の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

#### 5 【その他】

##### (1) 定款の変更

委託者の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

##### (2) 訴訟事件その他の重要事項

委託者およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

# 約款

## (野村日本債券インデックス (野村 SMA 向け) )

### 運用の基本方針

約款第 18 条に基づき委託者の定める方針は、次のものとします。

#### 1. 基本方針

この投資信託は、NOMURA-BPI 総合 (NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス総合) の動きに連動する投資成果を目指して運用を行ないます。

#### 2. 運用方法

##### (1) 投資対象

国内債券 NOMURA-BPI 総合 マザーファンド (以下「マザーファンド」といいます。) 受益証券を主要投資対象とします。なお、公社債等に直接投資する場合があります。

##### (2) 投資態度

① マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、NOMURA-BPI 総合の動きに連動する投資成果を目指して運用を行ないます。なお、公社債等に直接投資する場合があります。

② 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

##### (3) 投資制限

① 株式への直接投資は行ないません。株式への投資は、転換社債を転換および新株予約権 (転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限り) を行使したものに限り、株式への投資割合は信託財産の純資産総額の 5%以内とします。

② 外貨建資産への投資は行ないません。

③ 有価証券先物取引等は約款第 21 条の範囲で行ないます。

④ スワップ取引は約款第 22 条の範囲で行ないます。

⑤ 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の 5%以内とします。

⑥ 同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の 10%以内とします。

⑦ 一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等 (同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。) の利用は行ないません。

⑧ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ 10%、合計で 20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

#### 3. 収益分配方針

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行ないます。

① 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益 (評価益を含みません) 等の全額とします。

② 収益分配金額は、上記①の範囲内で基準価額水準等を勘案して委託者が決定します。

③ 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行ないます。

追加型証券投資信託  
野村日本債券インデックス（野村SMA向け）  
約款

**(信託の種類、委託者および受託者)**

第1条 この信託は証券投資信託であり、野村アセットマネジメント株式会社を委託者とし、野村信託銀行株式会社を受託者とします。

② この信託は、信託法（平成18年法律第108号）（以下「信託法」といいます。）の適用を受けます。

**(信託の目的と金額)**

第2条 委託者は、金1,000万円を上限として受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き受けます。

**(信託金の限度額)**

第3条 委託者は、受託者と合意のうえ、金1兆円を限度として信託金を追加することができます。

② 委託者は、受託者と合意のうえ、前項の限度額を変更することができます。

**(信託期間)**

第4条 この信託の期間は、信託契約締結日から第43条第1項、第44条第1項、第45条第1項および第47条第2項の規定による解約の日までとします。

**(受益権の取得申込みの勧誘の種類)**

第5条 この信託にかかる受益権の取得申込みの勧誘は、金融商品取引法第2条第3項第1号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第8項で定める公募により行なわれます。

**(当初の受益者)**

第6条 この信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益権取得申込者とし、第7条の規定により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

**(受益権の分割および再分割)**

第7条 委託者は、第2条の規定による受益権については1,000万口を上限とし、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第8条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

② 委託者は、受託者と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

**(追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法)**

第8条 追加信託金は、追加信託を行なう日の前日の基準価額に、当該追加信託にかかる受益権の口数を乗じた額とします。

② この約款において基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および第25条に規定する借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除した金額をいいます。

**(信託日時の異なる受益権の内容)**

第9条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

#### (受益権の帰属と受益証券の不発行)

第10条 この信託のすべての受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受けることとし、受益権の帰属は、委託者があらかじめこの投資信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関（社振法第2条に規定する「振替機関」をいい、以下「振替機関」といいます。）及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。

② 委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

③ 委託者は、第7条の規定により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行なうものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行ないます。

#### (受益権の設定に係る受託者の通知)

第11条 受託者は、第2条の規定による受益権については信託契約締結日に、また、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行ないます。

#### (受益権の申込単位および価額)

第12条 販売会社（委託者の指定する第一種金融商品取引業者（金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者をいいます。以下同じ。）および委託者の指定する登録金融機関（金融商品取引法第2条第11項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。）をいいます。以下同じ。）は、第7条第1項の規定により分割される受益権を、その取得申込者に対し、1口単位もしくは1口の整数倍となる販売会社が定める単位をもって取得申込に応じることができるものとします。

② 前項の場合の受益権の価額は、取得申込日の基準価額とします。ただし、この信託契約締結日前の取得申込にかかる受益権の価額は、1口につき1円とします。

③ 前項の規定にかかわらず、受益者が第39条第2項の規定に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、取得申込日の基準価額とします。

④ 第1項の取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたこの信託の受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行なわれます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金（第2項



の受益権の価額に当該取得申込の口数を乗じて得た額をいいます。)の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行なうことができます。

⑤ 前各項の規定にかかわらず、委託者は、金融商品取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。なお、金融商品取引所を単に「取引所」という場合があり、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行なう市場ないしは当該市場を開設するものを「証券取引所」という場合があります。)等における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益権の取得申込の受け付けを中止することおよびすでに受け付けた取得申込の受け付けを取り消すことができます。

#### (受益権の譲渡に係る記載または記録)

第13条 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

② 前項の申請のある場合には、前項の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前項の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

③ 委託者は、第1項に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

#### (受益権の譲渡の対抗要件)

第14条 受益権の譲渡は、前条の規定による振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

#### (投資の対象とする資産の種類)

第15条 この信託において投資の対象とする資産(本邦通貨表示のものに限ります。)の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。)

イ. 有価証券

ロ. デリバティブ取引(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第21条及び第22条に定めるものに限ります。)に係る権利

ハ. 約束手形(イに掲げるものに該当するものを除きます。)

ニ. 金銭債権(イ及びハに掲げるものに該当するものを除きます。)

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. 為替手形

#### (有価証券および金融商品の指図範囲等)

第16条 委託者は、信託金を、主として、野村アセットマネジメント株式会社を委託者とし、野村信託銀行株式会社を受託者として締結された親投資信託である国内債券 NOMURA－BPI 総合 マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除くものとし、本邦通貨表示のものに限ります。）に投資することを指図します。

1. 国債証券
2. 地方債証券
3. 特別の法律により法人の発行する債券
4. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券を除きます。新株予約権付社債券については、会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの、ならびに会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債（総称して以下「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）に限ります。）
5. 特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
6. 投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
7. 転換社債の転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。）の行使により取得した株券
8. コマーシャル・ペーパー
9. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
10. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
11. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
12. 外国の者に対する権利で前号の有価証券に表示されるべき権利の性質を有するもの
13. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
14. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）

なお、第7号の証券または証書および第9号の証券または証書のうち第7号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第1号から第6号までの証券および第9号の証券または証書のうち第1号から第6号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

② 委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（前項に掲げるものを除く。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって、金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

③ 委託者は、信託財産に属する株式の時価総額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

**(利害関係人等との取引等)**

第17条 受託者は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、委託者の指図により、信託財産と、受託者（第三者との間において信託財産のためにする取引その他の行為であって、受託者が当該第三者の代理人となつて行なうものを含みます。）および受託者の利害関係人（金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第2条第1項にて準用する信託業法第29条第2項第1号に規定する利害関係人をいいます。以下本項、次項および第26条において同じ。）、第26条第1項に定める信託業務の委託先およびその利害関係人または受託者における他の信託財産との間で、前2条に掲げる資産への投資等ならびに第24条、第25条および第31条に掲げる取引その他これらに類する行為を行なうことができます。

② 受託者は、受託者がこの信託の受託者としての権限に基づいて信託事務の処理として行なうことができる取引その他の行為について、受託者または受託者の利害関係人の計算で行なうことができるものとします。なお、受託者の利害関係人が当該利害関係人の計算で行う場合も同様とします。

③ 委託者は、金融商品取引法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、信託財産と、委託者、その取締役、執行役および委託者の利害関係人等（金融商品取引法第31条の4第3項および同条第4項に規定する親法人等又は子法人等をいいます。）または委託者が運用の指図を行なう他の信託財産との間で、前2条に掲げる資産への投資等ならびに第24条、第25条および第31条に掲げる取引その他これらに類する行為を行なうことの指図をすることができ、受託者は、委託者の指図により、当該投資等ならびに当該取引、当該行為を行なうことができます。

④ 前3項の場合、委託者および受託者は、受益者に対して信託法第31条第3項および同法第32条第3項の通知は行ないません。

**(運用の基本方針)**

第18条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行ないます。

**(投資する株式の範囲)**

第19条 委託者が投資することを指図する株式は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式については、この限りではありません。

② 前項の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託者が投資することを指図することができるものとします。

**(同一銘柄の株式への投資制限)**

第20条 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

**(先物取引等の運用指図・目的・範囲)**

第21条 委託者は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。）ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行なうことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします（以下同じ。）。

1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券（以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。）の時価総額の範囲内とします。
2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額（組入ヘッジ対象有価証券を差し引いた額）に信託財産が限月までに受取る組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券、組入貸付債権信託受益権、組入抵当証券および組入指定金銭信託の受益証券の利払金および償還金を加えた額を限度とし、且つ信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに第16条第2項第1号から第4号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

② 委託者は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるわが国の金利に係るこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行なうことの指図をすることができます。

1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象とする金利商品（信託財産が1年以内に受け取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに第16条第2項第1号から第4号に掲げる金融商品で運用されているものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。）の時価総額の範囲内とします。
2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに第16条第2項第1号から第4号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、支払いプレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、且つ本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

#### (スワップ取引の運用指図・目的・範囲)

第22条 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用および価格変動リスクを回避するため、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行なうことの指図をすることができます。

② スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として第4条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこ

の限りではありません。

③ スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額（以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。以下本項において同じ。）が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

④ 前項においてマザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

⑤ スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が提示する価額、価格情報会社が提供する価額等、法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って評価するものとします。

⑥ 委託者は、スワップ取引を行なうにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行なうものとします。

#### **(同一銘柄の転換社債等への投資制限)**

第23条 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

#### **(有価証券の貸付の指図および範囲)**

第24条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲内で貸付の指図をすることができます。

1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。

2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。

② 前項に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

③ 委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行なうものとします。

#### **(公社債の借入れ)**

第25条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行なうにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行なうものとします。

② 前項の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

③ 信託財産の一部解約等の事由により、前項の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

④ 第1項の借入れにかかる品貸料は信託財産中から支弁します。

#### (信託業務の委託等)

第26条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの（受託者の利害関係人を含みます。）を委託先として選定します。

1. 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
2. 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
3. 委託される信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行なう体制が整備されていること
4. 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること

② 受託者は、前項に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。

③ 前2項にかかわらず、受託者は、次の各号に掲げる業務を、受託者および委託者が適当と認める者（受託者の利害関係人を含みます。）に委託することができるものとします。

1. 信託財産の保存に係る業務
2. 信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
3. 委託者のみの指図により信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為に係る業務
4. 受託者が行なう業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

#### (混蔵寄託)

第27条 金融機関または第一種金融商品取引業者等（外国の法令に準拠して設立された法人で第一種金融商品取引業者に類する者を含みます。以下本条において同じ。）から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行されたコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または第一種金融商品取引業者等が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または第一種金融商品取引業者等の名義で混蔵寄託できるものとします。

#### (信託財産の登記等および記載等の留保等)

第28条 信託の登記または登録をすることができる信託財産については、信託の登記または登録をすることとします。ただし、受託者が認める場合は、信託の登記または登録を留保することがあります。

② 前項ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託者または受託者が必要と認めるときは、速やかに登記または登録をするものとします。

③ 信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる信託財産については、信託財産に属する旨の記載または記録をするとともに、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託者が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

④ 動産（金銭を除きます。）については、外形上区別することができる方法によるほか、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

#### (有価証券売却等の指図)

第29条 委託者は、信託財産に属する親投資信託の受益証券にかかる信託契約の一部解約、有価証券

の売却等の指図ができます。

#### (再投資の指図)

第30条 委託者は、前条の規定による親投資信託の受益証券の一部解約金、有価証券の売却代金、有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

#### (資金の借入れ)

第31条 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとします。

② 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行なう日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

③ 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

④ 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

#### (損益の帰属)

第32条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

#### (受託者による資金の立替え)

第33条 信託財産に属する有価証券について、借替、転換、新株発行または株式割当がある場合で、委託者の申出があるときは、受託者は資金の立替えをすることができます。

② 信託財産に属する有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託者がこれを立替えて信託財産に繰り入れることができます。

③ 前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別にこれを定めます。

#### (信託の計算期間)

第34条 この信託の計算期間は、毎年7月21日から翌年7月20日までとすることを原則とします。ただし、第1計算期間は信託契約締結日から平成23年7月20日までとします。

② 前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日（以下本項において「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、第4条に定める信託期間の

終了日とします。

#### (信託財産に関する報告等)

第 35 条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行ない、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

② 受託者は、信託終了のときに最終計算を行ない、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

③ 受託者は、前 2 項の報告を行なうことにより、受益者に対する信託法第 37 条第 3 項に定める報告は行なわないこととします。

④ 受益者は、受託者に対し、信託法第 37 条第 2 項に定める書類または電磁的記録の作成に欠くことのできない情報その他の信託に関する重要な情報および当該受益者以外の者の利益を害するおそれのない情報を除き、信託法第 38 条第 1 項に定める閲覧または謄写の請求をすることはできないものとします。

#### (信託事務の諸費用および監査費用)

第 36 条 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立替えた立替金の利息（以下「諸経費」といいます。）は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

② 信託財産に係る監査費用および当該監査費用に係る消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額は、毎計算期間の最初の 6 ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

#### (信託報酬等の総額)

第 37 条 委託者および受託者の信託報酬の総額は、第 34 条に規定する計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年 10,000 分の 23 の率を乗じて得た額とします。

② 前項の信託報酬は、毎計算期間の最初の 6 ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとし、委託者と受託者との間の配分は別に定めます。

③ 第 1 項の信託報酬に係る消費税等に相当する金額を信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。

#### (収益の分配方式)

第 38 条 信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1. 配当金、利子、貸付有価証券に係る品貸料およびこれ等に類する収益から支払利息を控除した額（以下「配当等収益」といいます。）は、諸経費、監査費用、当該監査費用に係る消費税等に相当する金額、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除した後その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。

2. 売買損益に評価損益を加減した利益金額（以下「売買益」といいます。）は、諸経費、監査費用、当該監査費用に係る消費税等に相当する金額、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

② 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。



#### (収益分配金、償還金および一部解約金の支払い)

第 39 条 収益分配金は、毎計算期間終了日後 1 ヶ月以内の委託者の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払います。

② 前項の規定にかかわらず、販売会社との累積投資契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌日に、収益分配金が販売会社に交付されます。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付けを行ないます。当該売付けにより増加した受益権は、第 10 条第 3 項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

③ 償還金（信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。）は、信託終了日後 1 ヶ月以内の委託者の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。

④ 一部解約金（第 42 条第 3 項の一部解約の価額に当該一部解約口数を乗じて得た額をいいます。以下同じ。）は、第 42 条第 1 項の受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として 5 営業日目から当該受益者に支払います。

⑤ 前各項（第 2 項を除きます。）に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、販売会社の営業所等において行なうものとします。

⑥ 収益分配金、償還金および一部解約金にかかる収益調整金は、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとします。

#### (収益分配金および償還金の時効)

第 40 条 受益者が、収益分配金については前条第 1 項に規定する支払開始日から 5 年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金については前条第 3 項に規定する支払開始日から 10 年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

#### (収益分配金、償還金および一部解約金の払い込みと支払いに関する受託者の免責)

第 41 条 受託者は、収益分配金については第 39 条第 1 項に規定する支払開始日までに、償還金については第 39 条第 3 項に規定する支払開始日までに、一部解約金については第 39 条第 4 項に規定する支払日までに、その全額を委託者の指定する預金口座等に払い込みます。

② 受託者は、前項の規定により委託者の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

### (信託の一部解約)

第42条 受益者（販売会社を含みます。以下本条において同じ。）は、自己に帰属する受益権につき、委託者に、1口単位もしくは1口の整数倍となる販売会社が定める単位をもって、一部解約の実行を請求することができます。

② 委託者は、前項の一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。なお、前項の一部解約の実行の請求を行なう受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託者が行なうのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。

③ 前項の一部解約の価額は、一部解約の実行の請求日の基準価額から当該基準価額に0.1%の率を乗じて得た額を信託財産留保額として控除した価額とします。

④ 一部解約の実行の請求を受益者がするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行なうものとします。

⑤ 委託者は、金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、第1項による一部解約の実行の請求の受け付けを中止することおよびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受け付けを取り消すことができます。

⑥ 前項により一部解約の実行の請求の受け付けが中止された場合には、受益者は当該受け付け中止以前に行なった当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受け付け中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして第3項の規定に準じて計算された価額とします。

### (信託契約の解約)

第43条 委託者は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の口数が30億口を下回った場合、またはこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

② 委託者は、前項の事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行ないません。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

③ 前項の書面決議において、受益者（委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

④ 第2項の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行ないません。

⑤ 第2項から前項までの規定は、委託者が信託契約の解約について提案をした場合において、当該

提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、第2項から前項までに規定するこの信託契約の解約の手續を行なうことが困難な場合には適用しません。

#### (信託契約に関する監督官庁の命令)

第44条 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

② 委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、第48条の規定にしたがいます。

#### (委託者の登録取消等に伴う取扱い)

第45条 委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

② 前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第48条の書面決議が否決となる場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

#### (委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱い)

第46条 委託者は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

② 委託者は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

#### (受託者の辞任および解任に伴う取扱い)

第47条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を申立てることができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、第48条の規定にしたがい、新受託者を選任します。なお、受益者は、上記によって行なう場合を除き、受託者を解任することはできないものとします。

② 委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

#### (信託約款の変更等)

第48条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行なうことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は本条に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

② 委託者は、前項の事項（前項の変更事項にあつてはその変更の内容が重大なものに該当する場合に限り、併合事項にあつてはその併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除き、以下、合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行ないます。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの

事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

③ 前項の書面決議において、受益者（委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

④ 第2項の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行ないます。

⑤ 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。

⑥ 第2項から前項までの規定は、委託者が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

⑦ 前各項の規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあって、当該併合にかかる一又は複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行なうことはできません。

#### (反対受益者の受益権買取請求の不適用)

第49条 この信託は、受益者が第42条の規定による一部解約の実行の請求を行なったときは、委託者が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、第43条に規定する信託契約の解約または前条に規定する重大な約款の変更等を行なう場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権の買取請求の規定の適用を受けません。

#### (他の受益者の氏名等の開示の請求の制限)

第50条 この信託の受益者は、委託者または受託者に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行なうことはできません。

1. 他の受益者の氏名または名称および住所
2. 他の受益者が有する受益権の内容

#### (運用報告書に記載すべき事項の提供)

第50条の2 委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書の交付に代えて、運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により受益者に提供することができます。この場合において、委託者は、運用報告書を交付したものとみなします。

② 前項の規定にかかわらず、委託者は、受益者から運用報告書の交付の請求があった場合には、これを交付するものとします。

#### (公告)

第51条 委託者が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行ない、次のアドレスに掲載します。

<http://www.nomura-am.co.jp/>

② 前項の電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公

告は、日本経済新聞に掲載します。

**(質権口記載又は記録の受益権の取り扱い)**

第52条 振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、この約款によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

**(信託約款に関する疑義の取扱い)**

第53条 この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

**(付則)**

第1条 第39条第6項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、同条同項に規定する「受益者毎の信託時の受益権の価額等」とは、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

上記条項により信託契約を締結します。

信託契約締結日 平成22年7月30日

東京都江東区豊洲二丁目2番1号  
委託者 野村アセットマネジメント株式会社

東京都千代田区大手町二丁目2番2号  
受託者 野村信託銀行株式会社

## (国内債券 NOMURA-BPI 総合 マザーファンド)

### 運用の基本方針

約款第 13 条に基づき委託者の定める方針は、次のものとします。

#### 1. 基本方針

この投資信託は、NOMURA-BPI 総合 (NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス総合) の動きに連動する投資成果を目指して運用を行ないます。

#### 2. 運用方法

##### (1) 投資対象

わが国の公社債を主要投資対象とします。

##### (2) 投資態度

① 主としてわが国の公社債に投資することにより、NOMURA-BPI 総合の動きに連動する投資成果を目指します。

② 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

##### (3) 投資制限

① 株式への投資は行ないません。

② 外貨建資産への投資は行ないません。

③ 有価証券先物取引等は約款第 14 条の範囲で行ないます。

④ スワップ取引は約款第 15 条の範囲で行ないます。

⑤ 一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等 (同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。) の利用は行ないません。

⑥ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ 10%、合計で 20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

親投資信託  
国内債券 NOMURA-BPI 総合 マザーファンド  
約款

**(信託の種類、委託者および受託者)**

第1条 この信託は、その受益権を他の投資信託の受託者に取得させることを目的とする証券投資信託であり、野村アセットマネジメント株式会社を委託者とし、野村信託銀行株式会社を受託者とします。

② この信託は、信託財産に属する財産についての対抗要件に関する事項を除き、信託法（大正11年法律第62号）（以下特段の記載があるものを除き「信託法」といいます。）の適用を受けます。

**(信託の目的、金額および追加信託の限度額)**

第2条 委託者は、金50億円を上限として受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き受けます。

② 委託者は、受託者と合意のうえ、金3兆円を限度として信託金を追加できるものとし、追加信託を行なったときは、受託者はその引き受けを証する書面を委託者に交付します。

③ 委託者は、受託者と合意のうえ、前項の限度額を変更することができます。

**(信託期間)**

第3条 この信託の期間は、信託契約締結日から第33条第1項、第33条第2項、第36条第1項、第37条第1項および第39条第2項の規定による解約の日までとします。

**(受益証券の取得申込みの勧誘の種類)**

第4条 この信託にかかる受益証券の取得申込みの勧誘は、金融商品取引法第2条第3項第2号イに掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第4条第2項第12号で定める適格機関投資家私募により行なわれます。

**(受益者)**

第5条 この信託の元本および収益の受益者は、この信託の受益証券を投資対象とする野村アセットマネジメント株式会社の証券投資信託の受託者である信託業務を営む銀行とします。

**(受益権の分割および再分割)**

第6条 委託者は、第2条第1項による受益権については、50億口を上限に、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第7条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

② 委託者は、受託者と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。

**(追加信託金の計算方法)**

第7条 追加信託金は、追加信託を行なう日の前営業日の基準価額に、当該追加にかかる受益権の口数を乗じた額とします。

② この約款において基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除した金額をいいます。

**(信託日時の異なる受益権の内容)**

第8条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

#### (受益証券の発行および種類)

第9条 委託者は、第6条の規定により分割された受益権を表示する記名式の受益証券を発行します。

② 委託者が発行する受益証券は、1口の整数倍の口数を表示した受益証券とします。

③ 受益者は当該受益証券を他に譲渡することはできません。

#### (受益証券の発行についての受託者の認証)

第10条 委託者は、前条第1項により受益証券を発行するときは、その発行する受益証券がこの信託約款に適合する旨の受託者の認証を受けなければなりません。

② 前項の認証は、受託者の代表取締役がその旨を受益証券に記載し記名捺印することによって行ないます。

#### (投資の対象とする資産の種類)

第11条 この信託において投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限るものとし、かつ、株式、出資証券、投資証券およびその他の資産でこれらの性質を有するものを除きます。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ. 有価証券

ロ. デリバティブ取引（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第14条及び第15条に定めるものに限りません。）に係る権利

ハ. 約束手形（イに掲げるものに該当するものを除きます。）

ニ. 金銭債権（イ及びハに掲げるものに該当するものを除きます。）

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. （削除）

ロ. 為替手形

ハ. （削除）

#### (有価証券および金融商品の指図範囲等)

第12条 委託者は、信託金を、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除くものとし、本邦通貨表示のものに限りません。）に投資することを指図します。

1. 国債証券

2. 地方債証券

3. 特別の法律により法人の発行する債券

4. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券を除きます。新株予約権付社債券については、会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの、ならびに会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債（総称して以下「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）に限りません。）

5. 特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）



す。)

6. 投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）

7. コマーシャル・ペーパー

8. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券の性質を有するもの

9. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）

10. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの(投資信託及び投資法人に関する法律施行規則第13条第2号イ(3)に定めるものに限る)

11. 外国の者に対する権利で前号の有価証券に表示されるべき権利の性質を有するもの

12. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

13. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）

なお、第1号から第6号までの証券および第8号の証券のうち第1号から第6号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

② 委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金

2. 指定金銭信託（前項に掲げるものを除く。）

3. コール・ローン

4. 手形割引市場において売買される手形

5. 貸付債権信託受益権であって、金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

#### (運用の基本方針)

第13条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行ないます。なお、この信託約款において、金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場を以下「金融商品取引所」といい、また、金融商品取引所を単に「取引所」という場合があり、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行なう市場ないしは当該市場を開設するものを以下「証券取引所」という場合があります。

#### (先物取引等の運用指図・目的・範囲)

第14条 委託者は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。）ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行なうことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします（以下同じ。）。

1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券（以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。）の時価総額の範囲内とします。
2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額（組入ヘッジ対象有価証券を差し引いた額）に信託財産が限月までに受取る組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券、組入貸付債権信託受益権、組入抵当証券および組入指定金銭信託の受益証券の利払金および償還金を加えた額を限度とし、且つ信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに第12条第2項第1号から第4号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

② 委託者は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるわが国の金利に係るこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行なうことの指図をすることができます。

1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象とする金利商品（信託財産が1年以内に受取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに第12条第2項第1号から第4号に掲げる金融商品で運用されているものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。）の時価総額の範囲内とします。
2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに第12条第2項第1号から第4号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、支払いプレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、且つ本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

#### **(スワップ取引の運用指図・目的・範囲)**

第15条 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用および価格変動リスクを回避するため、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行なうことの指図をすることができます。

② スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

③ スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の合計額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

④ スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が提示する価額、価格情報会社が提供する価額等、

法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って評価するものとします。

⑤ 委託者は、スワップ取引を行なうにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行なうものとします。

#### (有価証券の貸付の指図および範囲)

第16条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。

公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。

② 前項に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

③ 委託者は、公社債の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行なうものとします。

#### (保管業務の委任)

第17条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託財産に属する資産を外国で保管する場合には、その業務を行なうに十分な能力を有すると認められる金融機関と保管契約を締結し、これを委任することができます。

#### (有価証券の保管)

第18条 受託者は、信託財産に属する有価証券を、法令等に基づき、保管振替機関等に預託し保管させることができます。

#### (混蔵寄託)

第19条 金融機関または第一種金融商品取引業者等（第一種金融商品取引業者（金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者をいいます。以下同じ。）および外国の法令に準拠して設立された法人で第一種金融商品取引業者に類する者をいいます。以下本条において同じ。）から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行されたコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または第一種金融商品取引業者等が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または第一種金融商品取引業者等の名義で混蔵寄託できるものとします。

#### (一括登録)

第20条 信託財産に属する国債証券のうち振替決済にかかる国債証券については、日本銀行で保管することがあります。この場合、日本銀行においては日本銀行名義で一括登録することがあります。

#### (信託財産の登記等および記載等の留保等)

第21条 信託の登記または登録をすることができる信託財産については、信託の登記または登録をすることとします。ただし、受託者が認める場合は、信託の登記または登録を留保することがあります。

② 前項ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託者または受託者が必要と認めるときは、速やかに登記または登録をするものとします。

③ 信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる信託財産については、信託財産に属する旨の記載または記録をするとともに、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託者が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理すること

があります。

④ 動産（金銭を除きます。）については、外形上区別することができる方法によるほか、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

#### **(有価証券売却等の指図)**

第 22 条 委託者は、信託財産に属する有価証券の売却等の指図ができます。

#### **(再投資の指図)**

第 23 条 委託者は、前条の規定による売却代金、有価証券に係る償還金等、有価証券等に係る利子等およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

#### **(損益の帰属)**

第 24 条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

#### **(受託者による資金立替え)**

第 25 条 信託財産に属する有価証券について、借替がある場合で、委託者の申出があるときは、受託者は資金の立替えをすることができます。

② 信託財産に属する有価証券に係る償還金等、有価証券等に係る利子等およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託者がこれを立替えて信託財産に繰り入れることができます。

③ 前 2 項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別にこれを定めます。

#### **(信託の計算期間)**

第 26 条 この信託の計算期間は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとすることを原則とします。ただし、第 1 計算期間は平成 14 年 7 月 25 日から平成 15 年 3 月 31 日までとします。

② 前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日（以下本項において「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、第 3 条に定める信託期間の終了日とします。

#### **(信託財産に関する報告)**

第 27 条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行ない、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

② 受託者は、信託終了のときに最終計算を行ない、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

#### **(信託事務の諸費用)**

第 28 条 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

#### **(信託報酬)**

第 29 条 委託者および受託者は、この信託契約に関し信託報酬を収受しません。

#### **(利益の留保)**

第 30 条 信託財産から生ずる利益は、信託終了時まで信託財産中に留保し、期中には分配を行ないま

せん。

#### (追加信託金および一部解約金の計理処理)

第31条 追加信託金または信託の一部解約金は、当該金額と元本に相当する金額との差額を、追加信託金にあつては追加信託差金、信託の一部解約にあつては解約差金として処理します。

#### (信託の一部解約)

第32条 委託者は受益者の請求があつた場合には、信託の一部を解約します。

② 解約金は、一部解約を行なう日の前営業日の基準価額に、当該解約にかかる受益権の口数を乗じた金額とします。

#### (信託契約の解約)

第33条 委託者は、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

② 委託者は、この信託の受益証券を投資対象とすることを信託約款において定めるすべての証券投資信託がその信託を終了させることとなる場合には、この信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

③ 委託者は、前2項の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

④ 前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

⑤ 前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、第1項の信託契約の解約をしません。

⑥ 委託者は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

⑦ 第4項から前項までの規定は、第2項の規定に基づいてこの信託を解約する場合には適用しません。

#### (償還金の委託者への交付と支払いに関する受託者の免責)

第34条 受託者は、信託が終了したときは、償還金（信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。）の全額を委託者に交付します。

② 受託者は、前項の規定により委託者に償還金を交付した後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

#### (償還金の支払いの時期)

第35条 委託者は、受託者より償還金の交付を受けた後、受益証券と引換えに、当該償還金を受益者に支払います。

#### (信託契約に関する監督官庁の命令)

第36条 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

② 委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、第40条の規定にしたがいます。

#### (委託者の登録取消等に伴う取扱い)

第37条 委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

② 前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第40条第4項の規定に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

#### (委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱い)

第38条 委託者は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

② 委託者は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

#### (受託者の辞任および解任に伴う取扱い)

第39条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を請求することができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、第40条の規定にしたがい、新受託者を選任します。

② 委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

#### (信託約款の変更)

第40条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

② 委託者は、前項の事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

③ 前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

④ 前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、第1項の信託約款の変更をしません。

⑤ 委託者は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

#### (反対者の買取請求権)

第41条 第33条に規定する信託契約の解約または前条に規定する信託約款の変更を行なう場合にお

いて、第 33 条第 4 項または前条第 3 項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己の有する受益証券を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。この買取請求権の内容および買取請求の手續に関する事項は、第 33 条第 3 項または前条第 2 項に規定する公告または書面に付記します。

**(利益相反のおそれがある場合の受益者への書面の交付)**

第 42 条 委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第 13 条第 1 項に定める書面を交付しません。

**(運用報告書)**

第 43 条 委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第 14 条に定める運用報告書を交付しません。

**(公告)**

第 44 条 委託者が行なう公告は、電子公告の方法により行ない、次のアドレスに掲載します。

<http://www.nomura-am.co.jp/>

② 前項の電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

**(信託約款に関する疑義の取扱い)**

第 45 条 この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

上記条項により信託契約を締結します。

信託契約締結日 平成 14 年 7 月 25 日

東京都江東区豊洲二丁目 2 番 1 号  
委託者 野村アセットマネジメント株式会社

東京都千代田区大手町二丁目 2 番 2 号  
受託者 野村信託銀行株式会社